

# 八面山振興計画



中津市  
令和8(2026)年3月





■八面山と田園



■箭山権現石舞台



■修験の滝の水瀑



■夕日を望む丘



■しょうけの鼻から由布岳方面を望む



■ 天空の道展望所



■ 鷹石・犬石



■ 和与石



■ 東側展望所



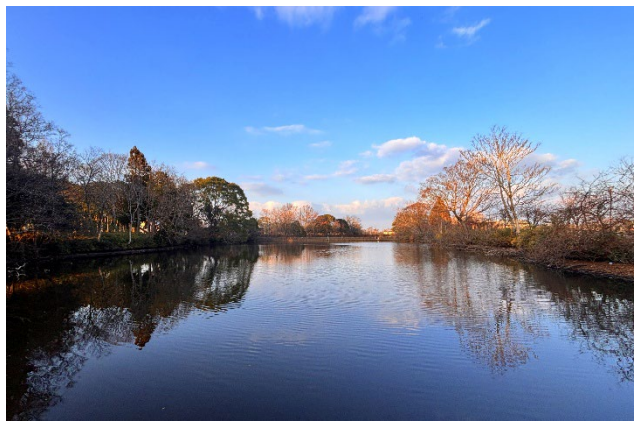
■ 地球が丸く見える丘から中津平野を望む



■冬の八面山と田園



■八面山平和公園



■東夫婦池



■八面山荘



■巨石群



■第5展望地から見える小池



■しょうけの鼻



■八面山交流施設野外音楽堂



■神護寺の涅槃像



■野外音楽堂付近の桜



# 【目次】

## 基本編

<b>1章 計画の前提</b> .....	<b>1</b>
1. 計画の目的と対象.....	1
2. 計画の背景と八面山を取り巻く概況.....	2
3. 計画の位置付けと役割.....	6
<b>2章 八面山における検討要点と課題</b> .....	<b>8</b>
1. 八面山における検討要点.....	8
2. 八面山における課題.....	13
<b>3章 八面山が目指すべき姿</b> .....	<b>14</b>
1. 将来像と基本方針.....	14
2. フィールドミュージアム.....	15
3. 八面山の価値を語るストーリーとエピソード.....	18
4. 3つの重点エリア及びその他可能性のあるエリア.....	29
5. 八面山が目指す全体像.....	30
<b>4章 エリア別の取組み方針</b> .....	<b>31</b>
1. 山望部エリア.....	31
2. 山麓部エリア.....	34
3. 山上部エリア.....	37
4. その他可能性のあるエリア.....	40
<b>5章 今後の展開方向</b> .....	<b>43</b>
1. 広域への展開.....	43
2. 地域の「暮らし」・「なりわい」・「しごと」とを結び付ける展開.....	44



---

## 実施編

<b>6章 八面山振興に向けた実施施策</b> .....	<b>45</b>
1. 森林資源を未来へつなぐ施策（八面山森林整備計画） .....	45
2. 歴史文化を次世代へつなぐ施策 .....	63
3. 八面山と人々をつなぐ施策 .....	68
4. 施策一覧 .....	79
5. 年間目標 .....	80
6. 計画の進行管理（PDCA サイクルの推進） .....	80
<b>7章 実現化へ向けて</b> .....	<b>81</b>
1. 短・中・長期の取組み施策 .....	81
2. 実現化へ向けた実施体制と役割 .....	82



---

## 資料編

<b>八面山活性化プロジェクト委員会</b> .....	<b>86</b>
1. 委員会名簿 .....	86
2. 委員会での検討事項 .....	87
<b>用語集</b> .....	<b>89</b>





基本編



## 1. 計画の目的と対象

### (1) 計画の目的

八面山の自然、景観、歴史、文化等を次世代へつなぎ、中津市の「シンボルの山」としていつまでも住民の郷土愛を育む山であり続けるための将来像や基本方針等を示すことを目的として、地域住民や関係事業者等による官民連携のもと「八面山活性化プロジェクト委員会(以下、「委員会」)」を発足しました。委員会では、50年後、100年後の将来を見据えた八面山のあり方と「持続可能な山づくり・人づくり」を実現するための方向性を示す「八面山活性化基本構想(以下、「基本構想」)」を定めました。その中で、「人と地域をつなぎ、未来へつなぐ八面山」の将来像を実現するための基本理念や取組みの方向性を示しています。

「八面山振興計画(以下、「本計画」)」では、八面山を「みんなの八面山」として再認識し、八面山を核とした地域振興・観光振興と、次なる100年にわたって持続的に山の恵みを生み続けられるような姿の構築を目指すとともに、八面山に関わる地域の人物を増やし、素晴らしい姿のまま未来へつなぐための方策を具体化することを目的とします。

### (2) 計画対象範囲

本計画では、次世代への「継承」で終わるのではなく「永続」させていくことを目指すため、三光地域、中津地域の一部、本耶馬溪地域の一部を含めたエリアを計画対象範囲として設定します。また、本計画における「八面山」は、下記に示す計画対象範囲一体を指します。



## 2. 計画の背景と八面山を取り巻く概況

### (1) 計画の背景

八面山は、文化庁が認定する日本遺産「やばけい遊覧」のストーリーにおける構成要素として、歴史的な魅力を持つだけでなく、豊かな自然、景観、アクティビティ等、中津市のシンボルとして住民になじみが深い山です。私たちは古来より八面山から多くの恵みを受し、暮らしを営み、守り育て、伝統や文化を育んできましたが、時代の変化とともに、多くの恵みを生み出してきた人と山との関わりも大きく変化し、生業や暮らしの中でのつながりが希薄になってきています。また、エネルギー源としての需要の減少、ライフスタイルの変化、地域住民の高齢化等の要因により山に入ることが少なくなり、八面山の景観や環境の維持、歴史・文化の継承が困難な状況となっています。

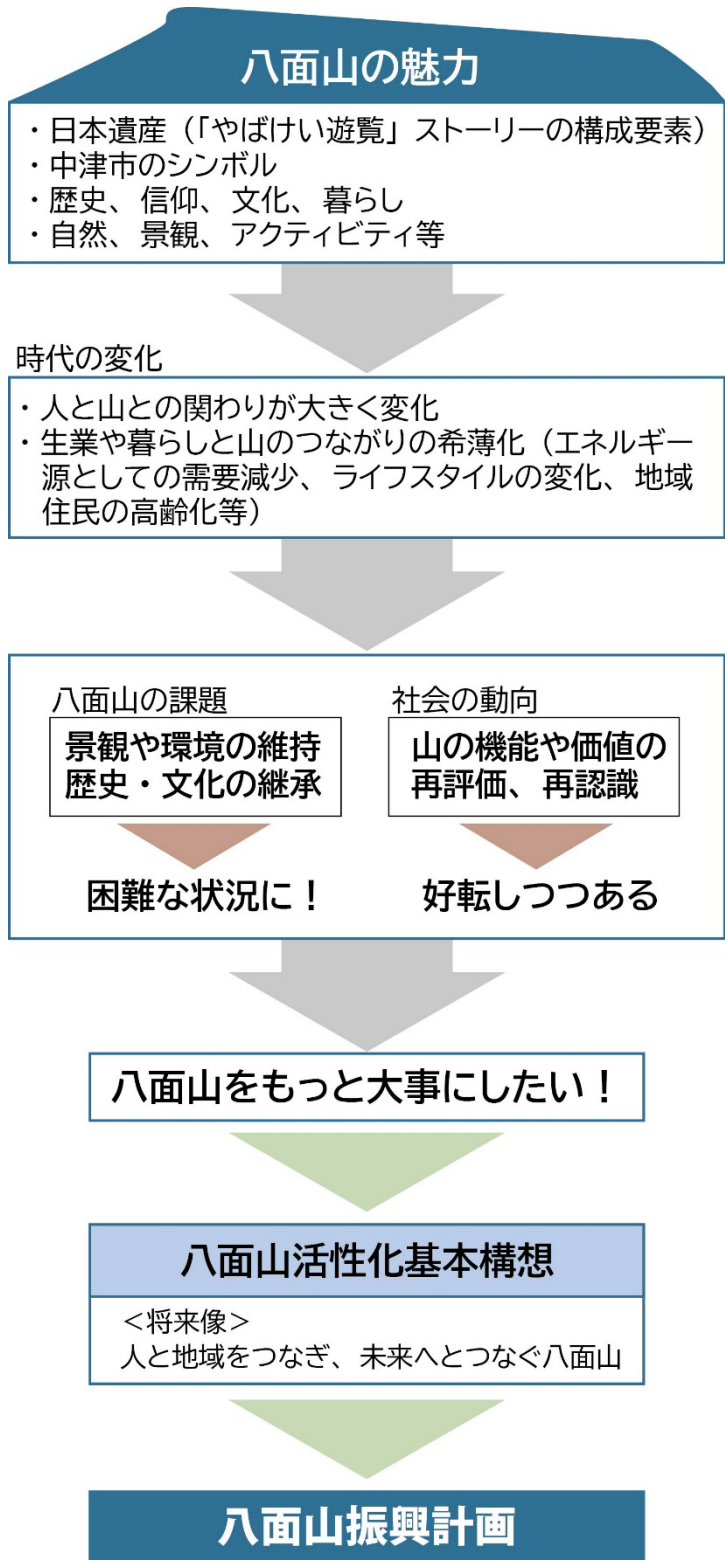
一方近年においては、様々な視点から山の機能や価値が再評価・再認識されており、地球温暖化への危機意識の高まりから、山の二酸化炭素吸収機能が注目され、カーボン・オフセット等への活用も始まっています。生物多様性の保全や資源循環等の観点、健康志向の高まりを背景とした、運動や癒やしの場としての森林空間の活用、環境教育による環境保全についての理解と関心の深化等、山に関する動きがみられます。

こうした機運の中、永い時代を経て培われた人々と自然や山とのつながりが、現代では希薄化し八面山の自然や歴史的・文化的な財産が荒れはじめている現状が改めて見えてきました。

本計画策定の根底には、この厳しい現実を前に湧き上がる、「自分や先人を生かしてくれた八面山をもっと大事にしたい」という使命感があります。

本計画に先立って策定された基本構想では、「八面山を未来へつなぐ」ための基本理念として、第一に「森林」、第二に「歴史・文化」、第三に「人の営み」を大事にすることを掲げています。

第一の「森林」を大事にするにあたっては、環境保全や景観向上のための適切な間伐と広葉樹への植樹等を進め、自然環境に配慮した持続可能な山の維持管理のサイクルについて考えていくことが必要です。また、第二の「歴史・文化」を大事にするにあたっては、市民の誇りでもある豊富な歴史文化の価値を理解して広く永く次世代へ伝えることが必要です。特に和与石の伝説に見られるような神仏習合、平和公園に見られる日米の兵士の慰霊をはじめ、対立する者同士が融和する平和の象徴としての要素も大切です。さらに、第三の「人の営み」を大事にするにあたっては、単なる観光振興にとどまらず、八面山を大切に守ってきた人々を中心としながらも、八面山に関わる人々のすそ野を中津平野にもっと広げていくことが必要です。子どもたちに八面山に関する知識や体験を与え、将来も地域に誇りを持って活躍してほしいという願いが込められています。そして、成長した子どもたちが八面山の魅力を各地へ発信し、いつか中津に戻って地域の誇りである八面山を次世代へ伝える存在となることを期待しています。

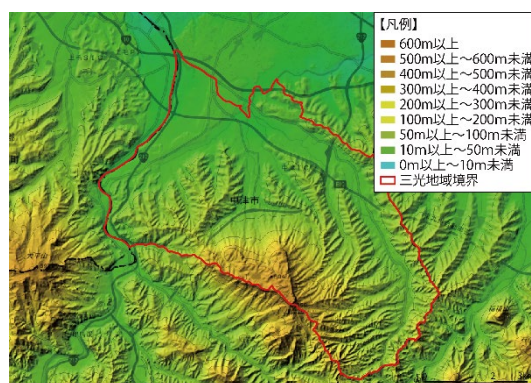


■計画の背景の概念図

## (2) 八面山の概況

### 1) 地勢

八面山は、三光地域と本耶馬溪地域北部にまたがり、耶馬溪溶岩台地の最北東端に位置する標高 659.4m の山です。航空母艦のような形をした『大メサ地形』を特徴としています。



■八面山の地勢

資料：国土地理院

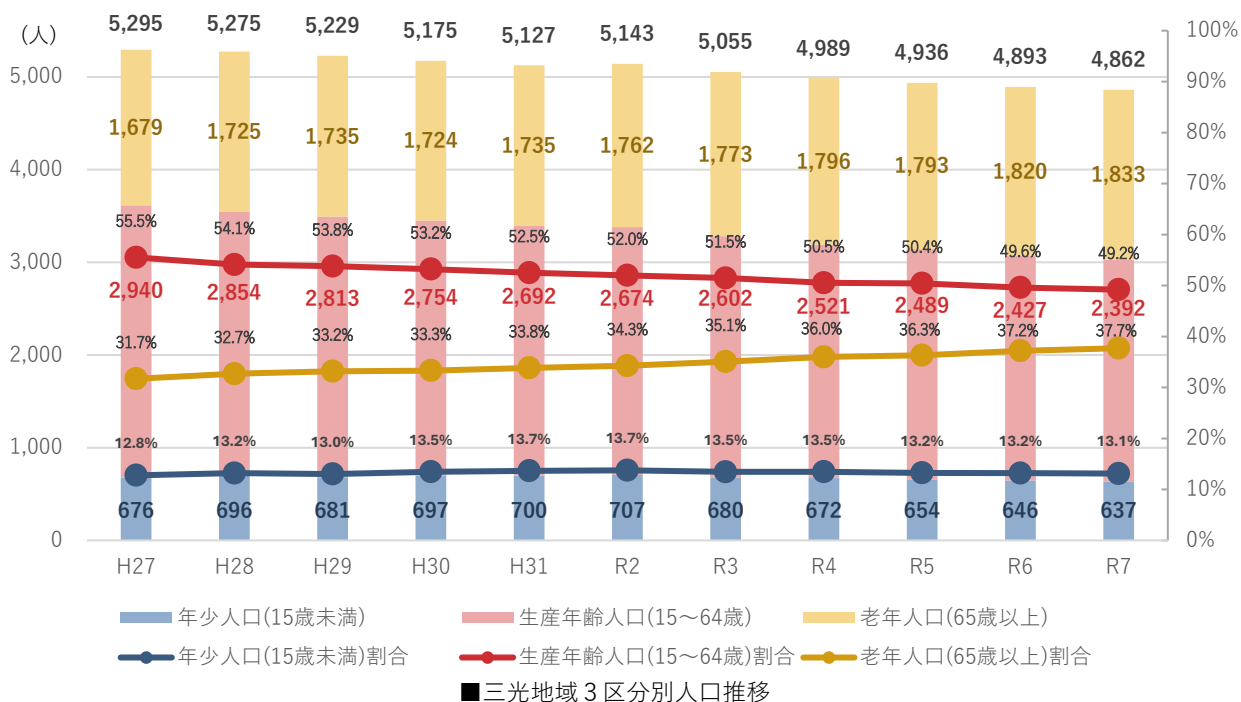
### 2) 三光地域の成り立ち

昭和 29(1954)年 3 月、深秣村、山口村、真坂村が合併し、三村融和の発展を祈願して「三和村」として発足しました。その後、住民公募を経て「三光村」へと改称され、平成 17(2005)年 3 月に中津市と合併し現在の三光地域となっています。

### 3) 人口

三光地域の令和 7(2025)年の人口は 4,862 人であり、過去 10 年間の推移を見ると、平成 27(2015)年の 5,295 人を最多として、その後はおおむね減少傾向で推移しています。

3 区分別人口の割合は、年少人口が約 13%、生産年齢人口が約 49～56%、老年人口が約 32～38% を占めており、近年は生産年齢人口が微減、老年人口が微増、年少人口はほぼ横ばいで推移しています。



資料：住民基本台帳（各年 4 月時点）

#### 4) 道路

地域北側の東西に東九州自動車道、地域中央の南北に地域高規格道路の中津日田道路が走っています。中津日田道路は、中津港と日田地域を結ぶ延長約 55km の道路であり、東九州自動車道と大分自動車道を連結することで広域ネットワークが生まれ、新たな観光周遊ルートの形成や災害に強いネットワークの構築に寄与します。そのうち中津日田道路の三光地域の区間内については、令和 6（2024）年 3 月の田口 IC～青の洞門・羅漢寺 IC 間の開通により全線開通しています。

#### 5) 歴史・景観

八面山には伝説・信仰にちなむ巨石や、遺跡・遺物をはじめ、様々な文化財が豊富に点在しています。さらに、八面山は古来より修験道に関係する山岳信仰が盛んであった霊山でもあり、頂上付近の箭山神社には八幡神（神功皇后、応神天皇、比売神）が鎮座しています。

昭和 11（1936）年には名勝耶馬溪に追加指定され、昭和 25（1950）年に耶馬日田英彦山国定公園に指定されています。これらの特徴を持った八面山は、中津市の代表的景観における象徴といえ、「山と川の恵みと人々の暮らしにまつわる風景」、「信仰の文化と歴史にまつわる風景」、「地域・人々のコミュニティにまつわる風景」等の多様な風景がみられます。いにしえからの景観をとどめる風土を基盤とした歴史文化が息づいており、八面山を取り巻く豊かな自然と先人の叡智、そして祈りの歴史が重なり合い、八面山ならではの神聖な景観を形成しています。



■八面山と田園風景

#### 6) 災害履歴

三光地域における過去の主な災害については、以下に示す通りです。

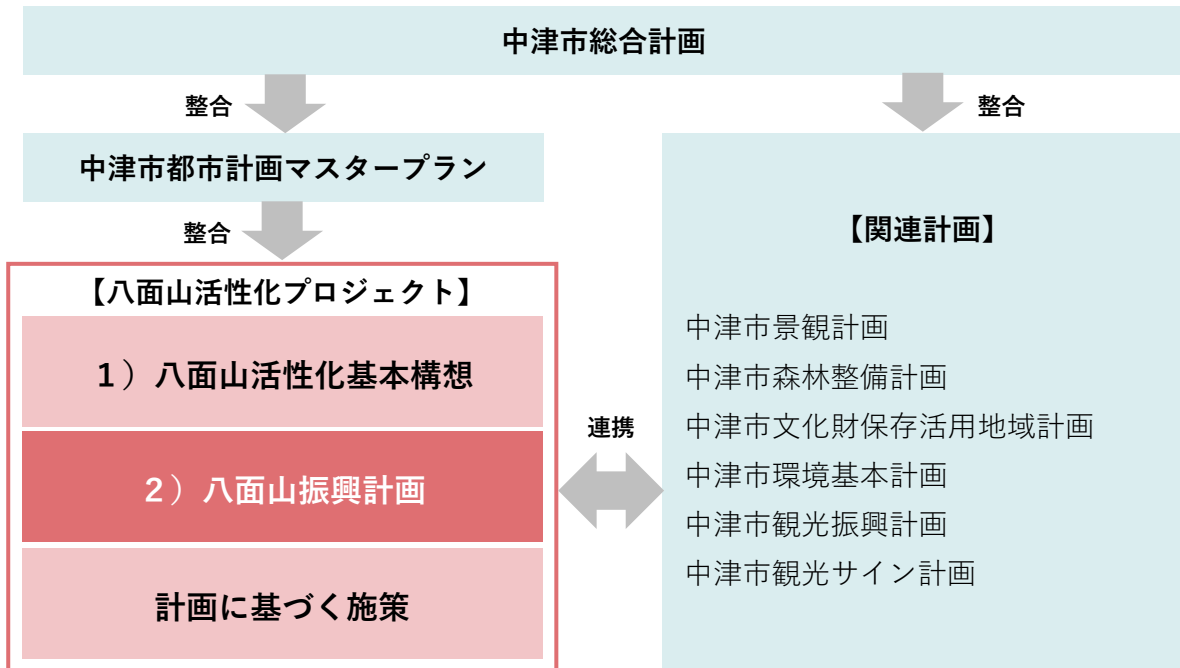
発生年	災害	発生年	災害
明治 26（1893）年	台風 2 号	昭和 26（1951）年	台風 2 号・台風 15 号
大正 7（1918）年	台風 5 号	昭和 55（1980）年	昭和 55 年 8 月豪雨
大正 12（1923）年	台風 3 号	平成 3（1991）年	台風 19 号
昭和 6（1931）年	昭和 6 年 7 月豪雨 大池決壊	平成 11（1999）年	台風 18 号
昭和 15（1940）年	台風 7 号	平成 16（2004）年	平成 16 年 6 月豪雨
昭和 16（1941）年	台風 25 号	平成 24（2012）年	平成 24 年 7 月 九州北部豪雨災害
昭和 20（1945）年	台風 16 号（枕崎台風）		

資料：大分県災害データアーカイブ

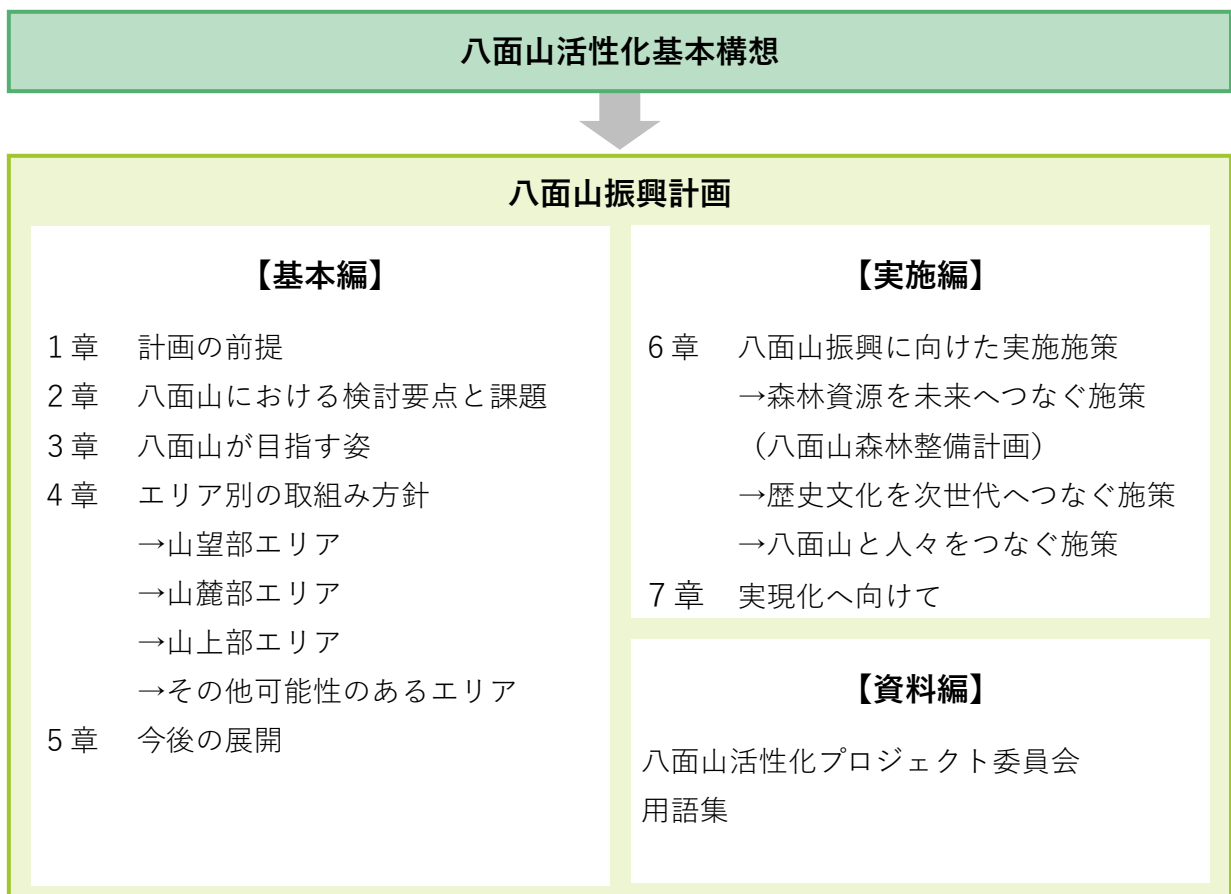
### 3. 計画の位置付けと役割

#### (1) 計画の位置付け

本計画は、令和6（2024）年度に策定された「八面山活性化基本構想」における、将来像、基本理念、基本方針の実現に向け、より詳細な地域分析及び具体的な施策検討を行います。また、中津市全体における上位計画である「中津市総合計画」、「中津市都市計画マスタープラン」との整合及び各種関連計画等との連携を図ります。



#### (2) 計画の構成



### (3) 計画の運用方針

本計画は、策定をもって完結するものではなく、行政、地域住民、民間事業者といった多様な主体が、八面山への想いや創意工夫を具現化するための「共通の羅針盤」として活用されることも目的とします。各主体がそれぞれの役割に基づき、以下のように本計画を運用します。

#### 1) 地域住民による主体的な活用

##### ①活動の指針と連携の創出

地域が抱える諸課題や「実現したい活動」を本計画の施策と紐付けることで、行政や関係機関との円滑な合意形成及び事業推進の足がかりとします。

##### ②地域自治の活性化

予定されている事業展開を把握し、自治会や個人レベルで取り組むべき活動の検討材料として活用します。

#### 2) 行政職員による施策の推進

##### ①政策の一貫性と継続性の確保

異動等で新たに配属された職員が、策定の経緯や優先順位を正確に把握するための指針とし、一貫性のある行政サービスを提供します。

##### ②円滑な事業執行と関係部署間の連携

将来的な施策展開の見通しを共有し、予算編成や事前準備を計画的に進めるとともに、部局を越えた連携体制の構築に役立てます。

#### 3) 民間主体・活動家による参画

##### ①地域ニーズの的確な把握

三光地域の現状と将来目標を把握し、地域特性に合致した持続可能な事業活動の展開に役立てます。

##### ②官民連携ネットワークの構築

自身の活動方針と本計画の方向性を合致させることで、行政や地域コミュニティとの新たなネットワークを構築し、活動の実現性を高めます。

### 1. 八面山における検討要点

#### (1) 上位・関連計画からみた検討要点

##### 1) 第五次中津市総合計画（令和4（2022）年改訂）

- 森林空間の多様な活用方法を検討するとともに、森林を社会全体で守り・育てるという機運の向上、木や森林に親しむ取組みを進めることとしています。
- 文化財や史跡・施設の保存・活用を推進するとともに、誰もが中津の歴史や文化に身近に触れることができる取組みを進めることとしています。

##### 2) 中津市都市計画マスタープラン（平成29（2017）年策定）

- 八面山の自然景観は市民の心のよりどころとして親しまれていることから乱開発を防ぐとともに、八面山の山林における生態系・景観の面から維持・保全を進めることとしています。

##### 3) 中津市景観計画（平成22（2010）年策定）

- 林野は、伐採後に適切な処置を行い、観光地としての景観を損なわないように努めるとともに、来訪者にわかりやすいように景観に配慮した案内看板等の整備を図ることとしています。
- 農村地域ならではの季節を感じさせる風物詩を大切にする景観を保全するとともに、集落にみられる神社やお堂、祭事等は、地域で継承していくよう努めることとしています。

##### 4) 中津市森林整備計画書（令和6（2024）年策定）

- 多様な機能を有する森林において、適切な保育・間伐の促進、市民ニーズ等に応じた広葉樹の導入、美的景観の維持・形成に配慮した森林整備を推進することとしています。

##### 5) 中津市環境基本計画（令和6（2024）年改訂）

- 里地里山の保全活用を目標とし、草地、ため池、人工林の適正な管理の支援、里地里山の自然を活用した自然体験の推進、里地里山の管理の担い手確保に努めることとしています。

##### 6) 中津市文化財保存活用地域計画（令和6（2024）年認定）

- 名勝指定の再評価を行い、景観保全を図るとともに、古からその地に流れる先人たちの Spirits を地域住民が発信し、未来へつなげる取組みを推進することとしています。

##### 7) 中津市観光振興計画（令和4（2022）年策定）

- 体験型プログラムと宿泊が一体となった農家民泊の推進、観光における人材確保・育成に取り組むとともに未発掘の観光人材の掘り起こしを行うこととしています。

#### 上位・関連計画からみた検討要点

- 良好な森林空間の維持・活性化や美しい景観保全・形成に向け、森林の適切な保育・間伐を行い、みんなで森林を育てる意識を共有するため、森林に親しむ取組みを検討する必要があります。
- 地域の歴史文化資源を未来へ継承するため、誰もが資源に触れることができる取組みを検討する必要があります。
- 上記の取組みを推進するため、人材の育成や新たな人材を発掘する必要があります。



## (2) 八面山活性化基本構想からみた検討要点

### 1) 基本理念1「守り、育て、未来へつなぐ」～森林資源の適切な保存整備と未来へつなぐ仕組みの構築～

- 主伐期を迎えた森林資源の活用と、伐採後の針広混交林への転換により、生物多様性の保全、防災・減災、GX（グリーントランスフォーメーション）の推進等の実現を目指します。
- 美しい景観を保ち、八面山への来訪者に安全で快適な環境を提供します。
- 八面山の活用と保全に対する市民や地域、企業等の理解を深め、協働による山づくり・保全・活用を推進します。

### 2) 基本理念2「学び、伝え、歴史・文化をつなぐ」～古くから伝わる歴史文化資源を次世代へつなぐ～

- 貴重な文化財や信仰の跡地の保護・保全に努め、八面山の様々な歴史・文化を継承します。
- 八面山の森、巨石、樹木等を神々とする自然崇拜の信仰、山岳修業の場（修験）等の歴史文化遺産の意義や価値の理解を広め、掘り起こしに向けた取組みを推進します。
- 多様で豊かな歴史文化を情報発信し、市民の郷土愛の高揚を図ります。

### 3) 基本理念3「集い、親しみ、地域と人をつなぐ」～価値を高め、資源を生かした野外活動や体験活動等、山に親しむ機会を創出する～

- 歴史・文化・風土に即した統一感を持ったブランディングに沿った整備を推進します。
- 八面山を類型区分し、自然環境や景観の再生・保全、独自の体験価値の創造を推進します。
- 施設の整備・活用方針を定め、地域住民や来訪者の交流の場・拠点づくりの場として活用します。
- 学校教育と連携しつつ、子ども達が山に親しむ機会を増やす環境教育の推進等により感性豊かな心の発達とふるさとへの誇りと愛着を持つことを目指します。
- 様々な体験活動、レクリエーション、イベント等を通じた山に親しむ機会を創出します。
- 観光誘客につながるよう八面山の魅力を市内外への発信を推進します。

#### 八面山活性化基本構想からみた検討要点

- 森林・景観の観点から、伐期を迎えた八面山の持続可能な山づくりにおける整備方針と、美しい景観を保全するための環境整備を検討する必要があります。
- 歴史文化の観点から、地域資源の魅力や価値を再定義するとともに、既存資源を継承し続けるための地域課題の解消を目指す必要があります。
- 地域振興の観点から、地域の魅力や活動内容に関する情報発信方法と、各種施設・資源をより効果的に活用するための方針を検討する必要があります。
- 多くの人々に「みんなの八面山」として再認識してもらうため、郷土愛の育成や山に関する知識醸成に向けた教育、八面山に親しむことができる機会の創出等を検討する必要があります。

### (3) 八面山に対する人々の「想い」からみた検討要点

#### 1) 八面山活性化プロジェクト委員

- 今後の八面山において、かつての自然をよみがえらせることが重要であり、親水性を感じることができる山に戻してもらいたいという意見が挙げられました。
- 八面山は、観光客を呼び込みつつ、地域住民が日常的に親しめる憩いの場となる山を目指したいという意見が挙げられました。
- 地域における事業・活動の継続的な実施に向けて、地域と八面山を継続的に結びつけるための体制づくりや利益・生業創出のための仕組みづくりが必要であるという意見が挙げられました。
- 歴史文化を次世代へと継承するため、八面山における価値の再確認や愛着心を育む必要があるという意見が挙げられました。
- 各種施設は、山の風景になじむような統一したデザインが望ましいという意見が挙げられました。

#### 2) 地元関係者ヒアリング

- 八面山を材木用としての山だけではなく、四季折々で姿が移り変わる広葉樹への植生転換を行うことで、天然の水がめとしての役割を取り戻してほしいという意見が挙げられました。
- 八面山における利活用として、既存施設の有効活用やイベントの多様化を行うとともに、地域と活動団体の連携や情報発信の強化が必要であるという意見が挙げられました。
- 八面山及び下毛原台地は八幡信仰（神仏習合）発祥の地とされ、八面山は地下水が豊富であったため下毛原台地の水がめの役割を担っており、高台にもかかわらず人々が生活することができた過去があるため、この水がめとしての役割を取り戻す必要があるという意見が挙げられました。
- 地域の担い手不足解消に向け、地元の子どもたちや地域おこし協力隊等が、継続的に地域に関わることができるような仕組みづくりが必要であるという意見が挙げられました。

#### 3) 他計画アンケート調査

- 中津市景観計画の101ページに記載された「美しいまちづくりに関する市民アンケート」設問3の集計結果では、好きな場所・重要な場所として、中津城に次ぐ2番目に八面山が挙げられており、多くの地域住民から愛される中津市の象徴といえます。
- 同じく中津市景観計画策定時に実施された「あなたが選ぶ中津景観百選」において、八面山のすそ野に広がるコスモス園や大池、八面山からみた夜景やしょうけの鼻からみた耶馬溪等が挙げられており、八面山が中津の景観を表する要素の一つとされています。

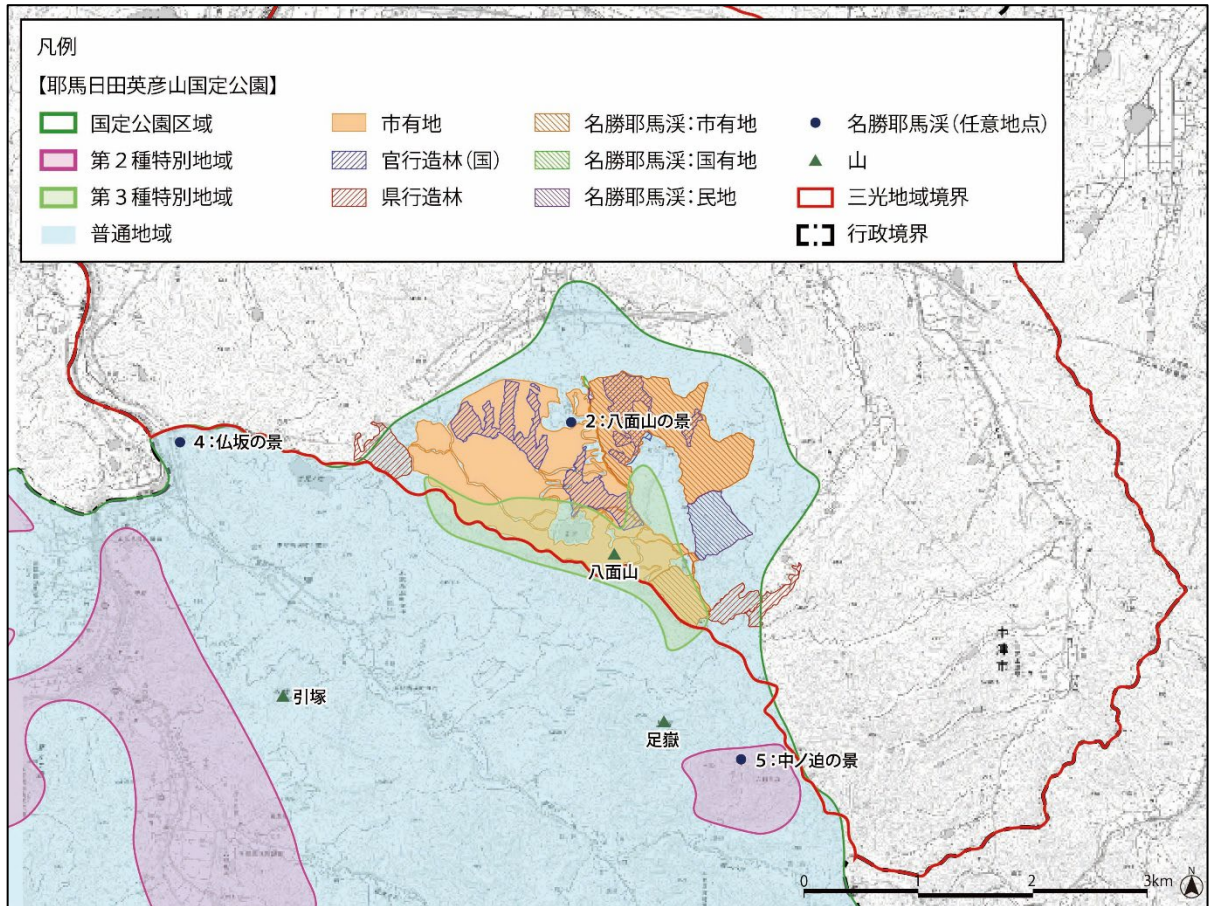
#### 八面山に対する人々の「想い」からみた検討要点

- 八面山は多くの地域住民から愛される、中津市を象徴する山であることから、八面山が有する価値の再確認を行い、その価値が次世代へと継承されるよう、愛着心を醸成するための取組みや、八面山の自然豊かな景観形成・保全の取組みを検討する必要があります。
- 八面山の森林整備の方向性について、かつての八面山の姿である、人々の生活を支える保水力のある山としてよみがえらせることを踏まえた樹種選定等を検討する必要があります。
- 地域の担い手不足解消や事業・活動の継続的な実施に向け、継続的に地域に関わることができる体制づくりや利益・生業創出のための仕組みづくりを検討する必要があります。

#### (4) 法規制・条例等からみた検討要点

##### 1) 耶馬日田英彦山国定公園・森林の管轄区分等

- 八面山を含む広範囲にわたり、耶馬日田英彦山国定公園区域が指定されており、自然公園法施行規則において、木竹の伐採や植栽、工作物の設置や広告物等の設置等に対する規制基準を順守する必要があります。
- 八面山の一部は、国が管理する官行造林（国）や県が管理する県行造林の区域が含まれており、これらの区域内にて伐採や開発等の事業を実施する場合は、管轄機関との事前協議や許可等の届出が必要となります。



■八面山における法規制等の指定状況 資料：中津市景観計画（国定公園）

##### 2) 中津市景観条例・中津市景観形成基準

- 中津市景観条例に基づき、中津市全域において、大規模な行為・開発等を行う際には届け出が必要となっており、工作物等の配置・規模・意匠、樹木の伐採・移植等の景観形成基準が定められています。

法規制・条例等からみた検討要点
<ul style="list-style-type: none"> <li>●八面山の森林整備の方向性や具体的な施策の検討にあたり、実行時に支障が生じることのないよう、各種法規制や条例等に留意する必要があります。</li> </ul>

## (5) 検討要点のまとめ

### 上位・関連計画からみた検討要点

- 良好な森林空間の維持・活性化や美しい景観保全・形成に向け、森林の適切な保育・間伐を行い、みんなで森林を育てる意識を共有するため、森林に親しむ取組みを検討する必要があります。
- 地域の歴史文化資源を未来へ継承するため、誰もが資源に触れることができる取組みを検討する必要があります。
- 上記の取組みを推進するため、人材の育成や新たな人材を発掘する必要があります。

### 八面山活性化基本構想からみた検討要点

- 森林・景観の観点から、伐期を迎えた八面山の持続可能な山づくりにおける整備方針と、美しい景観を保全するための環境整備を検討する必要があります。
- 歴史文化の観点から、地域資源の魅力や価値を再定義するとともに、既存資源を継承し続けるための地域課題の解消を目指す必要があります。
- 地域振興の観点から、地域の魅力や活動内容に関する情報発信方法と、各種施設・資源をより効果的に活用するための方針を検討する必要があります。
- 多くの人々に「みんなの八面山」として再認識してもらうため、郷土愛の育成や山に関する知識醸成に向けた教育、八面山に親しむことができる機会の創出等を検討する必要があります。

### 八面山に対する人々の「想い」からみた検討要点

- 八面山は多くの地域住民から愛される、中津市を象徴する山であることから、八面山が有する価値の再確認を行うとともに、その価値が次世代へと継承されるよう、愛着心を醸成するための取組みや、八面山の自然豊かな景観形成・保全の取組みを検討する必要があります。
- 八面山の森林整備の方向性について、かつての八面山の姿である、人々の生活を支える保水力のある山としてよみがえらせることを踏まえた樹種選定等を検討する必要があります。
- 地域の担い手不足解消や事業・活動の継続的な実施に向け、継続的に地域に関わることができる体制づくりや利益・生業創出のための仕組みづくりを検討する必要があります。

### 法規制条例等からみた検討要点

- 八面山の森林整備の方向性や具体的な施策の検討にあたり、実行時に支障が生じることのないよう、各種法規制や条例等に留意する必要があります。

### 検討要点のまとめ

- 美しい景観形成や人々の生活を支える保水力のある八面山の実現に向け、適切な森林環境の整備やみんなで山を育てる取組みによる持続可能な山づくりを目指すとともに、各種法規制や条例に留意した施策を検討する必要があります。
- 地域の各種施設や歴史文化資源を未来へ継承するため、魅力や価値を多くの人々が理解・共有し、その施設・資源活用のための取組みや情報発信の手法等を検討する必要があります。
- 八面山が中津を象徴する山であることの価値を再確認し、その価値が地域振興において継続的に発揮されるよう、郷土愛の育成や地域に関わり続けるための体制づくり、利益・生業創出のための仕組みづくりや山に関する知識醸成を検討する必要があります。

## 2. 八面山における課題

各種計画や地域住民の意向等からみた検討要件を踏まえ、八面山における課題を以下の通り整理します

課題1	<b>八面山が有する価値の再確認による郷土知識・愛着心の醸成</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●地域住民や特に子どもたちが、八面山の自然や歴史文化を深く理解することでその価値を再確認し、誇りを持って次世代へ語り継ぐための取組みが必要です。</li></ul>
課題2	<b>地域に暮らし続けるための利益・生業の創出</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●水・緑の資源や農産物、歴史文化資源等の各種地域資源を大切に保全するとともに、これらの資源を地域活性化に向けた様々な取組みにおいて積極的に活用することにより、持続的な地域経済への還元が可能となる生業の創出が必要です。</li></ul>
課題3	<b>自然本来が有する機能の保全</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●人工林の適切な管理により、豊かな自然環境の保全や景観形成、八面山固有の植生・生物多様性の確保が必要です。</li><li>●土砂災害対策や水源涵養機能の向上により、自然本来が有する保水機能を取り戻すための取組みが必要です。</li></ul>
課題4	<b>自然・歴史文化資源の保全・活用</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●八幡信仰をはじめとした、多様な歴史文化資源について、その価値を次世代へつなぐための保全を図るとともに、地域活性化に向けた活用に関する取組みが必要です。</li><li>●来訪者が山の奥深い魅力を十分に享受できるよう、各種地域資源間を結ぶ動線の確保による回遊性の向上が必要です。</li></ul>
課題5	<b>次世代へつなぐための体制構築</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●伝統行事や信仰の跡地等の清掃を支えてきた地元組織の高齢化・過疎化が進む中で、地域の文化を次世代へつなぐための仕組みが必要です。</li><li>●様々な地域活動を継承するため、八面山にとどまらず、周辺地域や外部専門家、多様な主体との組織的な協力体制の構築が必要です。</li></ul>
課題6	<b>発信力の向上</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●八面山の全体像や統一されたブランドイメージの構築により、地域が有する多様な魅力や各種情報の発信力向上が必要です。</li></ul>

### 1. 将来像と基本方針

#### (1) 将来像の展開

「八面山活性化基本構想」において掲げる将来像は、「人と地域をつなぎ、未来へとつなぐ八面山」としています。本計画は、基本構想で示された将来像を実現するため、より具体的な方針と施策を検討するものです。八面山が目指すべき姿を明らかにするため、基本構想の将来像を踏まえるとともに本計画における将来像として展開します。

#### 【八面山振興計画における将来像】

森・歴史・人が響き合い、次世代の誇りを育む八面山  
～地域まるごと博物館として未来へ継承する～

#### (2) 基本方針

本計画における将来像を実現するため、基本方針を以下の通り設定します。

##### 基本方針 1 豊かな自然を守り・育むことによる、親水性のある持続可能な山づくり

- 本格的な林業（木材生産）を目的とするのではなく、自然が持つ防災機能や美しい景観を守り、多様な動植物が息づく「環境保全型の山づくり」を目指します。
- 広葉樹の割合を増やすとともに、針葉樹と広葉樹が混交する森へと転換を図ることで、豊かな湧き水と生き物たちの命を育む自然環境の再生を目指します。
- 地域住民や行政、企業等、多様な主体が関わることによる、持続可能な山づくりを目指します。

##### 基本方針 2 回遊ネットワークの構築による、地域を五感で楽しむことができる環境づくり

- 八面山の自然や歴史が体感できる回遊ルートを整理し、散策や周遊を快適に楽しむことができる環境づくりを目指します。
- 回遊ルートの要所において、アクティビティや憩いの中心となる場所の機能を充実させ、訪れる人がより便利で安全に楽しむことができる環境づくりを目指します。

##### 基本方針 3 アイデンティティの確立による、地域を越え次世代へとつながる人づくり

- 周辺の地域や様々な機関とのネットワークを広げ、多くの人々が八面山と関わるきっかけを創造し、魅力を発信することで、訪れる人や応援してくれる人づくりを目指します。
- 地域の自然や歴史文化を愛するとともに、地域で暮らし続けることができる生業創出を図ることで、誇りを持って次の世代へつなげていくための人づくりを目指します。

八面山に息づく多様な文化と暮らしの物語を  
再編・発信・継承するための仕組みとして「フィールドミュージアム」を導入

## 2. フィールドミュージアム

### (1) フィールドミュージアムとは

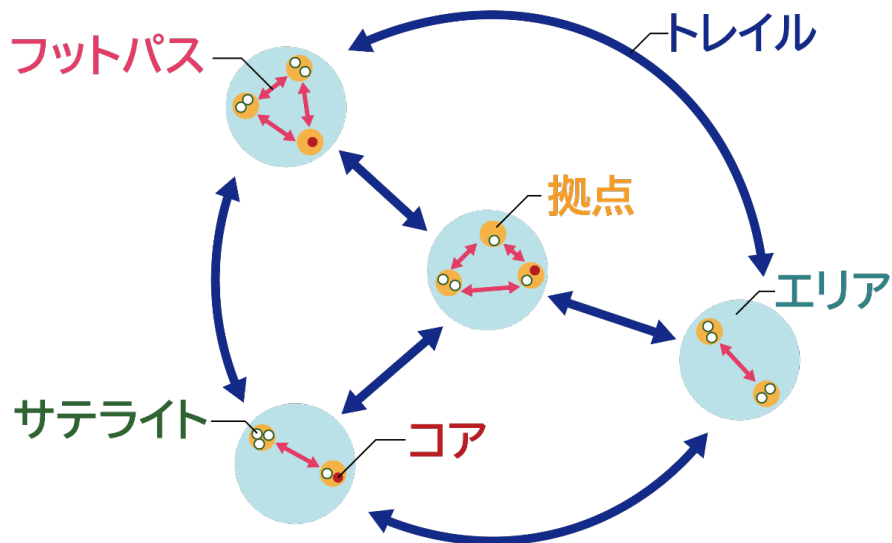
八面山では、自然、文化、暮らしと結びついた様々な資源を屋外の博物館の展示物に見立て、八面山をフィールドミュージアム<sup>※1</sup>として整備を進めます。このフィールドミュージアムでは、様々な構成要素を八面山の価値を物語るストーリーやエピソードとして設定し、様々な資源を活かしたまちづくりを推進することで、地域への誇りや愛着の醸成、昔から守られてきた文化の維持、交流人口の増加等、八面山の活性化を目指すものです。

※1 フィールドミュージアム：その地域の歴史・文化・風土等の資源を博物館の展示物に見立て、地域全体を博物館として捉える考え方です。

### (2) フィールドミュージアムの構成要素

本計画におけるフィールドミュージアムを構成する要素を以下の通り設定します。

構成要素	内容	対象例
エリア	フィールドミュージアムのテーマやエピソードを踏まえ、特性別にくくった場	・山望部エリア ・山麓部エリア ・山上部エリア 等
拠点	各エリアの展示対象となる主な地域資源をくくった場、またはサイクリングの要となる場	
コア	フィールドミュージアムの展示対象となる中核的な地域資源	・道の駅なかつ ・金色妙見宮 ・四季の丘公園 等
サテライト	フィールドミュージアムの展示対象となる各種地域資源や視点場	・支所 ・教育機関 ・公園等 ・歴史文化資源 ・観光資源 ・カフェ ・その他資源 ・視点場 等
周遊ルート	エリア間をつなぐ道	—
フットパス	拠点間をつなぐ道	—



■フィールドミュージアム構成

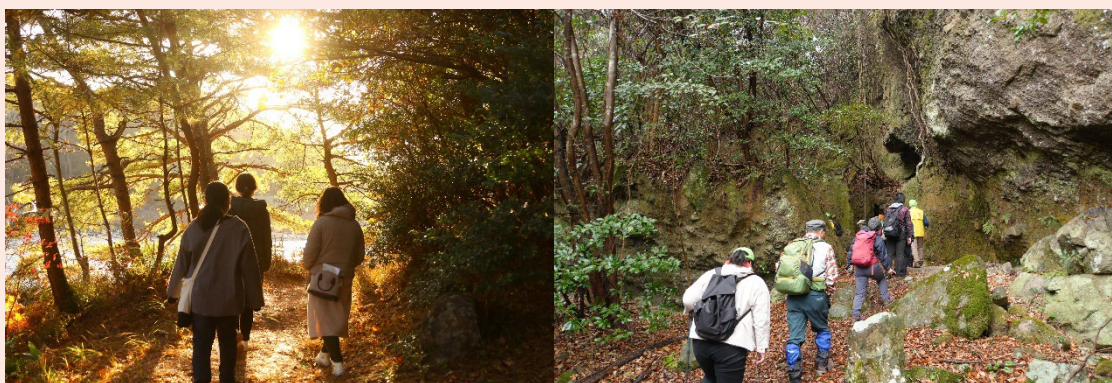
### (3) 「歩く」を基本とした魅力づくり（フットパスとは）

八面山では、フィールドミュージアムを巡る順路についてテーマ性を持たせつつ、様々な風景を楽しみながら歩くことができるフットパス※2として整備することで、フィールドミュージアムとしての八面山の魅力をさらに高めていきます。

※2 フットパス：イギリスを発祥とする「森林や田園地帯、古い街並み等、地域に昔からある、ありのままの風景を楽しみながら足（Foot）で歩くことができる小径（Path）」のことを指します。



■イギリス湖水地方の事例写真



■フットパスイメージ写真

#### (4) フィールドミュージアムの根幹テーマ

神社本庁によれば、日本の神社の中で八幡信仰の神社の数が最も多いとされています。そのような日本人の心の形成に大きな影響を与えたと考えられる八幡信仰の起源から発展までを、八面山におけるフィールドミュージアムの根幹テーマと位置付け、その道筋をたどります。

### 根幹テーマ：八面山に息づく八幡信仰の足あとを辿る

<p>磐座信仰</p>	<p>巨石群 祭祀場</p>		<p>八面山上部の箭山神社周辺には巨石群が見られます。これらは磐座信仰などにみられる古の祭祀場であると言われており、縄文時代、あるいはそれ以前の原始的な宗教の始まりを彷彿とさせる場所です。</p>
<p>八幡信仰の始まりと発展</p>	<p>箭山神社 鷹石犬石</p>		<p>箭山神社の御神体である鷹石をはじめ、犬石や和与石は八幡神と法蓮の伝説の舞台です。神と仏が和与(和解)していく物語は神仏習合の始まり、すなわち八幡信仰の始まりを想起させます。</p>
	<p>和与石</p>		<p>箭山神社は薦神社の奥宮であり、日本中に広がった八幡信仰の総本宮である宇佐神宮の祖宮が薦神社です。薦神社の御神体は本殿横の三角池で、宇佐神宮の御神体の御枕は、三角池のマコモでつくられました。</p>
	<p>薦神社 三角池</p>		<p>このように、八幡信仰を語るうえで八面山は欠かすことができない八幡信仰の起源の場として語られ、八面山そのものも聖なる山としてあがめられています。</p>
<p>八幡信仰を守りつなぐ</p>	<p>箭山権現 石舞台</p>		<p>八面山への聖なる山としての深い信仰や、母なる山としての愛着を示すかのように、人々は山の周囲に集落をつくり、八面山を拝む場所をつくりました。人々の生活は八面山とともにあったのです。</p>
	<p>金色 妙見宮</p>		<p>神と仏を融合する柔軟さや外部から来た人々を受け入れる地域性は「おせったい」と呼ばれる風習にも息づいており、子どもにお菓子をあげる慣習も含め世代を超えて受け継がれています。</p>
	<p>猪山 八幡宮</p>		<p>このような八面山の地域性に心を打たれたのでしょうか、かつて敗戦した足利尊氏は箭山権現石舞台の上で箭山神社に武運長久を祈願したと伝えられ、その後、足利尊氏は見事復活を遂げました。</p>
	<p>猪山 神護寺・ 大日寺</p>		<p>現代においても猪川内岩屋堂、聖母八幡比咩神拝所、金色妙見宮が様々な人々の手によって再生され、修験の峰入りが154年ぶりに実施されるなど、時を超えて八面山への想いが受け継がれ続けています。</p>
	<p>猪川内 岩屋堂</p>		<p>猪山八幡宮、猪山神護寺、猪川内岩屋堂など猪にちなんだ名前にはいわれがあります。宇佐八幡宮神託事件(道鏡事件)において、神の使いとして現れた猪が和気清麻呂を救った後、八面山の方へ姿を消したとの伝説があり、明治期のお札のモデルにもなりました。この事件は日本の国体維持の危機を救った和気清麻呂を八面山が救ったかのような伝説でもあります。</p>
	<p>聖母 八幡比咩 神拝所</p>		<p>このように、八面山の信仰と日本のありようは昔からつながっていました。</p>

八面山が目指すべき姿

### 3. 八面山の価値を物語るストーリーとエピソード

#### (1) 八面山の価値を物語るストーリー

八面山を「自然」という観点から見ると、メサ台地と呼ばれる特徴的な台形状で、山上部には大池と小池という2つの池を湛えており、山の生き物や麓の人々の暮らしを支える重要なものでした。

また、「文化」という観点から見ると、日本の神社の中で最も多い八幡信仰の始まりの場所であり、古くは修験が盛んな山でした。そのため、存在そのものが信仰の対象となっており、現在においても、中津市内の小中学校の校歌に登場しています。

さらに、「暮らし」の観点から見ると、八面山は別名「ややま」と呼ばれて親しまれ、例えるなら日本人にとっての富士山のような、中津市民にとっての「ふるさと」としての象徴的存在といえます。遠くから帰ってきた中津市民は、八面山のある風景を見ると中津に帰ってきたと感じる人も多く、親しみを感じる存在でもあります。

以上を踏まえ、八面山の価値を語るうえで重要な3つのストーリーを以下の通り整理します。

#### 【自然】

特異な地形がもたらした様々な恵みが織りなす大景観

#### 【文化】

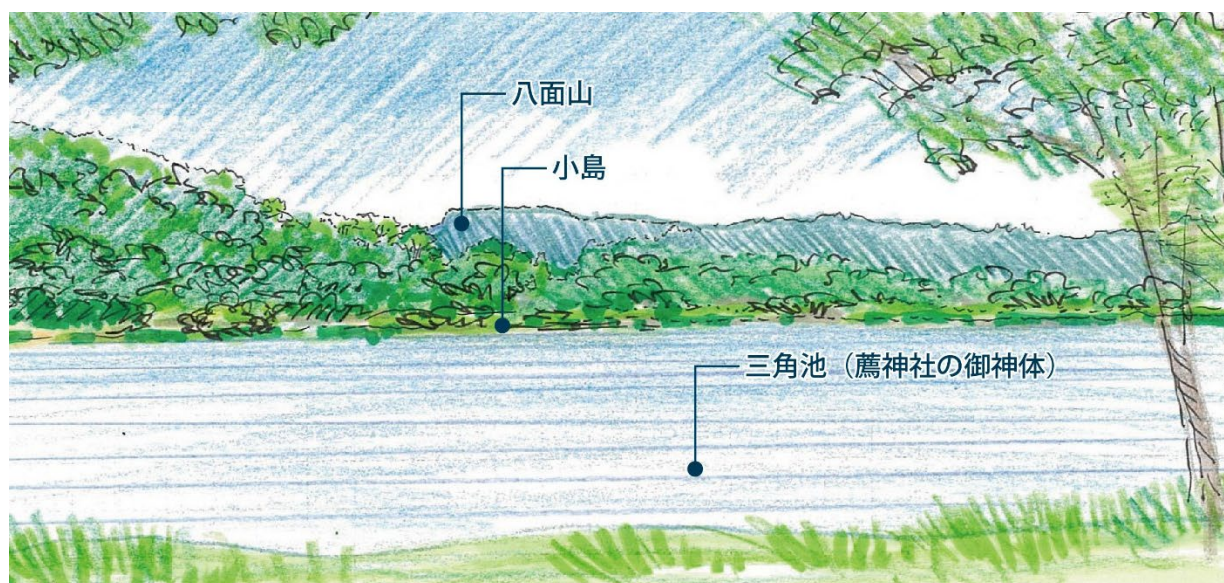
信仰の文化によって育まれた多様な小宇宙

#### 【暮らし】

地域風土に根ざした日常と非日常  
豊かな季節感とともにある生活・生業

## (2) 10 個のエピソード

### 1) 聖域をつなぐ二つの「極」 ～上宮と奥宮を通じて「八面山」の起源をたどる～



■三角池と八面山

八面山から北へ約7kmの位置に大貞八幡宮薦神社があります。養老4(720)年頃から薦神社の三角池に自生するマコモを刈り、三角池内の小島で乾かした後に「薦の御枕」として八幡総本宮である宇佐八幡宮の御神体とすることが始まったとされています。

薦神社の内宮である三角池は湧水で満たされていたとの伝承があり、その湧水は八面山からもたらされたと考えられること、八面山の箭山神社(上宮)は薦神社の奥宮とされていること、八幡神と法蓮の伝説をはじめ多くの逸話や痕跡から八面山が八幡信仰の始まりの場所であると考えられる人も多くことなど、八面山と八幡信仰の深いつながりを感じさせます。

なお、現在では荒瀬水路により湧水だけでなく山国川の水も三角池に達しています。



■三角池に立つ鳥居



■薦神社に残る勅使街道跡

## 2) 神宿る場の力 ～いくつかの巨石とともに語られる伝説～



■中ノ迫の岩肌を望む

八面山には山上部の古の祭祀場としての巨石群をはじめ、至る所に名もなき巨石が点在しています。中でも和与石、箭山神社（上宮）の御神体としての鷹石、犬石は、八幡神と法蓮の伝説とともに語り継がれており、八幡信仰の起源を想起させます。

### 【和与石の伝説（八面山縁起）】

八幡大菩薩がすべての生物へ幸福を与えるため、英彦山権現の如意宝珠（すべての願い事がかなえられる珠）を取って逃げました。僧である法蓮は、この八面山まで追いかけて大声で問責したら、八幡大菩薩は金色の鷹になって金色の犬を連れて伊予国（愛媛県）から飛んで帰り、宝珠を授受することで和与（和解）し、後にこの巨石に変化したと言われています。

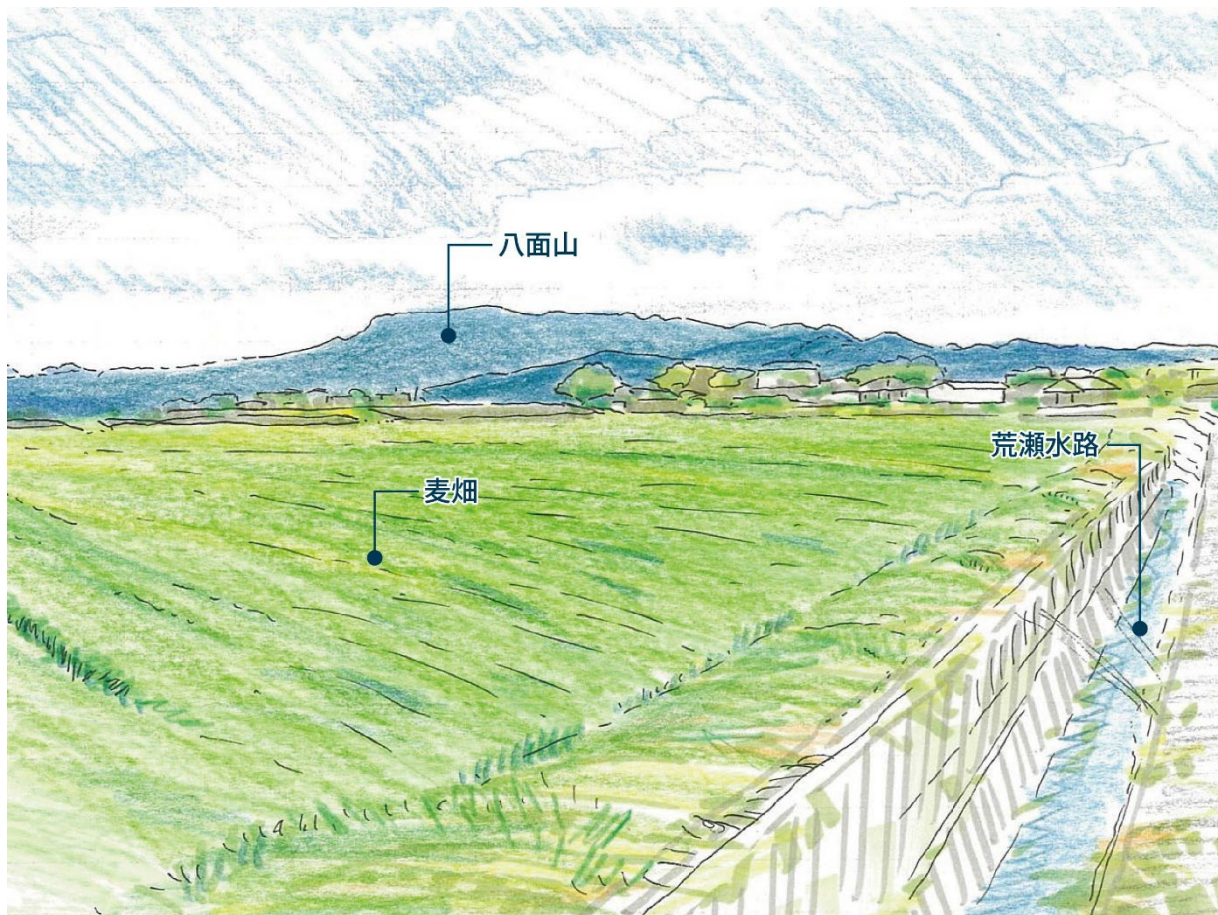


■和与石



■箭山神社の御神体である鷹石・犬石

### 3) 「水」(生き抜くための源) を求め続けた来歴 ～幾多の時代を経てつくられてきたため池～



■荒瀬水路と八面山

台地状の中津平野において、稲作のための水を引くことは昔の人々の生活にとって非常に重要なことであり、先人による水との苦闘の連続だったと考えられます。かつて、渡来人の土木技術により薦神社付近に池が掘られて以降、現代に至るまで各地にため池がつくられ、貴重な水は人々の生活を育みました。

また、中津平野に山国川から水を引くために荒瀬水路が貞享3（1686）年に着工し、3年後に幹線が完成して一部通水、12年後に荒瀬水路の全体が完成しました。300年以上続く荒瀬水路は今も中津平野の中央部の広い範囲に山国川からの水を供給しており、先人の築いた貴重な遺産は今も人々の生活を潤し続けています。



■薦神社の三角池



■大池付近に現存する土木工事で使用された道具

#### 4) 八面山とともに暮らす ～集落内に点在する遥拝の場～



■八面山を遥拝する場

八面山は、古の祭祀場、かつての修験の場、巨石である鷹石や山上の大池を御神体とする箭山神社が建つ場であり、八面山そのものが人々の拝む対象となっている神聖な山としてあがめられてきました。そんな八面山の麓の集落付近には、石仏や窟等、人々が八面山を遥拝する場がいくつも点在しています。

箭山権現石舞台（石舞台として日本最大）もその一つで、敗戦した足利尊氏がその上で箭山神社に武運長久を祈願したと伝えられています。また、文禄5（1596）年に起きた大干ばつの時には、恵みの雨を待つ農民が箭山神社へ祈願し、現在も田口地区に伝わる神楽をこの巨石を舞台に奉納したところ、五穀豊穰に恵まれたとも言われるなど、八面山は古から現代まで神聖な拝む対象として大事にされてきました。

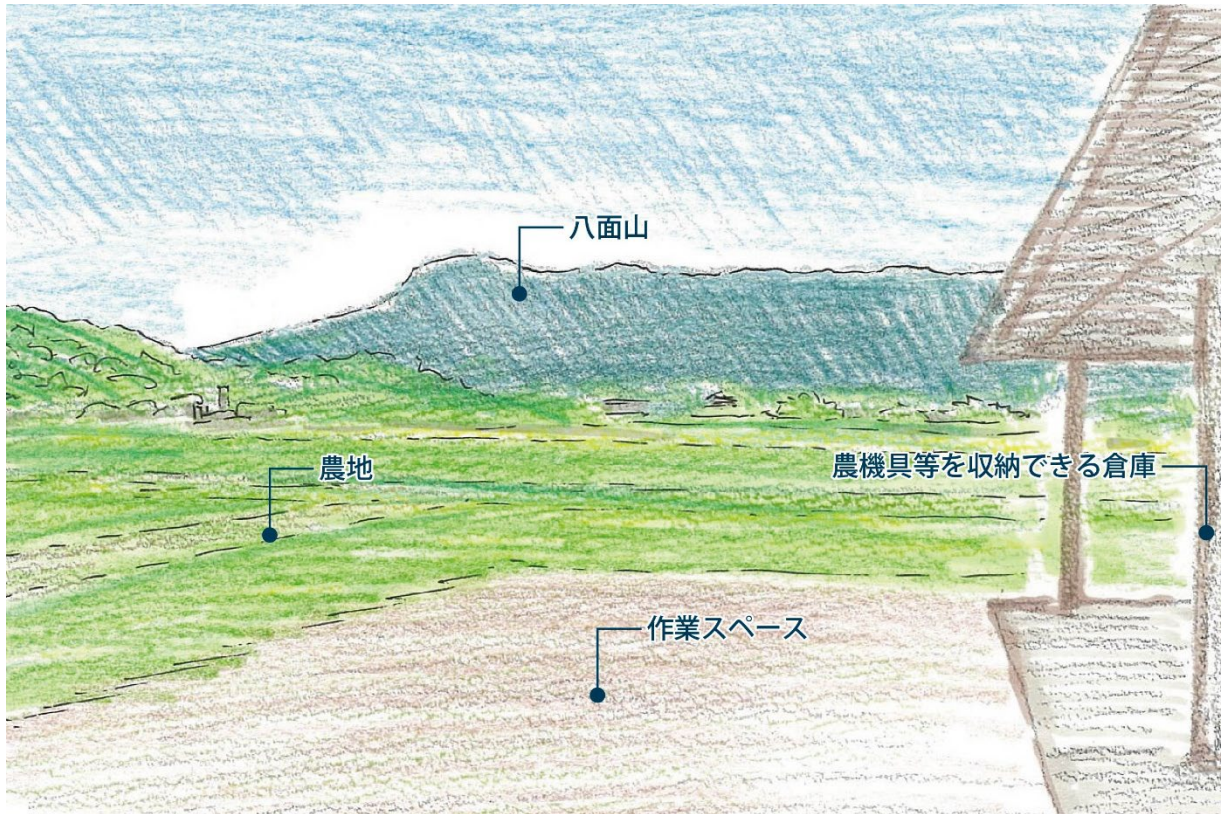


■集落内に点在する石碑



■集落に点在する遥拝の場

5) ともに力を合わせて成し得る生業（しごと） ～八面山を背景に稲作の中に集う～



■新たな協働の場（田口）から望む八面山

八面山を望む集落における農業の主流は稲作です。三光村史によれば、昭和 30（1955）年頃には農家の 6 割以上が 1 頭の牛馬を飼育していたとされ、現在の農業機械に代わる働きをしていました。また、「てまがえ」や「ゆい」等の言葉は、昔から農家にみられる農繁期等にお互いに助け合う労働慣習を表す言葉です。

その後の農業形態の変化により次第にこの慣習も姿を消し、農家数も減少しました。しかし、現在でも集落営農を通じて人々が協力して農業生産を推進するほか、地域住民が一体となり水田を利用し、無数のコスモスを咲かせる日本最大級の三光コスモス祭りを開催するなど、互いに助け合う共同の精神は形を変えながら現代に息づいています。



■三光コスモス祭り

八面山が目指すべき姿

## 6) 修験道の再興へ ～154年ぶりの峰入り～



■屋形の窟

修験道の修業は「峰入り」を根幹としており、擬死を意味する水行や護摩行等の後、山を母胎、修行者を胎児に見立てた生まれ変わりを意味する修行を行うものです。約 30 年に 1 度行われてきましたが、明治元（1868）年で途絶えていました。

そんな中、中津出身者が帰郷して八面山を見ると故郷に帰った安堵感で涙するほど「母なる山」として愛された八面山の峰入りを復活させようと有志により実行委員会が結成され、令和 4（2022）年 12 月、実に 154 年ぶりに峰入りが実行されました。

なお、八面山の峰入りは、実行委員会によって刊行された「八面山資料集」によれば、「八面山が八幡神と法蓮の和解の地であることに因んで行われる行事」であるとされています。

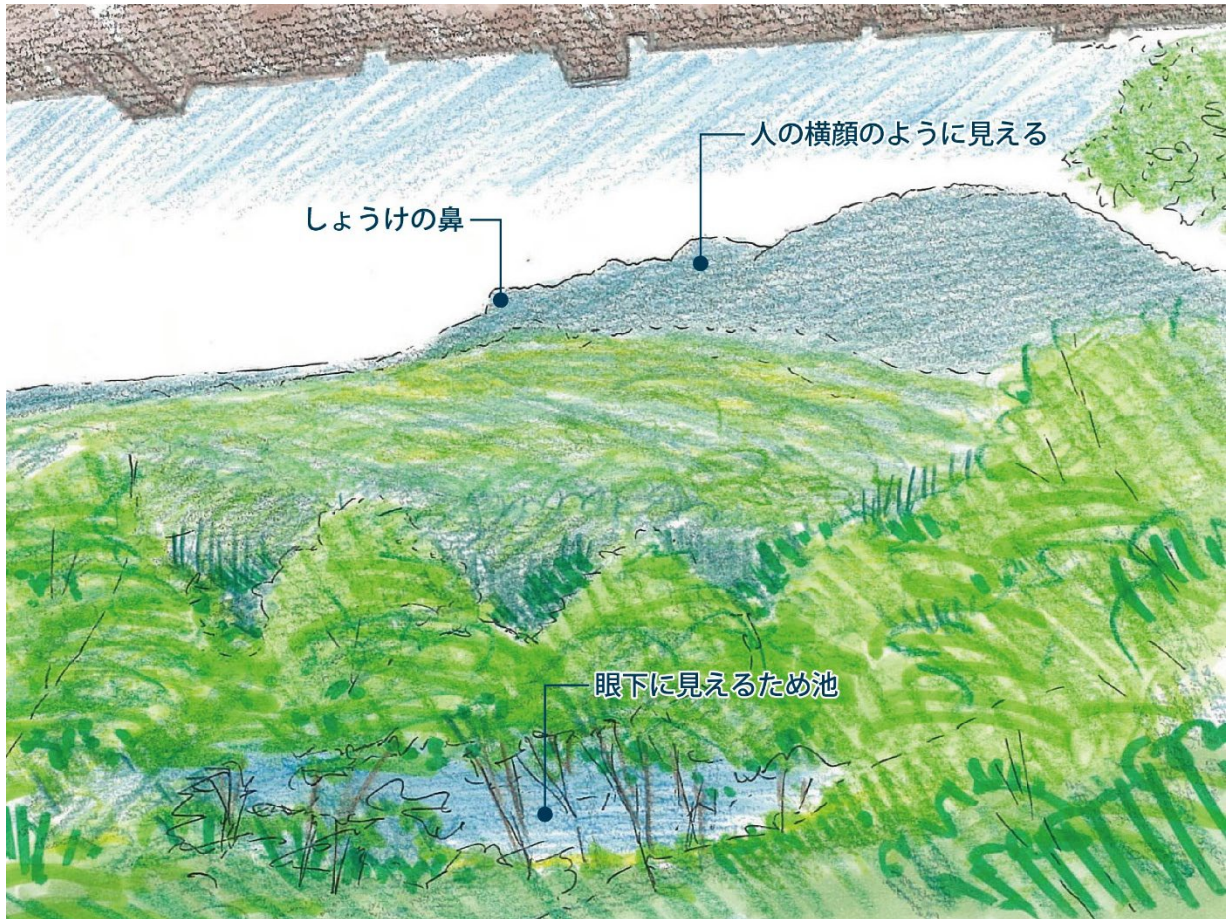


■阿波羅堂



■修験の滝（氷瀑）

## 7) 拝み続け、再興し続ける普請の文化 ～寄進と奉納を重ねた想いを受け継ぐ～



■猪川内岩屋堂から望む八面山

猪川内岩屋堂は八面山への素晴らしい眺望が望める修験の巡礼地の一つであり、弘法大師（空海）のお祭り「お接待（おこぼさま）」が行われてきた大切な場所でした。近年の朽ちゆく状況を変えるべく地元を愛する一人の有志が発起人となり、様々な人々を巻き込んで見事なお堂を再生しました。

金色妙見宮では、驚くような大きさの窟周辺の管理が行き届かなくなりつつある現状を憂いた大学生が、地域おこし協力隊とともに立ち上げた団体へのクラウドファンディングを通じた支援を募り、支障木の伐採等を行いました。

このように、昔の人々と同じ八面山への想いは、現代の人々の心に響き、受け継がれています。

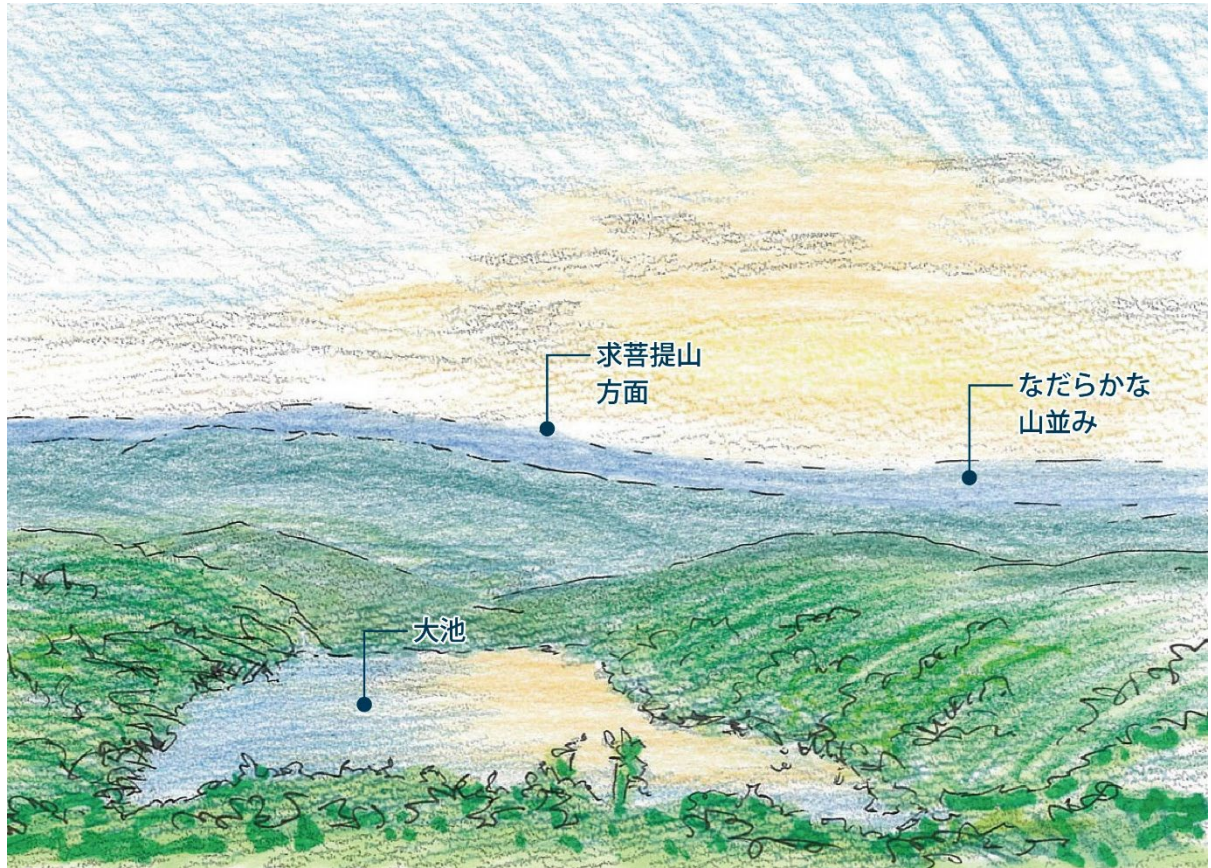


■復興された猪川内岩屋堂



■金色妙見宮から望む八面山

## 8) 何度でも立ち上がる地域の底力 ～様々な災害からの復旧・復興の先に～



■大池と夕日

大宝元（701）年築造後、時代とともに嵩上げされていった美しい大池には龍珠伝説が残されています。また昭和6（1931）年の大雨の際は大池の土手が決壊し、集落や山林が激しい被害を受け、死傷者が多数発生しました。7年間にわたる困難な復旧工事で犠牲となった2人の若者を悼む石碑が残されています。

### 【龍珠伝説】

天明3（1785）年、日照りと湯水の大飢饉の際、海門和尚が大池の横で断食してお経を唱え、七日七夜祈ると、女性の顔と龍の体の龍女が現れて「和尚が珠を受けて私を成仏させるなら命にかえて雨を降らせましょう。」と言ひ、和尚は「必ず成仏させます。」と言ひました。龍女が姿を消すと、激しい雨が5日間続きました。この龍の珠は今も自性寺に伝えられています。

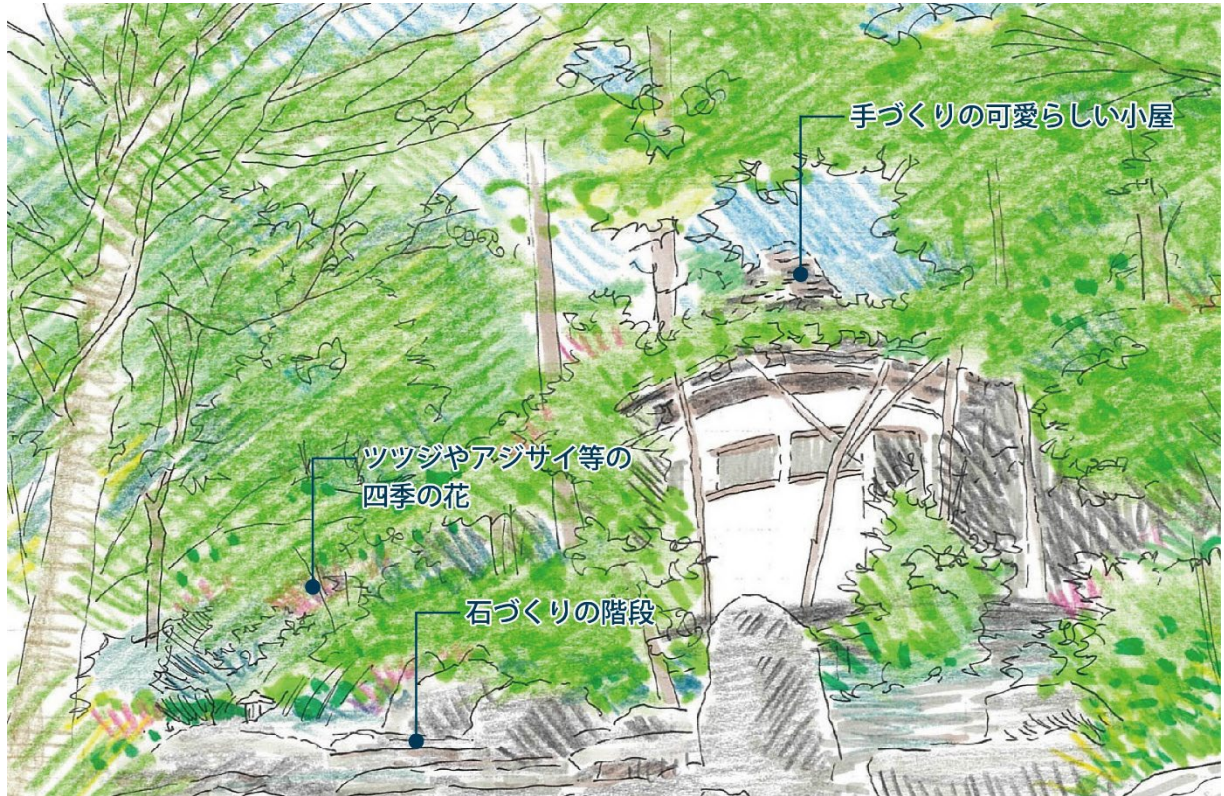


■大池を望む視点場



■大池付近の龍を彫った石像

## 9) 笑顔になる手づくりの公園 ～生まれ変わり続けるワクワクスポット～



■新緑につつまれた小屋と園路

八面山を少し登ったところに、地域の様々な人々が手塩にかけて育てた四季の丘公園があります。平成 28 (2016) 年 9 月に若手の有志で結成された元気会が中心となって、地域おこし協力隊や様々な人々を巻き込みながらイベント開催や公園づくりを行っています。

園内にはサクラ、モミジ、チューリップ、アジサイ、ツバキ等、様々な木々や花が植えられており、中でも可愛らしい手づくりの小屋は、訪れる人々へワクワク感を与えるフォトスポットです。夜にはイルミネーションと夜景のコラボレーションも楽しめるなど、地元の人々による来訪者を楽しませる工夫は続いていきます。また来たくなる、笑顔になる公園です。



■バイオネストづくりのイベント風景

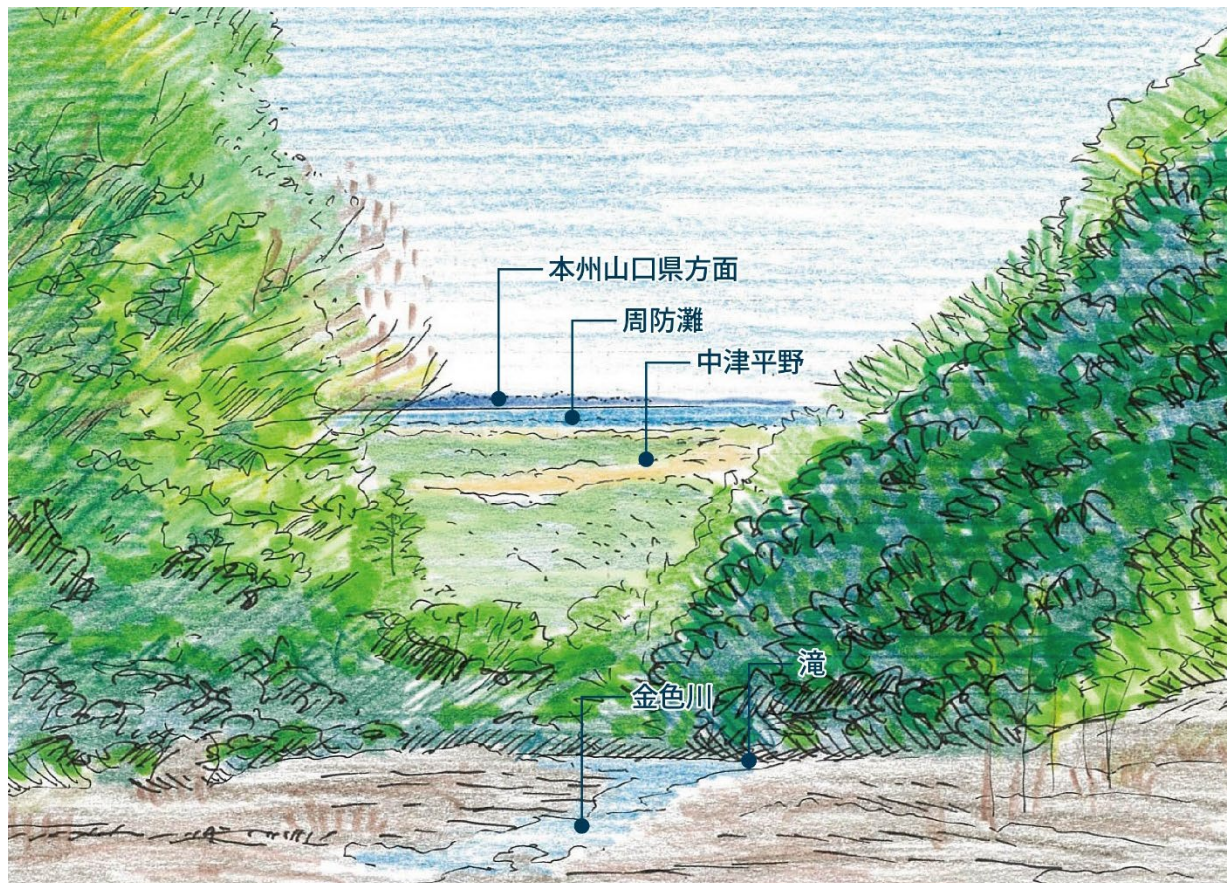


■キャンプ場から望む夜景と夜桜



■園内に咲き誇る花

## 10) 金色渓谷を歩く ～静かなせせらぎをたどる癒しの小道～



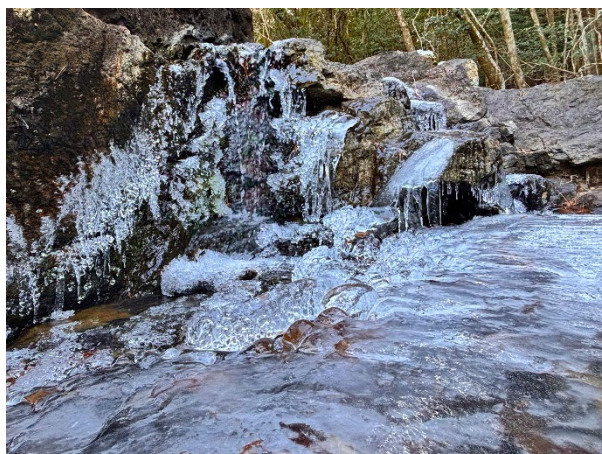
■金色川の滝の上から中津平野を望む

金色川の横を歩く上質な森林浴が楽しめる金色渓谷では、広葉樹の美しい樹々や苔むした石や岩、優しく流れ落ちるいくつもの小さな滝や静かなせせらぎ等、豊かな表情を見せます。寒い冬には、多様な凍り方で不思議な形をたくさん見せる氷瀑や、氷の下を流れるせせらぎに出会えることもあり、季節ごとに楽しめる金色渓谷は知る人ぞ知るおすすめの場所です。

八面山中腹辺りの滝の上では、丁度良いタイミングで休憩ができ、中津平野の豊前市方面、周防灘、本州の山口県までが遠望できる絶景ポイントが疲れを忘れさせます。



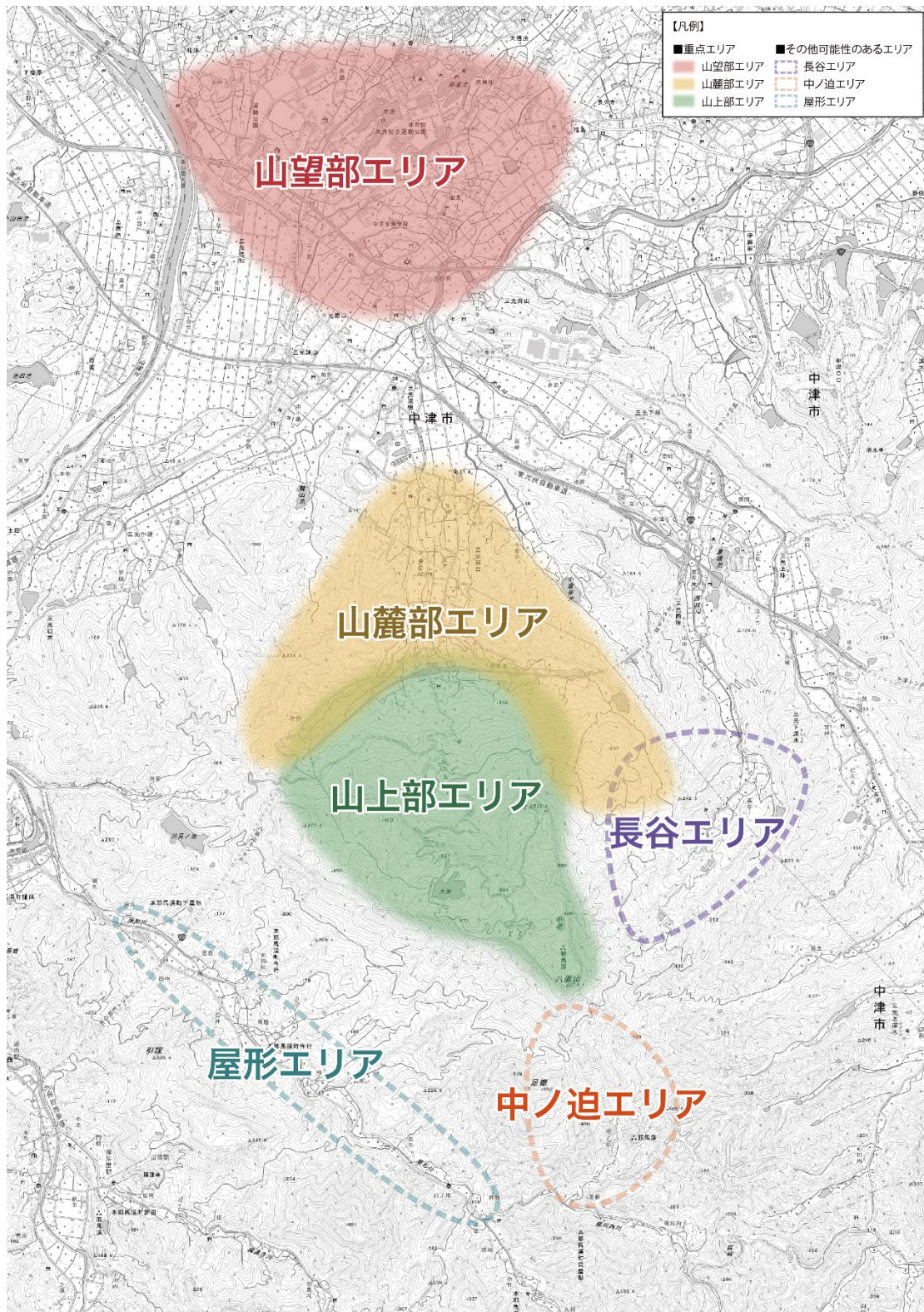
■金色川沿いの小道



■多様な凍り方を見せる氷瀑

#### 4. 3つの重点エリア及びその他可能性のあるエリア

フィールドミュージアムのテーマ及びエピソードを踏まえ、エリア区分を以下の通りに設定します。三光地域及び中津地域の一部を、重点的に取組みを進めていくエリアとして、三光地域の一部及び本耶馬溪地域の一部をその他可能性があるエリアとして設定します。



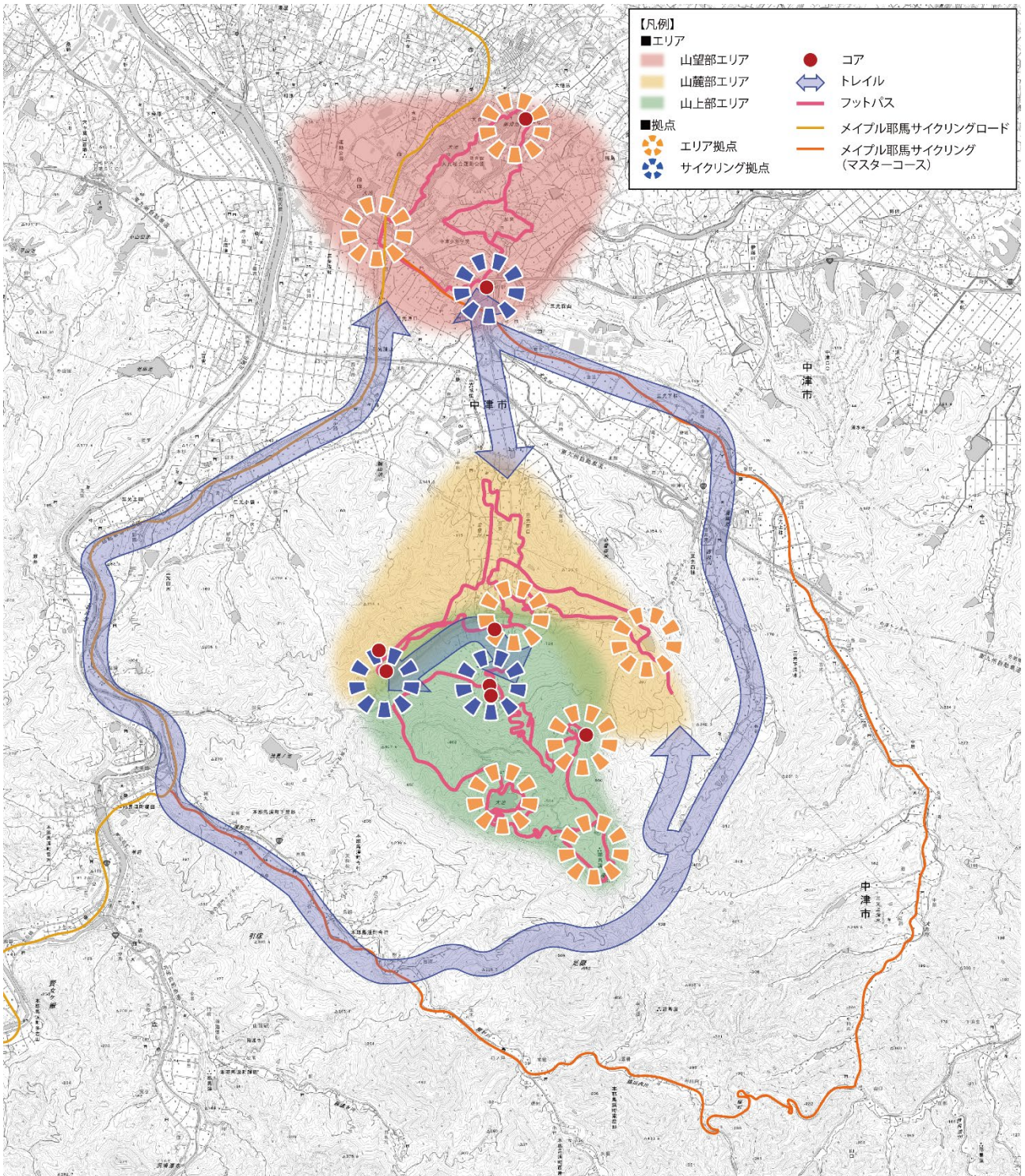
■エリア区分



八面山が目指すべき姿

## 5. 八面山が目指す全体像

以上を踏まえ、フィールドミュージアムの考えに基づき、八面山が目指す姿を以下の通り整理します。



■八面山が目指す全体像

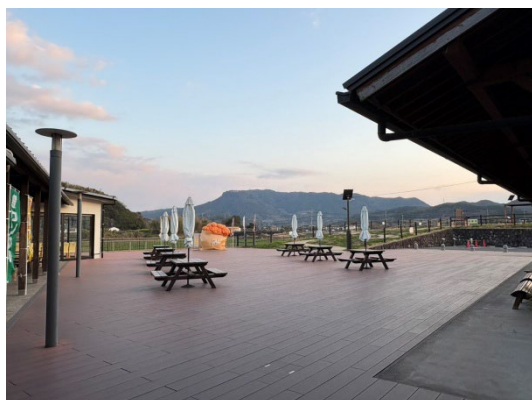
## 1. 山望部エリア

山望部エリアは、北側を相原山首遺跡～薦神社、南側を三光支所～道の駅なかつとするエリアです。古墳時代の遺跡や八幡信仰と関係がある薦神社等の長い歴史を感じることができるとともに、古くからのため池が数多く点在しており、八面山の湧水が伏流水として流れ込んでいると言われていいます。また、毎年秋には三光コスモス祭りの開催、大貞総合運動公園やダイハツ九州アリーナでのスポーツ大会の開催、地元農産物の直売所やレストラン等が複合された道の駅なかつでのイベント実施等、県内外から多くの人々が訪れています。

### (1) 目指すべきエリアの姿

#### 八面山の恵みが息づく暮らしの場

- 大貞総合運動公園などの公園や道の駅なかつ・カフェなどの観光資源を活用することで、エリアにおけるなりわい創出につなげるとともに、多くの人々が交流する活気あふれるエリアづくりを目指します。
- 古くから残るため池・集落の奥に八面山が見える風景、その中に点在する薦神社をはじめとした歴史文化資源など、特有の魅力を感じることができるとともに、エリアづくりを目指します。
- 多くの人々が訪れるイベントや施設などにおいて、八面山に行ってみたいと思わせる情報発信の拡充を図り、中津地域から三光地域への人の流れを生み出すことを目指します。



#### 【道の駅なかつ（コア）の活用イメージ】

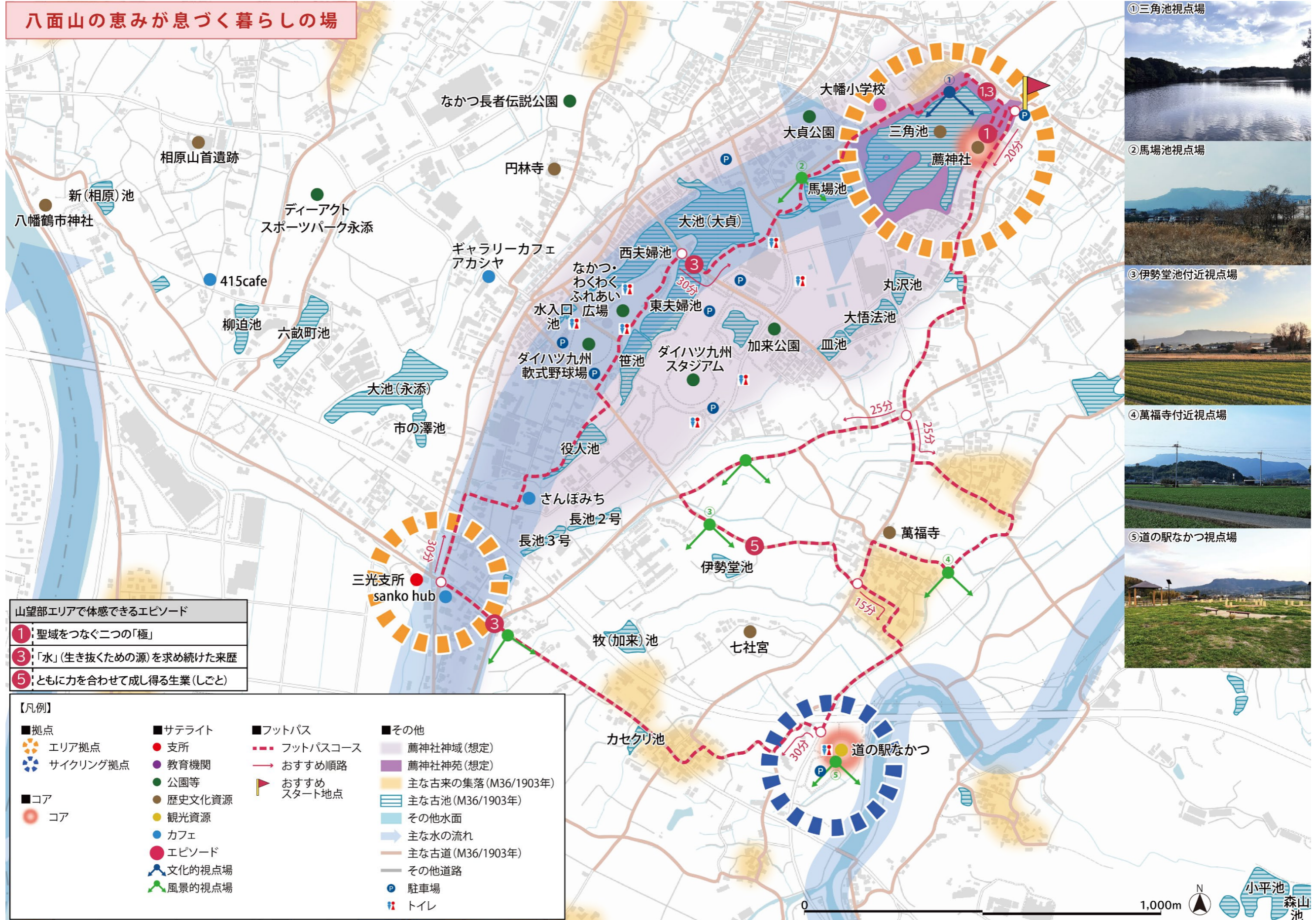
- 自転車の貸し出しや自転車整備用の工具の貸し出し等ができるサイクリング拠点としての活用。
- 地元の特産品や料理を八面山を望みながら楽しむことができる視点場の一つとしての活用。
- 地域資源に関する情報やフットパスコース等が記載されているエリアのマップ等、来訪者が欲しい情報を入手できる場としての活用。
- 山望部エリアの地域資源と八面山の関係性をはじめとした、八面山に関する様々な情報を広く知ってもらう情報発信により、三光地域への人の流れを生み出すきっかけの場としての活用。 等

■道の駅なかつ（コア）の活用イメージ



(2) 山望部エリアフィールドミュージアム構成図

八面山の恵みが息づく暮らしの場



山望部エリアで体感できるエピソード

- ① 聖域をつなぐ二つの「極」
- ③ 「水」(生き抜くための源)を求め続けた来歴
- ⑤ ともに力を合わせて成し得る生業(しごと)

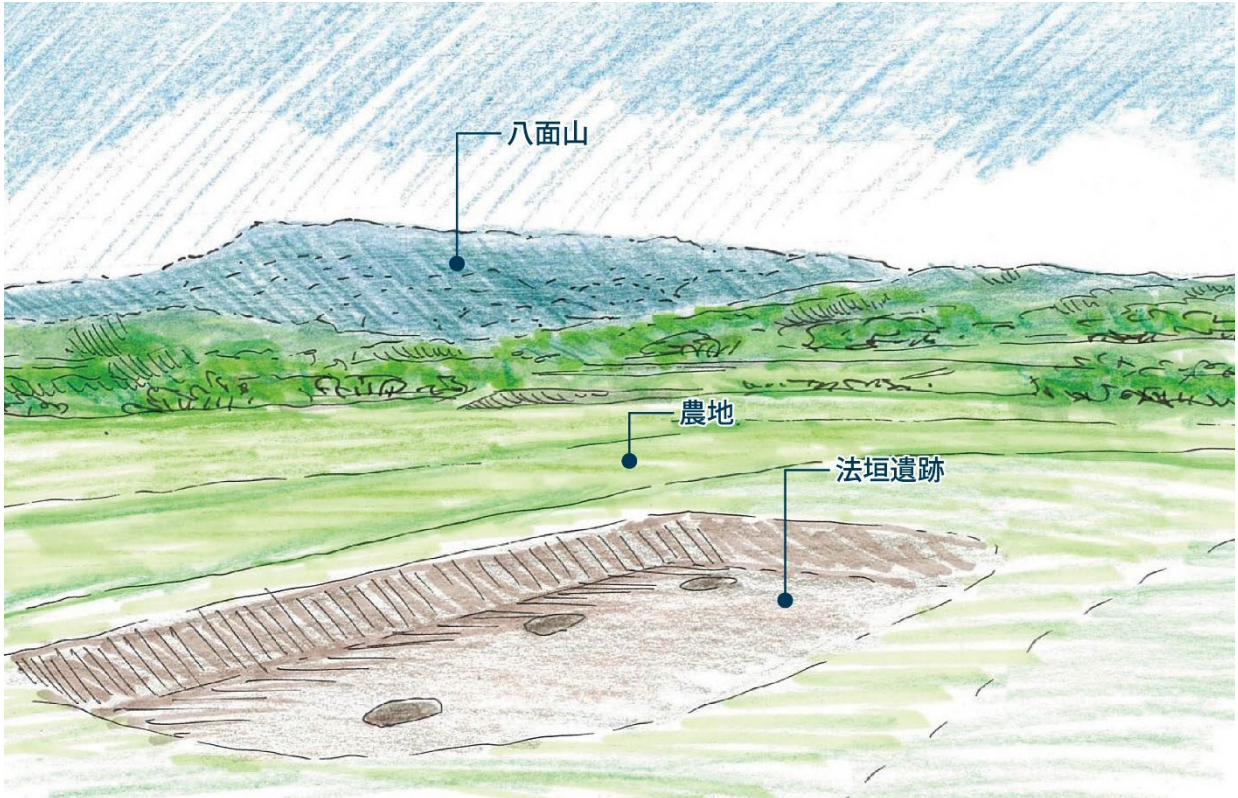
- 【凡例】
- 拠点
  - エリア拠点
  - サイクリング拠点
  - コア
  - コア
  - サテライト
  - 支所
  - 教育機関
  - 公園等
  - 歴史文化資源
  - 観光資源
  - カフェ
  - エピソード
  - 文化的視点場
  - 風景的視点場
  - フットパス
  - フットパスコース
  - おすすめ順路
  - 🚩 おすすめスタート地点
  - その他
  - 薦神社神域(想定)
  - 薦神社神苑(想定)
  - 主な古来の集落(M36/1903年)
  - 主な古池(M36/1903年)
  - その他水面
  - 主な水の流れ
  - 主な古道(M36/1903年)
  - その他道路
  - 駐車場
  - トイレ

エリア別の取組み方針

※フットパスコースについては、サイン設置やマップ作成時に地域住民との十分な協議を行います。その結果によってはコースが変更となる可能性があります。



### (3) 大切にしたい風景



■道の駅なかつ横の法垣遺跡から望む八面山

八面山の麓から三角池までは、なだらかな斜面から平坦な地形へとつながる広い平野部で、点在する人々の集落の周りに田園風景が広がっています。

八面山に降り注ぐ雨水は、周囲の川や伏流水を通じて中津平野一帯を潤しており、エリアに広がる田園はその恵みを感じさせます。また、薦神社の三角池は八面山からの伏流水であるとも言われており、池周囲の樹林地は豊かな自然を感じさせます。これらの八面山と人々の暮らし、信仰、自然が感じられる風景は、未来へつなぐ大切にしたい風景です。



■山望部エリア断面イメージ



■八面山と農業の風景



■八面山からの水を蓄える三角池

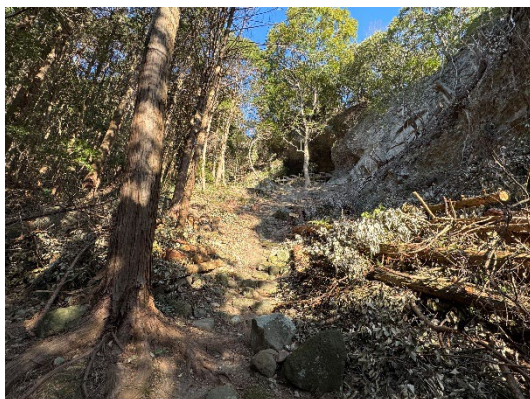
## 2. 山麓部エリア

山麓部エリアは、北側を田口地区、南側を金色温泉～聖母八幡比咩神拝所とするエリアです。平地においては、見渡す限り広がる田畑に古くからの農村集落が点在しており、どっしりと構える八面山を望むことができます。山裾においては、東西に八面山を囲むように、箭山神社下宮、猪山八幡宮、猪川内岩屋堂、金色妙見宮等、多くの歴史文化資源、また、みかみ農園やあじさい園、金色温泉等、民間の取組みによる観光資源が多く点在しています。

### (1) 目指すべきエリアの姿

#### 八面山への遥拝と人々のなりわいが呼応する場

- 八面山の懷に抱かれるゆとりある農村集落、古くから在り続ける歴史文化を感じる場所等をじっくりと味わうことができる、情緒豊かなエリアづくりを目指します。
- 箭山神社下宮や猪山八幡宮等の歴史文化資源について、適切な管理・保全により、その価値を未来へつないでいくことを目指します。
- 金色妙見宮・猪川内岩屋堂といった近年の新たな活動により守られた歴史文化資源を起点とし、さらなる活動が積極的に展開されることで、なりわいにつながるエリアを目指します。



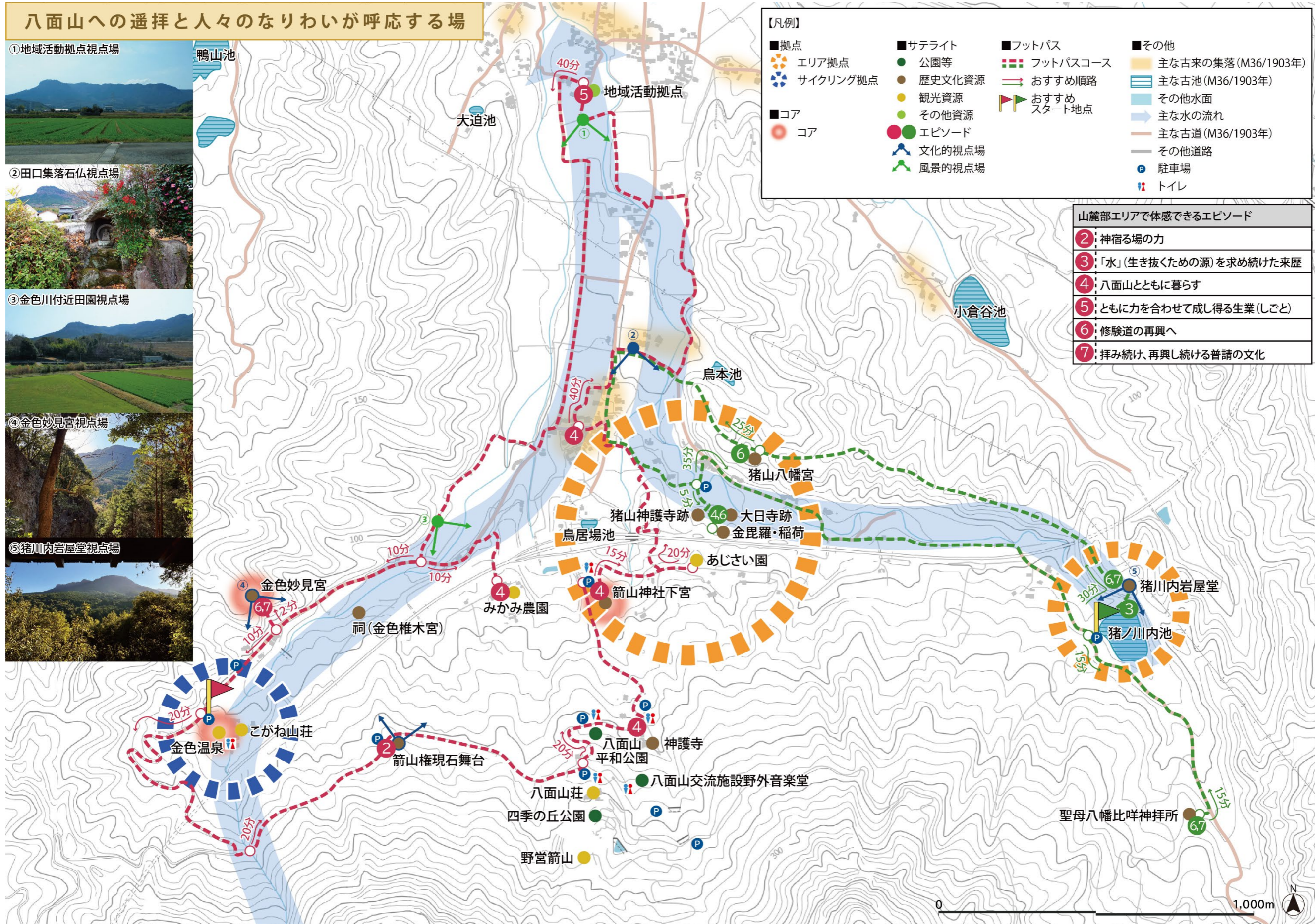
#### 【金色妙見宮（コア）の活用イメージ】

- 学生・活動団体が様々なイベントや地元課題解決に向けた取組みを継続的に行う場としての活用。
- 学生・活動団体の活動に地元住民も参加し、イベント時だけでなく日常的にも双方が交流できる場としての活用。
- 各種活動を実施することにより、その展開として、学生・活動団体や地元住民等のなりわい創出につながり、一時的ではない継続的な関わりを実現する場としての活用。

等

■ 金色妙見宮（コア）の活用イメージ

(2) 山麓部エリアフィールドミュージアム構成図

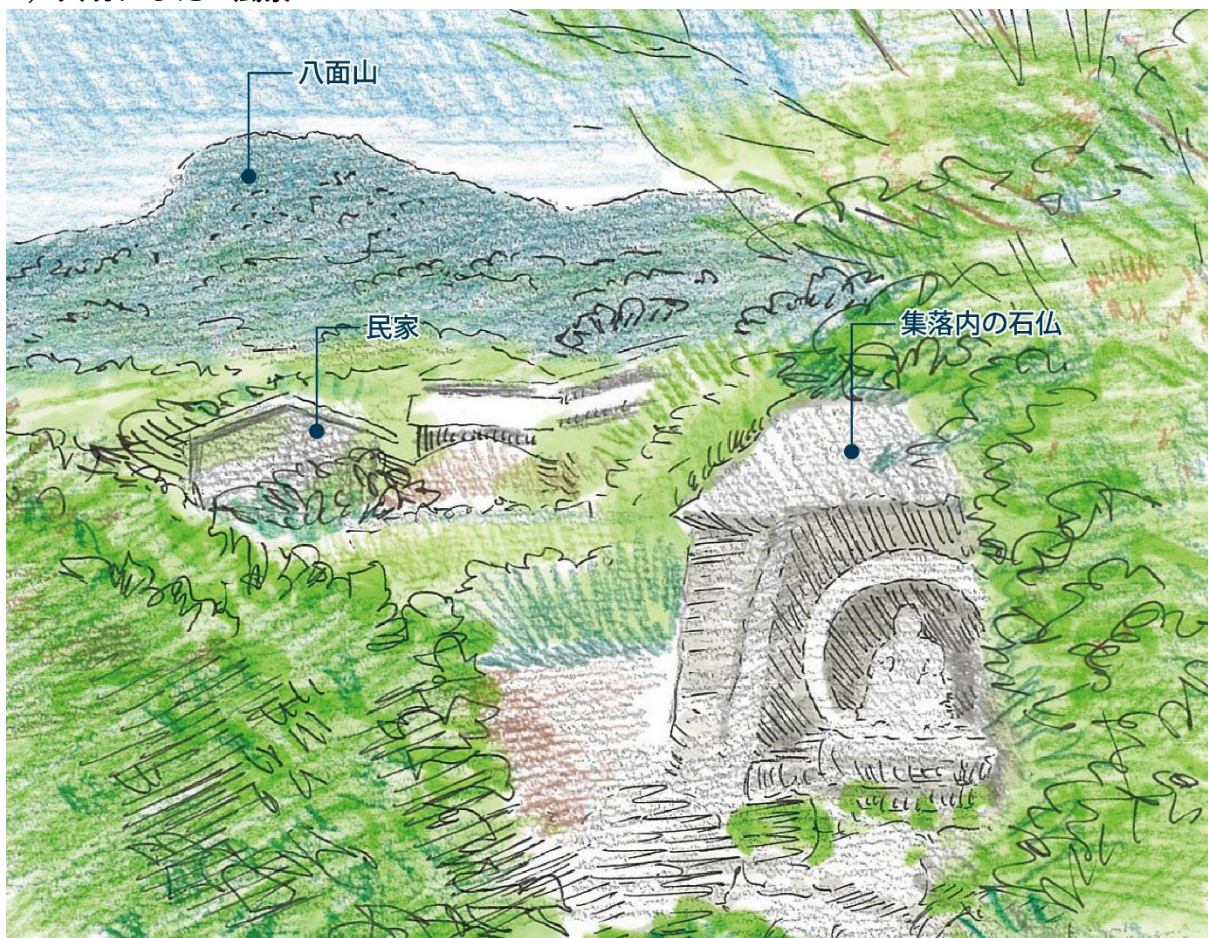


※フットパスコースについては、サイン設置やマップ作成時に地域住民との十分な協議を行います。その結果によってはコースが変更となる可能性があります。

エリア別の取組み方針

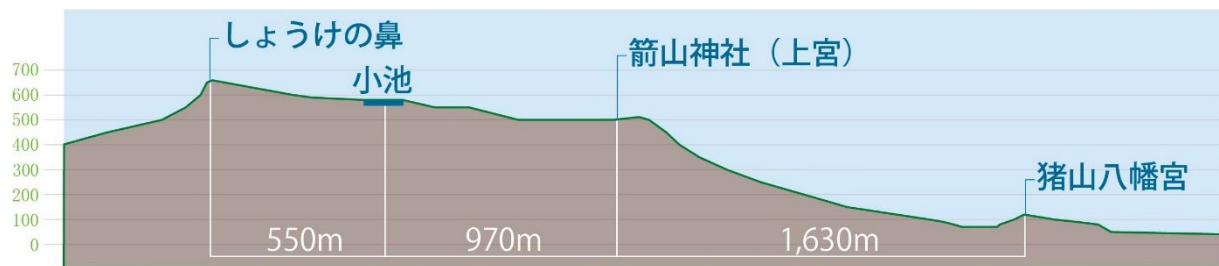


### (3)大切にしたい風景



■集落内における生活に身近な信仰空間

猪山八幡宮のある小高い山から連なる尾根と八面山の間は谷となっており、樹木が生い茂って  
 なかった時代には、猪山八幡宮から八面山をきれいに望むことができたと言われてい  
 ます。また、  
 田口付近の集落は八面山を間近に望むことができる好位置にあり、昔からある集落の所々から見え  
 る八面山は大切にしたい風景です。



■山麓部エリア断面イメージ



■集落から見る八面山



■農地と八面山

### 3. 山上部エリア

#### (1) 目指すべきエリアの姿

山上部エリアは、北側を神護寺、南側を山頂周辺とする八面山の山中にあたるエリアです。眺望がよい視点場が多く、市街地や里山等の広域を見渡すことができます。山頂には八面山信仰の中心である箭山神社上宮が鎮座しており、箭山権現石舞台や和与石、鷹石・犬石等の巨石、大池や小池といったため池を見ることができます。また、かつて行われていた八面山修験の跡が残されており、豊かな自然や紅葉等の景観の美しさを感じながら山伏たちの追体験ができます。さらに、平和公園、八面山荘、野外音楽堂、四季の丘公園、キャンプ場等、様々な観光資源も多く点在しています。

#### 山の息吹と多様な信仰が共鳴する場

- 八面山荘や野外音楽堂、四季の丘公園等の観光資源を人々の活動の場として活用するとともに、エリア特有の巨石が点在する豊かな自然環境の保全により、八面山を楽しむことができるエリアを目指します。
- 次世代に向けた森づくりを推進することにより、水を感じることができるかつての八面山の姿を目指します。
- 箭山神社上宮や神護寺等の神社仏閣や箭山権現石舞台や和与石等の巨石をはじめとする多くの歴史文化資源について、適切な管理による保全により、その価値を未来へつないでいくことを目指します。



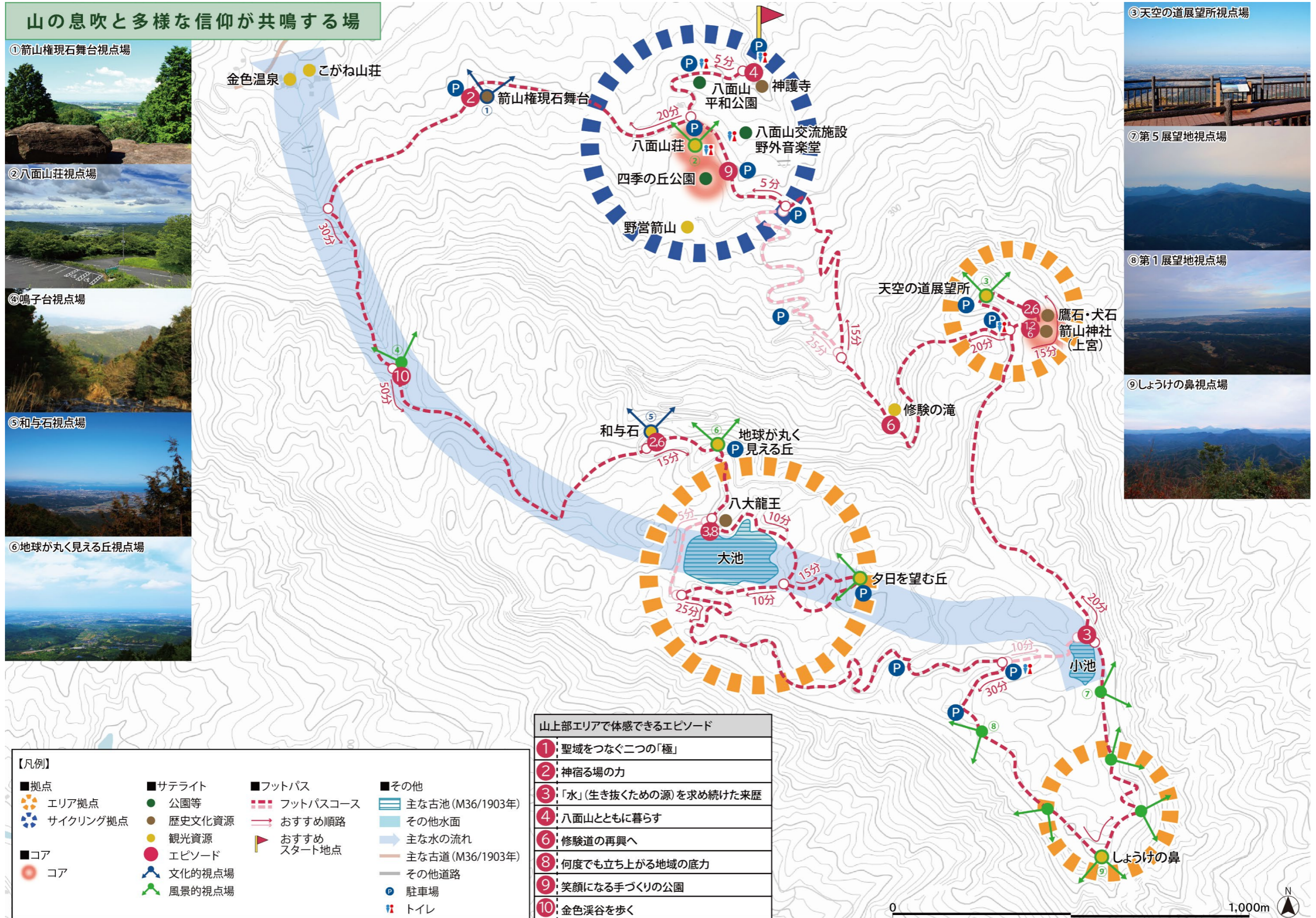
#### 【四季の丘公園（コア）の活用イメージ】

- 公園内に点在する小屋や舞台を活用し、八面山や四季の丘公園、植栽されている植物等に関する謎解きゲームやスタンプラリー等を実施し、楽しみながら知識醸成を図る場としての活用。
- 子どもたちが日常的に遊ぶことができる、自然と触れ合う場としての活用。
- 地域おこし協力隊をはじめとした各種活動者の活躍の場としての活用。

等

■ 四季の丘公園（コア）の活用イメージ

(2) 山上部エリアフィールドミュージアム構成図

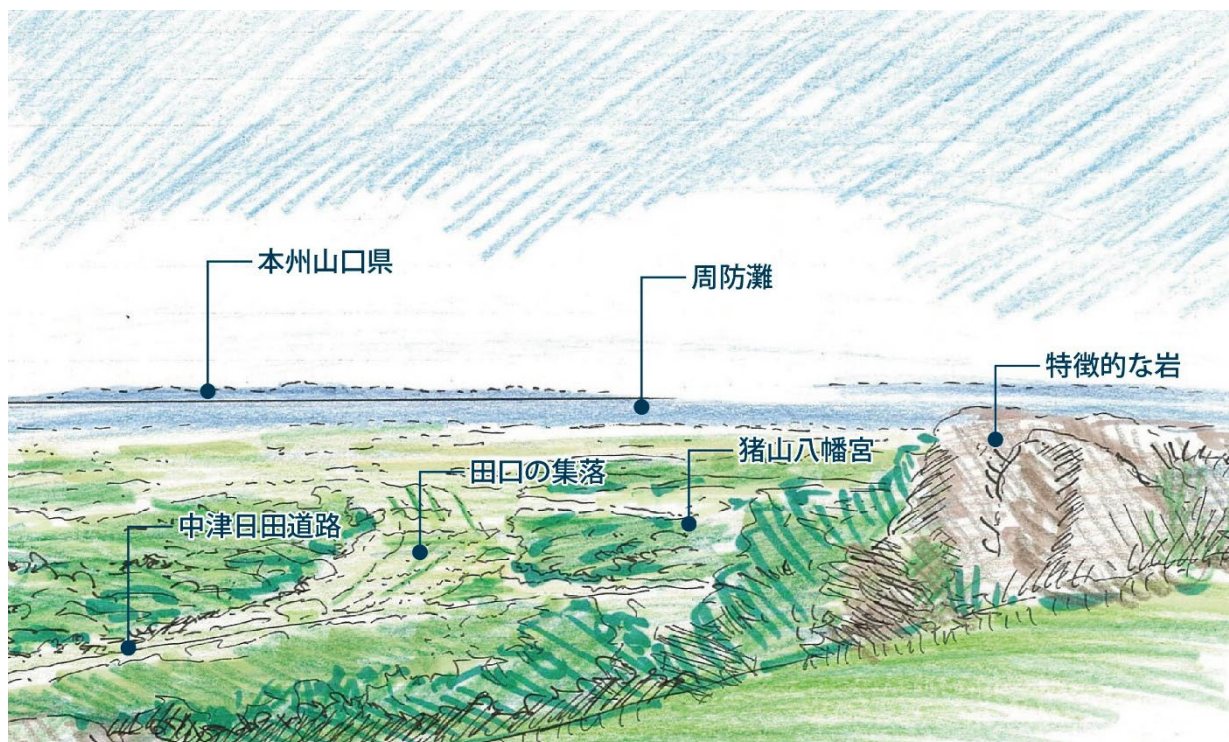


エリア別の取組み方針

※フットパスコースについては、サイン設置やマップ作成時に地域住民との十分な協議を行います。その結果によってはコースが変更となる可能性があります。



### (3) 大切にしたい風景

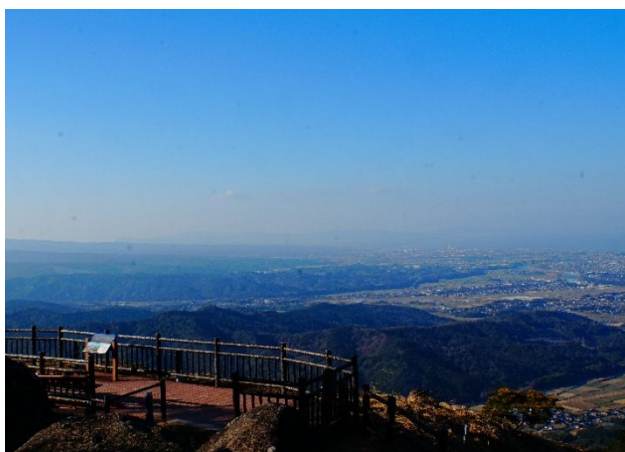


■地球が丸く見える丘より中津平野を望む

八面山は人々の信仰の対象として拝まれてきました。山の上部から平野を眺めると、人々の生活の場や八面山を拝むための場所、さらには薦神社から海までを一望することができます。このような開放的な景色を眺め、人々の暮らしや文化に想いを馳せる風景や、風景が開ける前の期待感が高まる小道は大切にしたい風景です。



■山上部エリア断面イメージ



■天空の道展望所から望む中津平野



■天空の道展望所へ至る期待感が高まる小道



#### 4. その他可能性のあるエリア

八面山の魅力や価値を感じることができる場所は、重点エリアに限らずもう少し広域でも見ることができます。そこで、八面山に隣接する三光地域の東側や本耶馬溪地域において、そのエリアが持つポテンシャルについて整理し、将来的な活用を目指します。

##### (1) 長谷エリア

長谷エリアは、長谷寺～長谷寺奥の院周辺を含む八面山の東側にあたるエリアです。ここには長谷寺とその奥の院があり、さらに岩場伝いに登ると八十八ヶ所遍路道となっており、多くの石仏群を見ることができます。その道中においては、開けた視点場が点在しており、八面山を間近に望むことができ、また中津市街地から周防灘、西萩の田園集落を一望できます。由緒ある古刹を参拝できるとともに、八面山周辺の様々な風景を一望できます。



(2) 中ノ迫エリア

中ノ迫エリアは、八面山南麓にある神護寺奥の院周辺～阿波羅堂を含むエリアです。中ノ迫の景は、名勝耶馬溪66景に選出されており、耶馬溪層凝灰角礫岩の岩峰、石柱、絶壁が連なる地域で、東にオドリ岩、中央にダルマ岩、障子岩、ホケ岩など、特徴的な岩峰群が続いています。また、奥の院から奥へ進むと、段上に整備された土地にイチヨウや果樹が植えられており、その周辺やさらに山の奥の広範囲にかけて、整備された石積を見ることができます。ここから、和気清麻呂の足を治した霊水が湧いていたという伝説が残る阿波羅堂までトレッキングで巡ることができます。

**阿波羅堂**

○阿波羅堂  
・和気清麻呂の足を治した霊水が湧いていたという伝説が残されています

**神護寺奥の院**  
・神護寺の奥の院であり、施錠されているため、ガラス戸越しに中を見ることができます

**八面山神護寺奥の院**

**奥の院周辺 (道)**  
・奥の院からさらに北側へ進む道があり、途中まで舗装された細道が続いています

**奥の院周辺 (植栽)**  
・細道沿いに柿や梅、金木犀等の果樹や花木が植樹されています

**中ノ迫の景**  
・八面山南麓の山並みは奇岩が多く、名勝耶馬溪「中ノ迫の景」に指定されています

**イチヨウの植栽**  
・細道から斜面を登った所に、段状に整備された土地があり、イチヨウが植栽されています

**イチヨウの植栽エリア**  
・さらに奥へ斜面を登ると、さらに奥へ斜面を登ると柑橘類の果樹が植栽されている場所があります

**小川**  
・奥の院横に流れる小川の上流を辿ることができ、小川の両面には人工的な石積や自然に置かれた巨石がみられます

**井戸・小川**  
・小川のそばにある井戸から湧水が出ていました  
・小川には小さな魚が生息しています

**石積**  
・山の斜面を段状に整備したような地形が広がっており、広範囲にわたり人工的な石積がみられます

**【凡例】**  
● 歴史文化資源  
● 駐車場  
— 主な道路  
■ 水面

■中ノ迫エリアにおける将来の活用が考えられる地域資源

(3) 屋形エリア

屋形エリアは、八面山南麓にあるやかた田舎の学校を中心とした屋形川周辺のエリアです。やかた田舎の学校は、旧屋形小学校をリニューアルした農業・農村体験ができる宿泊施設であり、珍しい炭酸泉の温泉が湧き出ています。また、田園集落やエリアの中央を流れる屋形川、その背景にある八面山を含めた穏やかな風景を見ることができます。その風景の中には、耶馬溪新四国八十八ヶ所霊場巡りの札所にもなっている懸造（かけづくり）のお堂などの歴史資源も見ることができます。



■屋形エリアにおける将来の活用が考えられる地域資源



## 1. 広域への展開

### (1) 修験道を辿る広域周遊ルートの設定

中津市周辺における山岳信仰の霊山は、英彦山～求菩提山～八面山～六郷満山と連なり、この辺り一帯は神仏習合が深く根付いている場所であるとともに、神仏習合の中心地とされている宇佐神宮の祖宮が薦神社であり、その奥の院が箭山神社であると言われています。このように、八面山とその周辺にある霊山、また、箭山神社～薦神社～宇佐神宮は、神仏習合との深い由縁にてつながっているとと言えます。

これらのつながりを活かし、豊前市や宇佐市、豊後高田市、国東市等の近隣自治体と連携した広域周遊ルートを設定・整備することにより、広域エリア一帯の観光機運の高まりが期待されます。

### (2) 豊の国千年ロマン観光圏との連携

「豊の国千年ロマン観光圏」は、中津市をはじめ、別府市、宇佐市、豊後高田市、国東市、杵築市、日出町、姫島村に息づく、千年を超える時空の旅が楽しめるエリアとして設定されています。体験・ツアーについて、ガイドや食事、手土産等を含めてパッケージ化されており、予約ができるようになっています。八面山で今後検討される各種体験等についても、食事や宿泊等を含めてパッケージ化し、ホームページやパンフレットへ掲載してもらうなど、豊の国千年ロマン観光圏との連携が期待されます。

### (3) 他団体との連携による取組み強化

平成 29 (2017) 年に中津市と玖珠町で共同申請した「やばけい遊覧～大地に描いた山水絵巻の道をゆく～」が、文化庁より日本遺産に認定されています。やばけい遊覧では、8つのストーリーが設定されており、これらに関連するスポットに、八面山、大池、薦神社と三角池、箭山権現石舞台、和与石が含まれています。また、「日本遺産やばけい遊覧博覧会（やばはく）」においては、これらのストーリーを感じることができる様々な体験プログラムが開催されており、八面山においても様々なプログラムが企画されています。

本計画に基づき、今後実施していく八面山での各種企画・イベント等においては、やばはくと連携することにより、情報発信の強化や集客力向上が期待されます。

## 2. 地域の「暮らし」・「なりわい」・「しごと」とを結び付ける展開

八面山で取り組むフィールドミュージアムは、地域資源を保全・継承することを目指すものではありません。地域で営まれている暮らしに根ざした「なりわい」・「しごと」を、地域の生きた生業として再定義し、観光のみにとどまらない、地域で暮らし続けることができる仕組みづくりへと展開する必要があります。

「なりわい」は、暮らしを営むためにお金を生み出す時間・労力と定義します。また、「しごと」はお金を生み出すことに直結しないことも含み、「なりわい」のために必要な時間・労力のことと定義し、これからの八面山において考えられる「なりわい」と「しごと」の具体例について、以下のよう整理します。

「なりわい」	「しごと」
地域の活動拠点・コワーキングスペースとして空き家の貸し出し	空き家の選定、空き家整備、日常的な管理、貸し出すための情報発信 等
地域で採れた季節の野菜を朝市で販売	田畑・水の確保、土づくり、種まき、水・肥料やり、草取り、日常的な状態管理、収穫 等
地域で採れた食材を活用した加工食品の販売	アイデア出し、企画検討、食材調達、試作検討、製造方法確立、製造、情報発信 等
地域で伐採された木材を活用した木工品の販売	アイデア出し、企画検討、木材調達、試作検討、製造方法確立、製造、情報発信 等
登山・観光客のガイド	案内ルート検討、ルートの安全性確認、ルート整備、ガイド用資料の作成、情報発信 等
山づくり体験・学習イベントの開催	企画検討、イベント開催場所の確保、地拵え、苗木の植え付け、草刈、獣害対策、日常的な管理、情報発信 等
フットパスコース（修験道・登山道含む）の整備体験プログラムの開催	企画検討、コースの安全性確認、整備場所までのルート整備、整備手法の検討、体験に必要な道具調達、記念品準備、情報発信 等
地域資源の保全体験プログラムの開催	企画検討、地域資源の選定、地域資源周辺の安全性確認、地域資源までのルート整備、保全手法の検討、体験に必要な道具調達、記念品準備、情報発信 等



Implementation Plan



## 第6章 八面山振興に向けた実施施策

本実施計画は、単なる山の整備にとどまらず、八面山の振興を三光地域全体の活性化（地域振興）に直結させるための具体的なアクションを定めるものです。中津市のシンボルとして、また『ふるさとの山』として愛されてきた八面山を舞台に、地域住民・各種団体・行政が一体となった取組みを展開します。

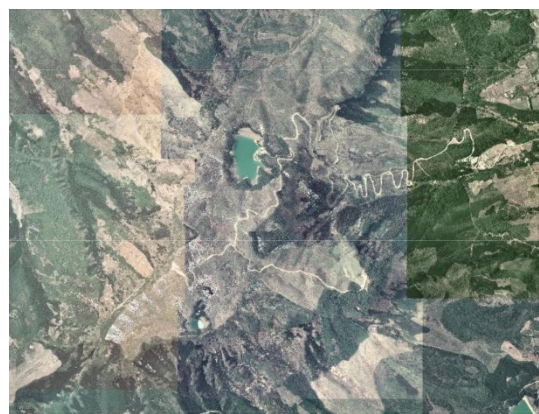
### 1. 森林資源を未来へつなぐ施策（八面山森林整備計画）

昭和 50（1975）年頃の八面山の森林は、旧本耶馬溪町側の斜面や金色溪谷周辺及び、旧三光村側の麓から上部にかけて広範囲にわたり木材生産が行われ、木がほとんど無い状態にありました。（下記写真参照。）

かつては、国内の木材需要が高かったことから、八面山についても木材供給の重要な生産地として伐採が行われ、その後も植林が行われました。現在、国産材需要の低下や森林所有者の高齢化等に伴い、森林の管理及び生産活動が停滞し、人の手が届かない森林が増加しています。



資料：旧三光村写真集（昭和 40（1965）年）



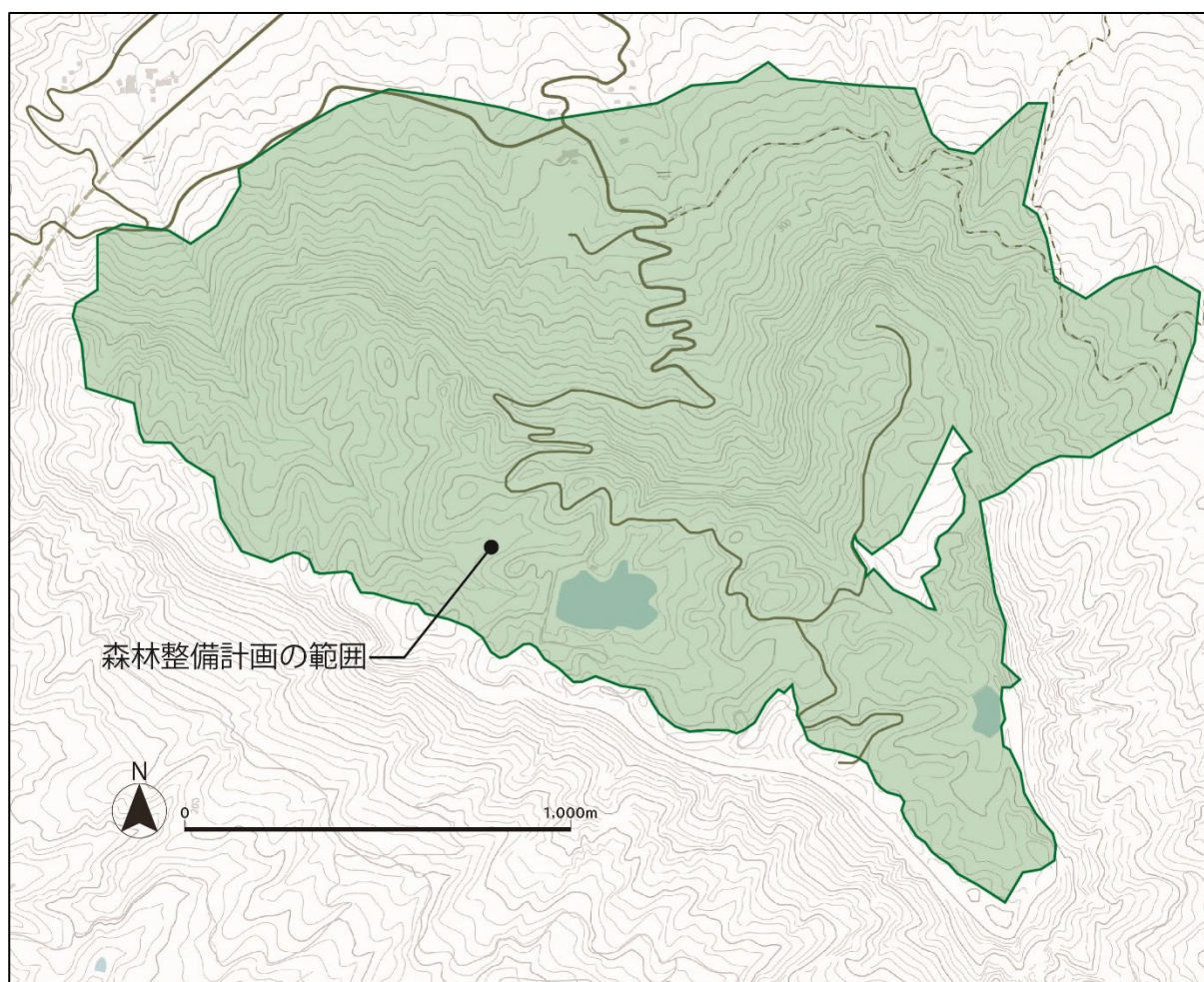
資料：国土地理院（昭和 50（1975）年）

このような森林においては、森林の持つ公益的機能が低下し、大雨による洪水や林地崩壊等が懸念され、住民の安全安心な生活にも影響が及ぶ可能性があります。このことから、森林と住民生活とは密接な関わりを持ち、国土の保全、水源涵養機能や地球温暖化防止対策につながる二酸化炭素吸収固定機能等、森林の持つ公益的な機能を最大限発揮させることが必要です。（適切な森林管理の実施による CO2 等の温室効果ガスの排出削減量や吸収量を「クレジット」として国が認証する、「J-クレジット制度」等も注目されています。）

八面山においても、このような情勢の中で求められる山のあり方や機能が多面化していることを踏まえながら、八面山の森林資源を未来へつなぐための施策を示します。

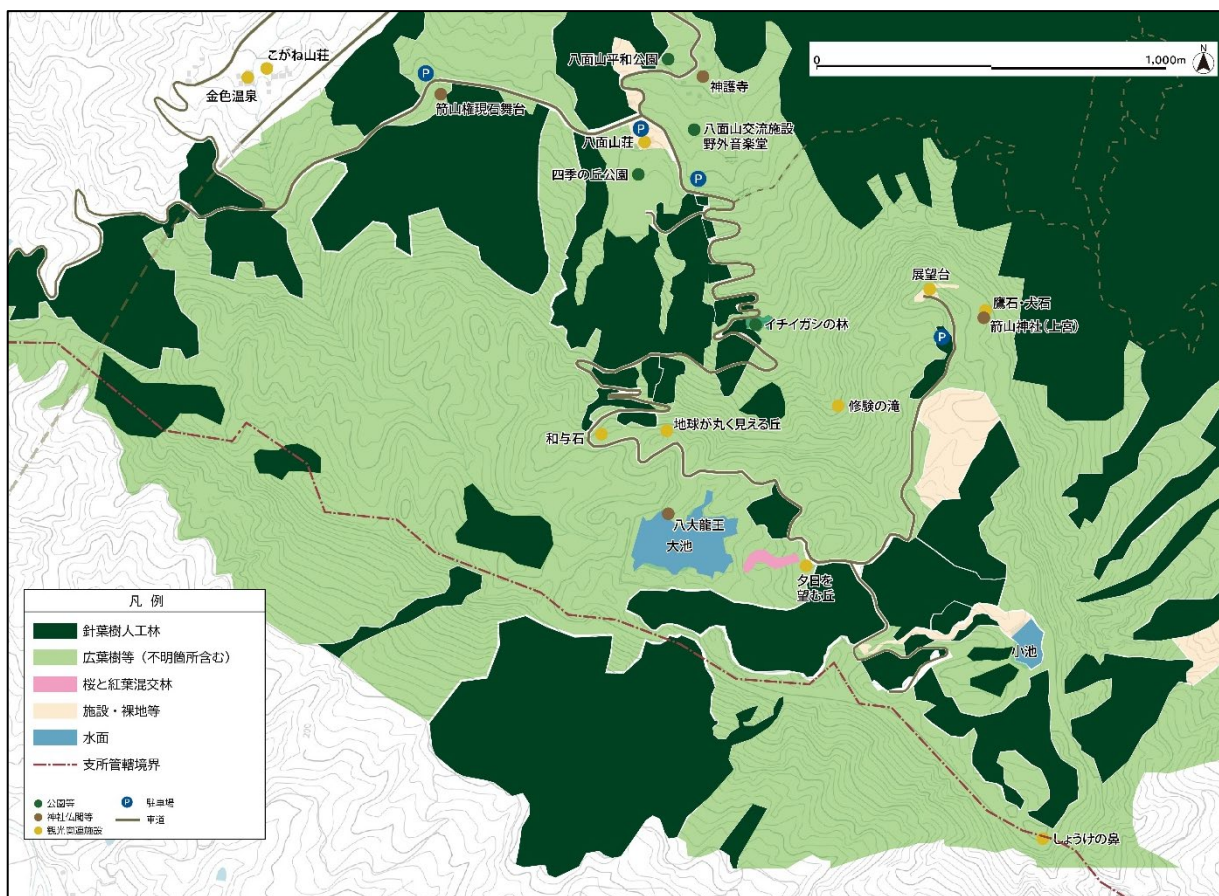
### (1) 対象範囲

森林整備計画の範囲を下図に示します。主に市有林を対象範囲としています。一部、箭山神社所有の敷地を含んでいますが、個人の民有地は除きます。



## (2) 現況植生の概況

主に針葉樹人工林や広葉樹の範囲における植生の概況について示します。なお、八面山に多く自生・植栽されているマツやサクラについて、道路沿いでは枯死による倒木の恐れが懸念されており、適切な伐採等の安全対策が求められる状況です。



■ 現況植生図

資料：航空写真（Google）及び現地踏査確認を基に作成

### (3) 森林整備の方針

八面山森林整備計画においては、「中津市森林整備計画」の「II 森林の整備の方法に関する事項」に定められる森林の整備に関する事項に基づき実施するものとし、具体的な方針を以下に述べます。

#### 1) 伐採方針

基本的に伐採は、伐採後に景観を改善すべき場所を見据えた長期的な視点を持ちつつ、以下の優先順位で行います。

- ①道路沿い（近景）：人の目に触れやすい場所として車道やフットパス（登山道等）沿い
- ②八面山北側の斜面（中～遠景）：八面山を麓から見たときに見えやすい場所
- ③八面山の南側の斜面（市街地の反対側）：見えにくい斜面は木材供給機能を一部維持

#### 2) 生物多様性の保全

針葉樹を中心とした人工林は、広葉樹を中心とした天然林に比べて生物多様性が低下する傾向にあります。生物多様性の観点を踏まえた八面山の森林のあり方として、八面山全体を天然林、人工林、針広混交林に分けて考え、生物多様性に配慮した植林の管理を行います。

環境省では、ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現のために、陸と海の30%以上を保全する「30by30」の目標を掲げて生物多様性の保全に取り組んでいます。将来的な企業と連携した自然共生サイトの認定を見据え、継続的に生物多様性を保全します。

##### 【具体的な取組み】

- 生物多様性に配慮した森林の管理

#### 3) 防災・減災

手入れされていない森林は、豪雨や台風等の災害時において倒木が流木となったり、地盤を支える力が少なく土石流が発生するなど被害の甚大化につながります。豪雨や台風等の災害発生の際に、災害の防止や軽減等のいわゆる防災・減災に資する適切な森林管理を実施し、森林の水源涵養機能の維持や倒木・流木の発生及び土石流の発生を低減します。

また、山火事は広範囲に延焼することで消火活動に時間がかかり、被害も大きくなります。このため、山を訪れる人々が失火しないよう様々な形で広報します。山中には防火水槽を各所に設置するなど対策を行っていますが、消防署や消防団による山林火災訓練を定期的に行うなど、万が一の場合も被害を最小限に抑える体制を維持します。

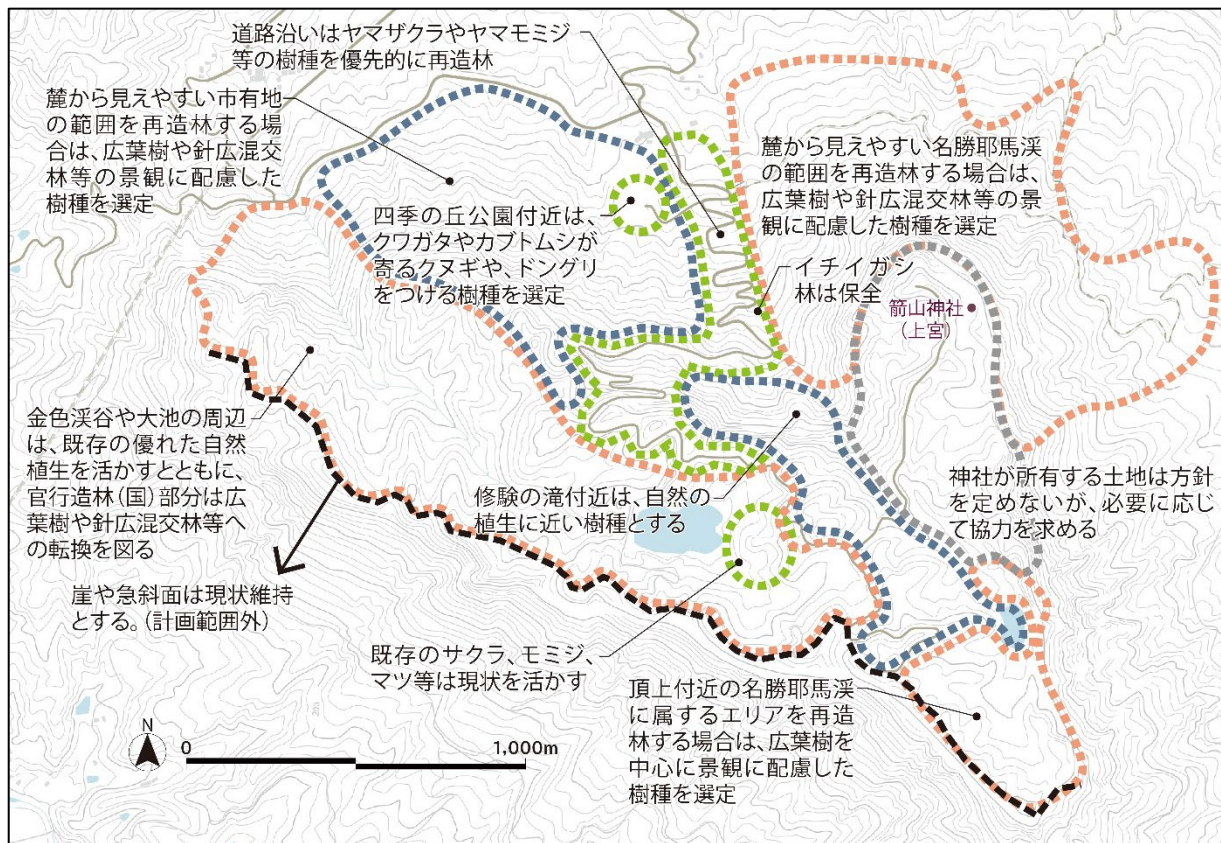
##### 【具体的な取組み】

- 防災・減災のための適切な森林管理
- 山火事防止のための広報
- 山林火災訓練の定期的な実施

## 4) 造林方針

### ①再造林の方針

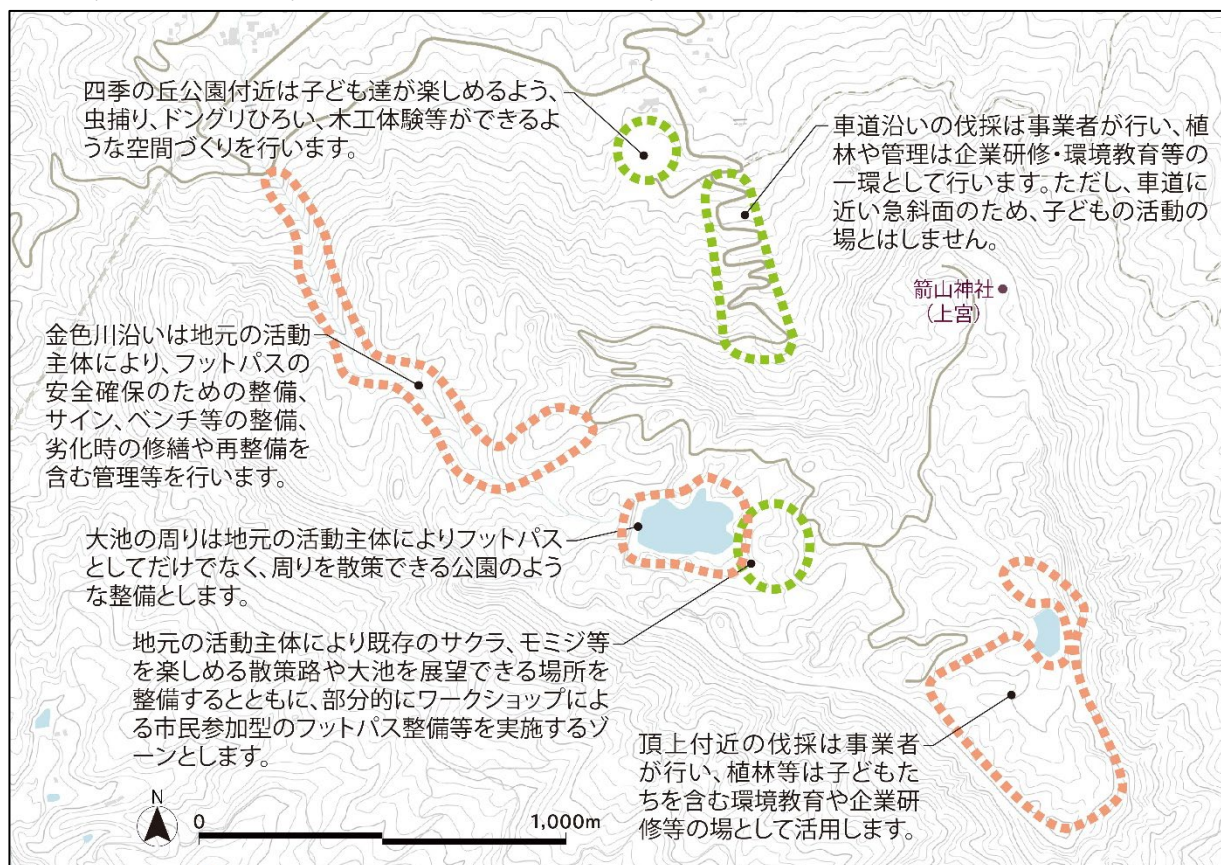
名勝耶馬溪、官行造林(国)、現地踏査による現状確認等を踏まえ、再造林の方針を下図に示します。特に道路沿い等の目に触れやすい場所や樹木の枯死が懸念される場所、今後、伐期を迎えることとなる官行造林地を優先的に整備します。



■再造林の方針

## ②地元や市民の活動の場として優先的に整備するゾーン

地元や市民等の地域活動の場として優先的に整備していく場所のゾーニング図を示します。基本的に伐採は事業者が行い、植林や管理は地元や市民、企業等、多様な主体が関わりながら整備を行います。ゾーニングに示す場所以外についても、伐採後の広葉樹や針広混交林への転換については場所の状況や各主体の状況に応じて柔軟に進めます。



■ 地元や市民の活動の場として優先的に整備する場所のゾーニング図

### ③造林樹種の考え方

場所の特性を考慮しつつ、景観に配慮しながら造林を行います。基本的には、針葉樹の人工林から広葉樹を中心とした樹種へ転換させつつ、造林する場所の景観、生物多様性等に配慮しながら造林樹種の選定を行います。具体的な樹種は造林時において詳細に検討することとしますが、以下に考え方の例を示します。

#### <造林樹種の考え方の例>

##### ○八面山荘から箭山神社方面へ登る車道沿い

既存の広葉樹を活かしつつ、良く見える場所にヤマザクラやヤマモミジを植樹します。紅葉がきれいで美しい樹種をバランスよく植えるため、ブナノキ、イロハモミジ、ウルシ等も植樹します。落葉樹が落葉した際にも一定の緑を確保するため、落葉樹の奥に見える常緑樹としてクスノキや花をつけるイスノキを植樹します。季節感を感じるアクセントとして、花をつけて紅葉もするコブシ、ヤマボウシ、ユリノキ、トチノキ、カツラ等も植樹します。車道に近い場所では、ドングリをつける木や、実をたくさん落とすイチョウはなるべく避けることとします。

##### ○子どもが入れる想定のある場所

クワガタやカブトムシが採れるクヌギ、葉が笛のように鳴ることがあるイスノキ、ドングリをつけるコナラ、ブナノキ、ミズナラ、シラカシ、アラカシ、ウバメガシ、コジイ、スダジイを中心に植樹します。他にも、様々な樹種を子どもが学べるよう、多様な樹種を植樹します。

##### ○人工林を残す場所との境目付近

針葉樹を中心とする人工林を残す場所と、広葉樹を植栽する範囲の境目付近は、植生の違いのコントラストが強くなって不自然な景観となるのを避けるため、針広混交林として自然な植生の変化となるよう意識した植樹をします。

##### ○和風の雰囲気に近い場所

和風の雰囲気が合う場所等では、マツを中心に植樹します。

##### ○天然更新を目指す場所

天然力の活用により適確な更新を図る場所においては、植生の遷移を見守り、土地の風土に合った樹木が自然と育つのを永年かけて観察するなど、その時代ごとの子どもや大人にとっての学びの場とします。天然更新を図るにあたっては、「中津市森林整備計画」の「II 森林の整備の方法に関する事項」の「第2 造林に関する事項」の「2 天然更新に関する事項」に準じます。

##### ○既存の植物相を活かす場所

「名勝耶馬溪保存管理計画報告書（平成 23（2011）年 3 月）」の P76「中ノ迫の景」によれば、岩峰・岩壁の植生（イワヒバ、イブキシモチ）、コナラ林、イワシデ林、アラカシ林が自然的要素として示されています。また、八面山中腹の自然林である「田口のイチイガシ林」が県の天然記念物に指定されており、高木層としてはナナミノキやタブノキもみられます。

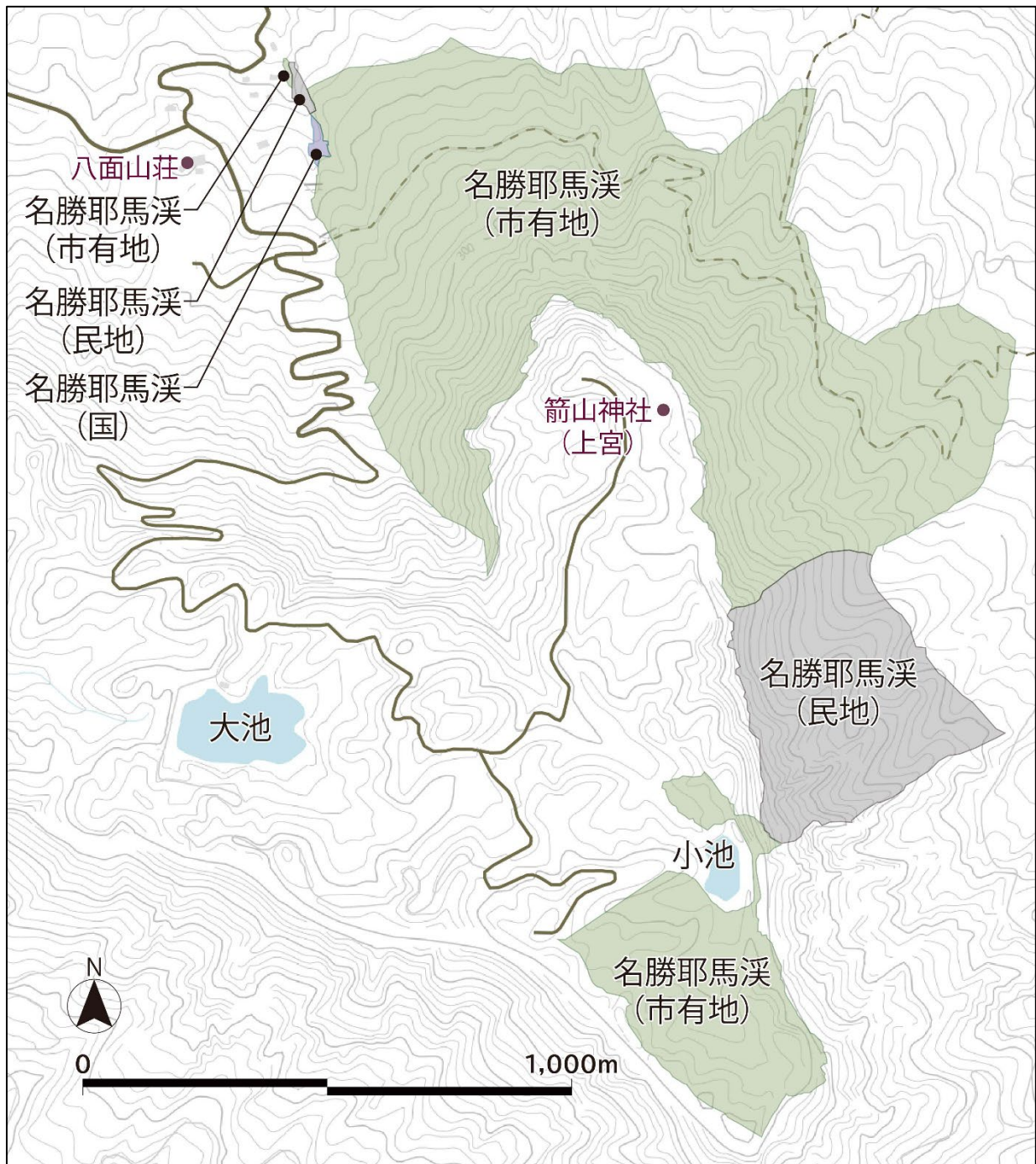
これらの保全すべき場所に近い場所の造林は、既存の植物相を踏まえながら植樹します。

##### ○木材の活用を想定する場所

流通量が少なく市場価値の高いアオダモ、家具や工芸品をつくるのに適したブナノキ等、これまでのスギやヒノキ等の人工林とは異なる価値を持つ、将来の活用を想定した樹種を植樹します。

#### ④名勝耶馬溪における再造林の方針

八面山は、名勝耶馬溪指定地の一部です。名勝耶馬溪のうち「八面山の景」は第1種保護地区と第3種保護地区に指定されています。『名勝耶馬溪保存管理計画報告書』（平成23（2011）年3月）では、木竹の伐採・植樹の現状変更について、「木竹の伐採は、枯損木、危険木及び古写真や歴史資料に基づき実施する景勝地の復元に伴う伐採に留める。また、防災上の観点から裸地等に植栽する場合においても、指定地内の樹木の移植及び指定地内の種子を採取しての撒布に留める。」こととなっています。名勝耶馬溪に該当する場所は麓から見えやすい場所や頂上付近の登山者の目に触れやすい場所でもあり、八面山の景観にとって重要であることから、この場所を再造林する場合は広葉樹や針広混交林等、景観に配慮した植生とします。



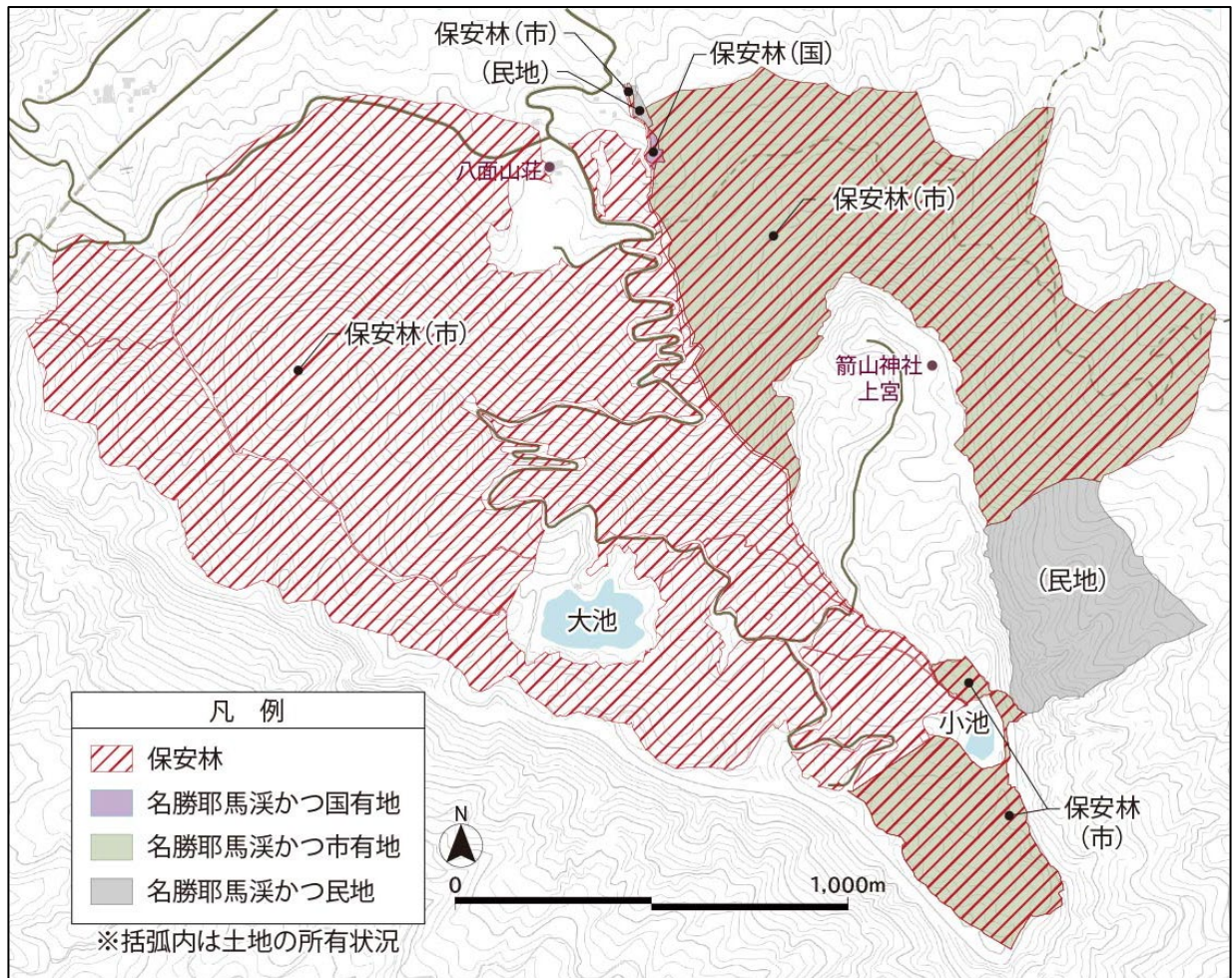
■名勝耶馬溪（八面山の景）と所有者の現状

資料：庁内資料を基に作成

### ⑤保安林と名勝耶馬溪の現状

保安林は、公益的機能の発揮が特に求められる森林について、森林法に基づいて保安林に指定し、立木の伐採や土地の形質の変更等を規制するものです。位置、地形等から、山地災害防止機能、水源涵養機能等の発揮が期待されます。このため、立木の伐採等を行う場合は、あらかじめ県知事の許可を受ける必要があります。

なお、対象範囲における保安林は、国や市が所管するエリアと同一です。また、名勝耶馬溪の範囲は対象地の東側に集中しており、対象地の西側に広がる保安林かつ市有林は名勝耶馬溪には含まれていません。

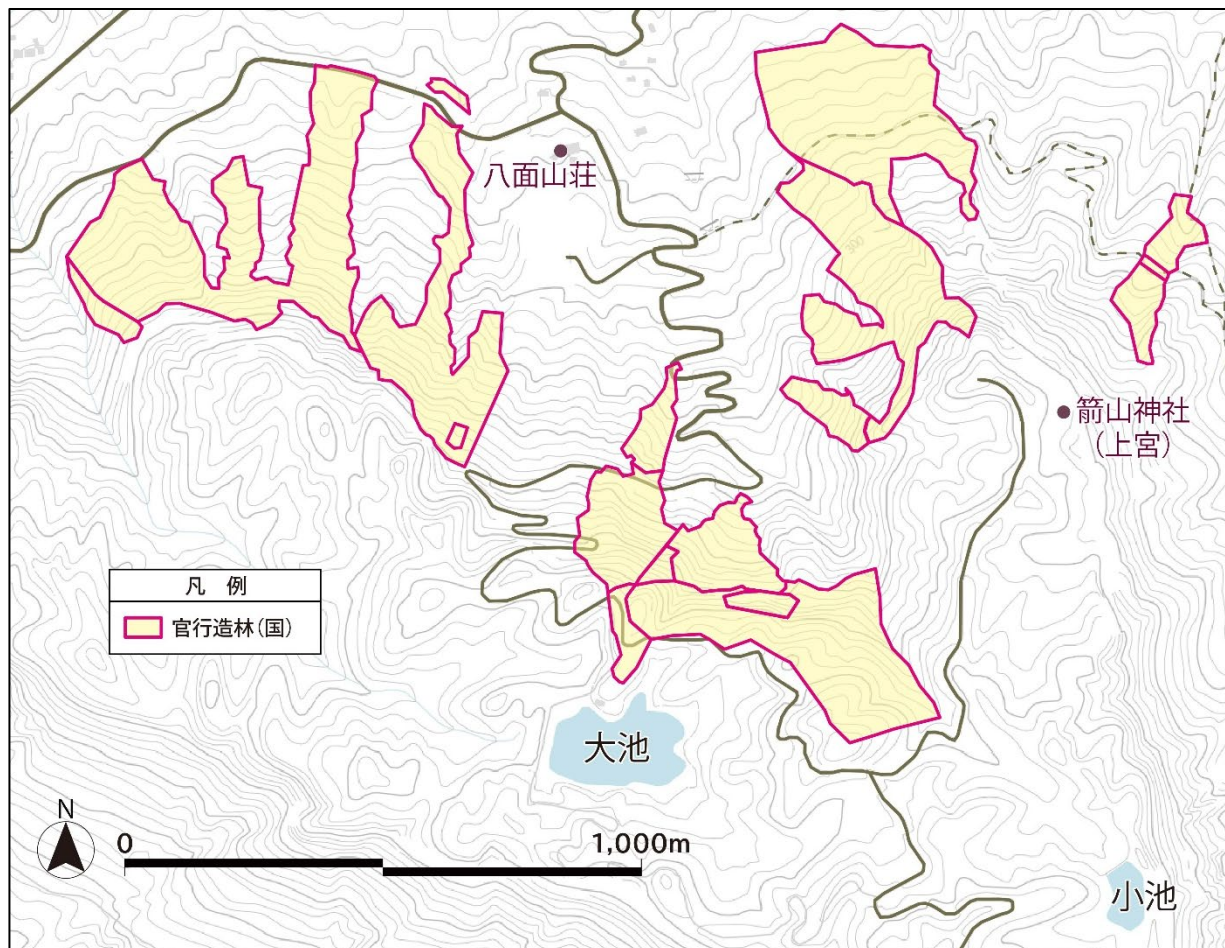


■保安林と名勝耶馬溪（八面山の景）の現状

資料：庁内資料を基に作成

## ⑥官行造林（国）の範囲について

現在の官行造林（国）の範囲を下図に示します。年を追うごとに市への返地が進み、官行造林（国）の範囲は減少し続けています。官行造林（国）は基本的に全伐後に返地となりますが、その後の取り扱いについては、八面山の豊かな自然環境や景観への影響に十分に配慮した方法となるよう、国等の関係機関と協議・調整を進めていきます。



■官行造林（国）の現況図

資料：庁内資料を基に作成

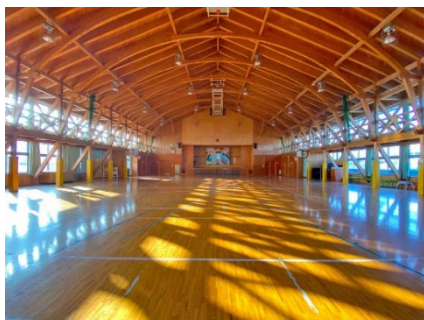
## 5) 森林資源の活用方針

森林においては、公益的な機能に加えて、木材生産を行い木材利用を同時に推進していくことが必要です。森林の持つ公益的機能に木材生産機能を加えたものを森林の持つ多面的機能と呼びます。

ここでは、森林資源の活用方針について述べます。

### ①公共施設等での木材利用推進

近年、公共施設等における木材利用が注目され、地域材利用へ積極的に取り組んでいる自治体もみられます。本市においても市産材等を活用した公共施設整備が行われています。今後も地域材の有効活用を推進します。



■市産材の活用（鶴居小学校体育館）



■県産材の活用  
（なかつ・こどもいきいきプレイルーム）



■木製玩具  
（杉タマゴ）

#### 【具体的な取組み】

- 公共施設における地域材の活用

### ②フットパスでの木材利用推進

八面山で生産された木材等を利用してベンチやサインを設置するなど、来訪者の利便性や快適性を向上させます。木材によるモノづくりは景観になじむうえにコストも低いですが、劣化のサイクルも短い傾向にあるため、行政が支援する仕組みを構築します。



■自然の木材を活用したベンチの例



■手作りの木の案内表示①



■手作りの木の案内表示②

#### 【具体的な取組み】

- 八面山で生産された木材を利用したベンチやサインの整備
- 地域の活動を支援する仕組みの構築

### ③多様な木材利用方法の情報収集

木材の利用方法は年々拡大しています。例えば、スギやヒノキの樹皮を土壌改良剤に混ぜることで、学校や公園のグラウンドの雑草やほこりを抑制するとともにクッション性を有し、環境にもやさしいなど、これまで廃棄されていた樹皮を活用する方法が開発されて実用化されました。

これらの新しい技術や工夫について、八面山の木材の活用方法の多様化を図るためにも、常に多様な木材利用方法について動向を注視しながら情報収集します。

#### 【具体的な取組み】

- 多様な木材利用方法の情報収集

### ④GX（グリーントランスフォーメーション）への対応

気候変動問題を背景としたカーボンニュートラルや脱炭素社会の実現と経済成長の両立を国として目指すなかで、化石エネルギーへの依存度を減らすための変革をGXと呼びます。令和8（2026）年度から排出量取引制度（各企業が保有する排出枠の削減分を販売できる制度）が本格稼働し、令和10（2028）年度から化石燃料に対する賦課金を科すこととなっています。

これらの社会的背景を踏まえ、森林管理プロジェクトにより J-クレジットを創出し、地元企業等に販売する仕組みの活用が考えられます。中長期的な視点で森林経営計画を作成し、同計画に基づき適切に森林の施業及び保護を行うことが、将来的な J-クレジットの創出につながる可能性があります。森林管理は必要であり、こうした制度の活用が実現すれば、森林管理を経済的にも下支えすることにつながります。国、県、事業者、地元のキーマン等と連携しながら、制度導入の可能性を含めた八面山の森林経営のあり方を検討し、適切な森林経営を推進します。

さらには、八面山で生産された木材を利用した暖房器具向け木質ペレットの生産、木質バイオマスの活用等、エネルギーに関連する活用も検討します。

#### 【具体的な取組み】

- J-クレジット制度等の活用に向けた調査・検討
- エネルギー分野の木材活用の検討



■J-クレジット制度パンフレット  
資料：経済産業省 HP

## ⑤樹種の特徴を考慮した取組み

次ページ以降に示す樹種の特徴や利用方法等を踏まえながら、以下の例に示す様々な形で木を活用します。活動に当たっては、後述するソフト施策としての「(仮称)八面山塾」を活用します。

<取組みの例>

### ○木の作品づくりを体験する

- ・八面山で生産された木材を使って様々なものをつくる（例：お箸、鉛筆、積み木、コースター、ネームプレート、焼杉（板）、クリスマスのオーナメント、ぶんぶんごま、玩具、遊具（ブランコ等）、ツリーハウス、小屋、デッキ、ベンチ、アート作品、鳥の巣箱、落ち葉溜め、階段等）

### ○子ども達の遊びや体験を通じて学ぶ

- ・拾ったドングリから苗をつくって植樹する。
- ・ドングリを拾ってコマや飾りをつくる。
- ・木によって異なるドングリの形を比べる。
- ・食べられるドングリや実を食べる。
- ・イタヤカエデの樹液を煮詰めてシロップをつくる。
- ・アオダモの枝を折ってガラスのコップの水に挿し、UV ライトを当てて青い蛍光色を観察する。
- ・イスノキの虫癭（ちゅうえい）を笛のように吹いてみる。
- ・薪割りを体験する。
- ・ツリークライミングを体験する。
- ・キャンプ等で、マッチだけを使って薪（コナラ等）に火をつけ、飯盒でご飯、鍋でカレー、バーベキュー等、自然の中で料理体験をする。
- ・多様な生きた樹木に触れ、季節ごとの変化を感じる。
- ・植林を体験する。
- ・林業を見学する。
- ・伐採体験（スギの皮はぎ）後、別途用意した伐採木を活用した木工作品をつくる。
- ・炭づくりを体験する。
- ・シイタケの植菌を体験する。
- ・葉っぱを集めて紙に貼って工作する。

### 【具体的な取組み】

- 「(仮称)八面山塾」の開校

No.	種別	樹種名	特徴、利用方法等
1	常	スギ	日本の固有種で、古くから建材、酒樽、桶等、様々な用途で使われてきました。樹皮は屋根葺、外壁の保護剤としても利用され、葉を乾燥させて粉末にした「杉粉」は線香の原料にも利用されます。
2	常	ヒノキ	高品質の木材として古くから利用され、寺社の建材や仏像の他、せいろ、桶、まな板等の日用品にも利用されてきました。
3	常	マツ類	建材としては梁、垂木、化粧材等に利用されてきました。油脂分が多いことから、松明(たいまつ)や高熱を必要とする陶芸の窯の燃料としても利用されてきました。
4	落	クヌギ	カブトムシやクワガタが寄ってくる代表格の樹木で、ドングリをつけます。殻斗(かくと)と呼ばれるドングリの帽子部分はタンニンが豊富で、古くから衣類を黒や茶色に染める天然染料として利用されてきました。シイタケ栽培の原木としても良く利用されます。
5	落	コナラ	細長いドングリをつける木です。成長が早く、かつては「薪」として最も身近な家庭用燃料でした。適度な堅さと弾力があるため、農具の柄としても利用されてきました。クヌギと同様にシイタケの原木としても利用されます。
6	落	ケヤキ	建材や家具等、様々な用途で利用されてきました。強度が非常に高く大径木が得られるため、寺社の「大黒柱」や「門」など荷重のかかる重要な構造部分や、耐久性が求められる餅つき用の臼と杵にも最高品質の材料として利用されてきました。
7	落	イヌエンジュ	心材と辺材の色の違いがはっきりしている木で、大きな材が得られにくいから、内装や家具の装飾、寄木細工等にも利用されます。染料としても、樹皮や心材から茶色の染料が抽出され、落ち着いた色合いの草木に染められます。
8	落	ヤマザクラ	仏壇、楽器、道具の柄、高級家具の材料等に利用されてきました。木を燃やした時の香りが非常に良いから、現代でもハムやチーズを燻製にする「スモークチップ」の代表格です。
9	落	ヤマモミジ	木目が緻密なため、櫛、そろばんの枠、箸など肌に触れる小さな実用品の材料になりますが、成長が遅く、木材としてあまり流通していません。葉は、塩漬して衣をつけて揚げる「もみじの天ぷら」が大阪府箕面市などで有名です。
10	落	イチヨウ	適度な柔らかさがあり包丁を痛めにくいから、まな板に利用されます。碁石や将棋の駒を打つ時の弾力性のある打感と高い音から、碁盤、将棋盤等にも利用されます。実の「ぎんなん」は、茶碗蒸し等の秋の味覚です。
11	落	キハダ	樹皮を煮出した液は、目が覚めるような黄色に染まるため、法衣(僧侶の服)や和紙の染色に利用されます。虫がつきにくいから、住宅の基礎や敷居のほか、印箱(はんこ入れ)などの貴重品入れに利用されてきました。
12	落	ナナカマド	「七回竈に入れても燃え残る」と言われるほど耐火性が高いため、炭焼きの際の間木(まぎ)や、囲炉裏の道具として使われました。
13	常	コウヨウザン	スギ・ヒノキの約半分の20~30年程度で主伐可能な早生の針葉樹で強度が高く、合板、建築柱材、家具、道具の柄などに利用されます。萌芽力が強く、木質バイオマス燃料への活用も期待されています。
14	落	チャンチンモドキ	材に赤みがあり、磨くと美しい光沢が出るから、高級な箸や茶道具、宝宝箱などの小細工に利用されます。
15	落	ユリノキ	花から大量の蜜が採れるから、現代の日本では街路樹としてだけでなく、良質な蜂蜜を採るため重要な「蜜源樹」として養蜂家に利用されています。
16	落	ケンボナシ	時に複雑な木目が現れ、家具等に利用されます。熟すと果実の根元(柄果)が膨らみ梨のような味がします。
17	落	センダン	材質に独特の芳香があるから、数珠や仏像などの香木としても利用されます。葉に殺虫成分が含まれており、かつてはトイレの防虫や、農作物の害虫除けとして農村で利用されてきました。
18	落	ホオノキ	製図板・まな板:刃あたりが柔らかく、かつ定規が狂わない安定性があるから、プロの料理人のまな板や、精密な製図板に利用されてきました。
19	落	オノエヤナギ	水辺に強く、切った枝を床に刺しておくだけで根付く生命力があるから、川の堤防を補強する「土留めの杭」として活用されてきました。
20	落	キリ	重量が軽く、湿度の変化に合わせて呼吸し、防虫・防湿・難燃性に優れているから、着物や大切な文書を守る収納家具として桐筆筒(きりだんす)は最高峰とされます。軽くて足あたりが良く、汗を吸っても冷たくならないから、高級下駄にも利用されてきました。
21	常	シラカシ	非常に強く摩耗に強いから、大工道具の鉋(かんな)の台として最高級品とされ、鍬や鎌の柄、木刀にも利用されてきました。葉が密に茂り、火に強いから、火災や強風から家を守る「屋敷林」としても利用されてきました。少し細長いドングリをつけます。
22	常	アラカシ	水に沈みやすく腐りにくい特性を活かし、束ねて川底に沈める河川工事の粗朶沈床工(そだちんしょうこう)に利用されています。薪としても火力が強く火持ちが良いから、鍛冶屋など高温が必要な際の燃料としても利用されました。丸いドングリをつけます。
23	常	ウバメガシ	非常に重くて強く、最高級炭の代名詞「備長炭」の原料です。ソロバンの玉の材料としても最高級品です。ドングリは殻斗が小さく外れやすくなっています。

※次ページへ続く

No.	種別	樹種名	特徴、利用方法等
24	常	コジイ (ツブラジイ)	「シイタケ」の名前の由来通り、かつてはシイの木が栽培に最も適した原木として利用されてきました。シイの実実はアクがほとんどなく、生でも食べられますが、軽く炒めたり素揚げしたりすることで、子どものおやつとしても親しまれてきました。
25	常	スダジイ	シイの中でも材が大きく、湿気に強く腐りにくいため、古民家の湿気がたまりやすい場所の「土台」として活用されてきました。大粒の実実は保存がきくため、粉練りして、飢餓の際の保存食や、お祭りの「シイ餅」として地域に根付いていました。
26	常	タブノキ	家具等の木材や、タブ粉として線香を固める材料にも利用されます。伊豆諸島の伝統工芸「黄八丈」では、タブノキの皮を煮出して、樺色と呼ばれる茶褐色に美しく染めた絹織物などに利用されています。
27	常	シロダモ	幹は建築材として、種子から採れた油はろうそくの原料として利用されていました。葉の裏が白いことから名付けられたと言われていました。アオダモとは異なる種類の木です。
28	常	イスノキ	成長が遅く堅いため、櫛、そろばんの玉、家具等に利用されます。アブラムシが葉につくと膨らんで虫癭(ちゅうえい)と呼ばれるコブができて中が空洞になり、虫がいなくなると口を当てて吹くと笛のような音がします。
29	落	エノキ	根が深く長寿命のため、江戸時代には街道の距離の目安となる「一里塚」に植えられ、旅人の日陰と道標でした。木質が緻密で表面がやわらかく、着物の折り目をつける「裁縫用のへら」など布を傷めない道具に利用されました。
30	落	ムクノキ	靱性が高くかつては天秤棒などに利用されました。葉の表面にケイ酸を含み、ザラザラしているため、漆器や木工品、さらには「爪」を磨くための「天然の紙ヤスリ」としても江戸時代から利用されました。熟すと黒くなり、干し柿のような独特の味があります。
31	落	トチノキ	強いアクがありますが、灰汁で抜けることで非常に粘り強い「トチ餅」(救荒食物)になり、山間部の重要な保存食でした。
32	落	ウリハダ カエデ	樹皮がウリに似ていることから名づけられました。白くきれいな木材はコケシや玩具に利用され、かつては樹皮から縄や蓑もつくられました。
33	落	カツラ	軽くて加工が容易なため、家具、碁盤、将棋盤等に利用されてきました。刃当たりが優しく、和服の裁断などを行う際に布を傷めず、かつ定規が滑りやすいため、和裁の裁ち板にも利用されます。
34	落	ブナノキ (ブナ)	建材、家具、工芸品など多用途に利用されています。肌目が緻密で、ささくれが立ちにくい清潔感があるため、子どもが口に入れても安心な木製の積み木や玩具の代表的な材料です。口当たりが軽く優しいため、スプーン、フォーク等にも利用されています。
35	落	ミズメ	木材としては「ミズメザクラ」とも呼ばれますが、ザクラとは別種です。非常に堅く肌触りが美しいため、高級家具、器具材、印鑑等、多用途に利用されます。
36	落	ハンノキ	湿地に森林を形成するため水に強く、海外のアルダーと同種で、家具や楽器にも利用されます。ベネチアでは街の土台となる杭としても利用されました。材が適度に柔らかく削り心地が良いため、かつては鉛筆の軸材の一部としても利用されていました。
37	落	ミズナラ	西洋では「オーク材」と呼ばれ、非常に堅く重厚感があるため、何代も受け継がれるアンティーク家具にも利用されます。かつての里山では、薪炭材としてだけでなく、ナラタケなどのキノコを発生させるための原木としても利用されました。
38	常	クスノキ	木全体に強い芳香があり、これを蒸留して抽出した「樟脳」は天然の防虫剤でした。耐朽性が高く大径木が得られるため、寺院の巨大な梁や雨風にさらされる場所の彫刻材としても利用されました。
39	落	イロハモミジ	非常に堅く美しいことから、家具、フローリング材、楽器、野球のバット、そろばんの枠等、多用途に利用されています。
40	落	イタヤカエデ	家具、フローリング材、楽器、いす、机等に利用されます。樹液を煮詰めてシロップをつくることもできますが、カナダ産のメープルシロップとは種類が異なります。
41	落	ウルシ	ウルシの樹液は優れた天然塗料で、酸やアルカリ、熱にも強く、食器や工芸品として永く持たせる保護材として利用されています。麦粉と混ぜた「麦漆(むぎうるし)」は、割れた陶器を修復する「金継ぎ」の材料としても利用されています。
42	落	シオジ	日本の特産種で、フローリング、壁面材、家具、木工品、楽器、野球のバット、テニスのラケット等、多用途に利用されます。
43	落	アオダモ	重厚で粘りがあり裂けにくいといった特徴、反発力、しなりの特性等から、野球のバットには最も良い材料ですが、希少性のため高級品とされています。アオダモの枝を切って水に挿し、ブラックライトを当てると青い蛍光色を発します。
44	落	ヤマボウシ	重厚で非常に堅いため、農具や工具の柄、木槌、杵等の強度が求められるところに利用されてきました。実はそのまま食すこともできるだけでなく、ジャムや果実酒にも利用できます。
45	落	コブシ	材質はホオノキに似ており、家具、工芸品、玩具等に利用されます。「田打ち桜」とも呼ばれ、この花が咲く時期を目安に田植えの準備を始めるなど、農家の生活と深く関わってきた木です。

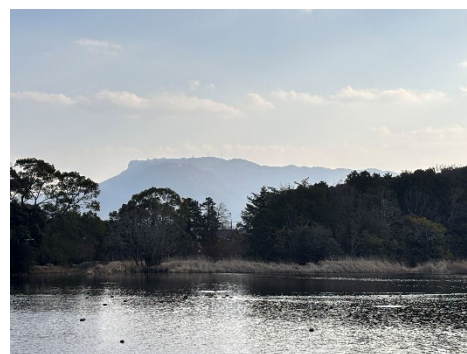
■造林対象樹種の主な特徴や利用方法等



## (4) 環境整備

### 1) 水源涵養機能の向上

地域住民は八面山を水が豊富な山として捉え、麓や田畑を潤す存在として親しまれてきた一方で、かつて針葉樹人工林が植樹された後、川の水が減少してきました。これは針葉樹林の高い蒸散機能により麓へ流れる水の量が減ることによるものと考えられており、「森林の水源涵養機能に係る解説資料」（令和5（2023）年3月、林野庁）P39によれば、複数の研究により広葉樹林に比べて針葉樹林の蒸発散量が大きいことが示されています。



■三角池と八面山

このため、八面山全体の広葉樹の割合を現在より高め、水の流れる沢や谷付近だけでなく、生物多様性を含め多面的な配慮のもと、「水の山」としての八面山を再生します。

#### 【具体的な取組み】

- 針葉樹人工林から広葉樹林や針広混交林への転換推進

### 2) 安全性と快適性の確保

八面山の魅力を安全・安心して感じられるよう、危険な箇所における安全対策や継続的な管理を行います。特に、朽ちつつある丸太階段、ベンチ、テーブル、サインの更新等、劣化が見られる人工物の定期的な更新や新設を推進する仕組みづくりにより、訪れる人々が快適に八面山を楽しめる環境づくりを行います。



■劣化したテーブル（箭山神社付近）

また、車両でアクセスする人々のためにも、危険箇所におけるカーブミラー設置、ガードレール更新等の安全対策に加え、清掃や草刈り、路面の補修等、車道の維持管理を適切に行います。

さらに、登山者カウンターの設置により登山者の利用動向を把握し、安全対策や施設整備に役立てます。

#### 【具体的な取組み】

- 丸太階段、ベンチ、テーブル、サイン等の新設や更新の仕組みづくり
- 遊歩道の危険箇所における安全対策の実施や支障木の伐採
- 車道の安全対策や、清掃、路面の補修、草刈り等の適切な維持管理
- 登山者カウンターの設置

## (5) 担い手の育成

### 1) 山の多様な仕事づくり

八面山で地域振興に関わる仕事をする人々を行政が支援するとともに、これまで自発的かつボランティア的に山の管理に携わってきた人々が高齢化している現状も踏まえ、八面山近郊への移住者や一時滞在する人々等、多様な人々が多様な形で山の仕事に関わることができるような仕組みをつくります。

様々なソフト施策を一元的かつ体系的に整理し、推進する組織づくりとして「(仮称)八面山塾」を開校します。取り組み例としては、小学生へ環境教育や地域の歴史教育を行える人材育成や体験プログラムの実施、八面山等の地域材を活用したモノづくり、ワークショップの運営や人材育成、体験型観光プログラムの創出、案内ガイド養成、外国人向けの体験やおせったいを含む観光プログラム創出、ふるさと納税のリターンとしての体験型観光プログラムの創出と運営、アート活動と連動したイベント実施等を検討します。

八面山等の地域材を活用したモノづくりにおいては、中津市の小学生を対象とする森林に関する環境教育の一環として木のお箸をつくるワークショップの実施や、中津市で生まれた赤ちゃんへ木のおもちゃをプレゼントする等、子どもを対象とした取組を推進します。

#### 【具体的な取組み】

- ソフト施策を一元的に推進する「(仮称)八面山塾」の開校及び人材育成
- 八面山の森林管理に携わる継続的な仕事の創出
- 小学生を対象とした木材活用ワークショップ等の環境教育の実施
- 地域材・木製玩具等を活用した木育の推進

### 2) 山の活動を活用した研修プログラムの構築

前述の「(仮称)八面山塾」を中心に、企業等を対象として八面山を活用した研修プログラムを構築し、その提供に向けて企業等に呼びかけるなど広報活動を行います（例：チームビルディング研修、新人研修、リーダー研修等について、登山やサマーキャンプ等、様々な体験活動を通じてスキルアップやコミュニケーション能力の向上を図る等）。

#### 【具体的な取組み】

- 八面山での研修プログラム構築と提供

### 3) 山の管理の担い手や各種団体との連携や協働の拠点づくり

山の管理は一度で終わるものではなく継続性が求められることから、八面山を望むことができる地域はすべて管理者となり得る地域であると捉え、市民参加を促す仕組みを構築します。例えば小学生を対象とした、親子で活動する楽しめるイベントを積極的に行い、参加者の中から山づくりに興味のある若い世代に声掛けしていく等、人と人のつながりを八面山とのつながりに広げ、山づくりの担い手の輪を広げます。

令和5(2023)年1月に地域おこし協力隊を含めたメンバーで結成された「八面山活性化協議会」は、八面山周辺地域を盛り上げることを目的に、「やまなびフェス」をはじめ様々な活動を行っています。「(仮称)八面山塾」はこれらの団体と連携しながら、一体的に活動します。

大学の研究室や地域おこし協力隊、任意団体等、様々な形で八面山に関わる活動をする人々の活動について、コワーキングスペースやワーケーションも含めた拠点づくり、あるいは自然での体験ができる保育園づくりで母親同士の交流を促進し、新たな商品開発や地域サービスを実現する等、各団体同士の交流や協働による活動について、自由な発想や自立した活動を行政として様々な形で支援します。

#### 【具体的な取組み】

- 親子で八面山を楽しめるイベントの実施
- 八面山で活動する団体や個人への支援
- 活動拠点づくり

## 2. 歴史文化を次世代へつなぐ施策

### (1) 歴史・文化の継承

#### 1) 文化財等の保護・保全と歴史教育

国・県・市が指定した八面山の文化財は未来へ残すべく、所有者の管理のもと保護・保全しています。指定文化財以外にも、八面山ならではの信仰の痕跡がたくさんで見られ、感じられます。これらの価値や体験を小中学校での歴史教育にも活用し、その重要性を次世代へ伝え続けることで中津市民の誇りを醸成し、さらなる未来へつないでいきます。

#### 【具体的な取組み】

- 文化財等やその他の歴史的資源を活用した子どもたちへの歴史教育

#### 2) 維持管理体制の構築

山中にある文化財等の老朽化や、そのアクセス路の荒廃等、高齢化が進む地元の人々だけでは管理が難しくなっています。例えば長谷寺の奥の院は見ごたえのある懸造（かけづくり）のお堂ですが、トタン板の部分的な修復や屋根の破損等が見られ、危険の注意喚起看板が置かれています。

一方で、猪川内岩屋堂や金色妙見宮等、有志によるクラウドファンディングにより再生整備が行われた場所もみられます。

一目で文化的な価値を感じられるようなお堂が朽ちていくのを待つだけではなく、また地元だけに管理をゆだねるのではなく、前述の山の管理の担い手づくりと併せて、地元と協働で管理を担うことができる体制について様々な人々を巻き込みながら広げていきます。



■猪川内岩屋堂（再整備後）



■金色妙見宮（周辺木伐採後）



■長谷寺奥の院

#### 【具体的な取組み】

- 地元と新たな担い手が共同で管理を担う体制づくり

## (2) 歴史・文化の掘り起こし

### 1) 信仰の跡地や文化財等の保全と活用のための整備

八面山は神仏習合の八幡信仰発祥の地として重要な場所であるとともに、太古から続く八面山への信仰が受け継がれています。一方で信仰の跡地や寺社等、破損した石仏や人の手が入りきらずに価値が損なわれている場所も多くあります。

これら地元の誇りを未来へつなぐとともに、観光資源としての魅力向上や体験プログラムの充実に資するよう、文化的な価値を秘めたこれらの場所を適切に保全し、活用するための整備を行います。



■大日寺跡の池跡



■長谷寺八十八か所遍路道の石仏

#### 【具体的な取組み】

- 信仰の跡地や文化財等の保全と活用のための整備

## 2) 巨石、樹木等の自然崇拜があったと考えられる場所の演出方策

八面山やその周辺には至る所に巨石があり、特に箭山神社周辺には犬石や鷹石だけでなく名もない巨石が多く集積しています。この付近の巨石は祭祀遺跡と考えられており、祭祀遺跡としての雰囲気を感じることができるよう巨石を魅せるための工夫や、巨石を巡り回遊するための環境整備を行います。

なお、巨石が多い八面山はロッククライミングの良い練習場にもなっており、ロッククライミングをしても良いエリアと禁止エリアのすみ分けについて、周知や注意喚起を行います。

八面山中腹のイチイガシ林は天然記念物に指定されています。また、猪山神護寺付近で見られるナギノキは、広葉樹のような広い葉を持ちながら針葉樹であるという珍しい特徴があり、大きく成長した姿はご神木のような威厳を誇っています。これらの樹木や樹林地を保全し、次世代に残していきます。



■八面山中腹のイチイガシ林



■猪山神護寺のナギノキ



■八面山に点在する巨石

### 【具体的な取組み】

- 巨石を魅せるための整備や回遊できる環境整備
- アクティビティに対する周知や注意喚起
- 価値の高い樹木や樹林地等の緑の適切な保全

## 3) 独自の体験価値の創造（歴史関連）

八面山は英彦山等と並び修験道として栄えた山でした。また令和4（2022）年には154年ぶりの峰入りが行われるなど、八面山を取り巻く人々の注目を集めています。また、毎年「八面山山開き、滝開き」が行われ、令和8（2026）年には8回目の開催を迎えています。

それらの修験に対する歴史的な背景や人々の興味の高まりを踏まえ、修験体験や八面山周辺の窟を活用したイベントの実施等、独自の体験価値を創造して提供します。



■峰入り

資料：八面山資料集

### 【具体的な取組み】

- 歴史にまつわる独自の体験価値の創造

### (3) 情報発信（歴史）

#### 1) 八面山のホームページ構築や SNS の活用

八面山には、非常に多くの歴史的なイベントやストーリーがあり、中津市ホームページの「箭山紀行」や「さんこう昔話」においても、それぞれに深い内容を見ることができます。一方で八面山の歴史を網羅的に知りたい人に対しては、体系的な整理が望まれます。このため、八面山に関する様々な活動も含め、ここを見れば八面山の知りたい内容にたどり着くようなホームページを構築し、八面山に関連するイベント情報の SNS を活用した情報発信等を行います。



#### 【具体的な取組み】

- 八面山に関するホームページ構築や SNS 等の情報発信

#### 2) 「なかはく」と連携した「はちはく」の創造

八面山周辺には古代から現代にいたるまでの人々の様々な活動の痕跡が文化財として残っており、今も人々の生活とつながっています。豊かな歴史文化を持つ八面山を、自然、信仰、歴史、景観等のテーマで捉えた展示を、中津市歴史博物館（なかはく）と連携して企画します。八面山やその周辺を博物館に見立てたフィールドミュージアムとして位置付けてフットパスを順路とするなど、「なかはく」と連携したフィールドミュージアムとしての「はちはく」を創造します。

#### 【具体的な取組み】

- 中津市歴史博物館と連携したフィールドミュージアム「はちはく」の創造

### 3) 学校教育と連携した八面山への親しみと誇りの醸成

中津市の市街地から見える八面山は校歌の歌詞にも多く見られ、市外から帰るときに八面山を見ると帰ってきたと感じる、中津市民にとって心に深く刻まれた山でもあります。その八面山の深い歴史について知ることは、市外で活躍する中津市民にとって八面山を望むことができる場所で育ったということに誇りを持って話すことができる貴重な財産になります。



■平和公園での平和学習

八面山にまつわる歴史的な出来事だけでなく、八面山がもたらす恵みが生活、信仰、文化に根差して人々の命を支えてきたことを環境教育と併せて小中学校で教えることで、子どもの時から八面山への親しみと誇りを醸成します。

八面山上空での日米の戦闘から時を経て、八面山の平和公園の場で日米双方の戦没者が慰霊されてきた経緯を学ぶなど、平和学習の場として八面山を活用します。

#### 【具体的な取組み】

- 小中学生への歴史・環境・平和教育の実施

### 4) 説明サインによる情報発信

八面山には多くの視点場やストーリーを感じられるスポットがあり、単にそれらの場所を訪れるだけでは十分に知ることができない状況です。そのため、興味深いストーリーを有する場所には説明サインを設置し、2次元コード等を活用して八面山のホームページで深掘りして知ることができるようにするなど、八面山の歴史・文化の情報発信を積極的に行います。

#### 【具体的な取組み】

- 八面山の歴史・文化の多様な手段による情報発信

### 3. 八面山と人々をつなぐ施策

#### (1) 八面山のブランディングに沿った整備推進

八面山の歴史・文化・風土に根差した統一感を持ったブランディングやイメージづくりを行うため、以下に示すロゴのブラッシュアップや統一感のあるサイン整備を行います。

##### 1) ロゴのブラッシュアップ

八面山のイメージを表現するロゴを作成し、活用します。以前、学生が八面山のロゴを作成したものの、本格的に活用するまでには至っていません。

このロゴのブラッシュアップ、AIによるロゴ案の試作、公募、プロによるロゴデザイン等、様々な手段を検討し、より優れたロゴを創出します。



■学生が作成した八面山のロゴ

#### 【具体的な取組み】

- 八面山のロゴの創出

##### 2) サイン配置計画とサイン整備の考え方

サイン整備は、誰を、何の目的で、どのようなルートで、どこへ誘導するかについて、設置するエリア全体の動線や構成の中で個別のサインに適切な機能を持たせる必要があることから、サインを設置するエリアごとに全体的なサイン配置計画を定め、ついでにサイン整備を進めます。

また、八面山を目的とせず、中津市を訪れる人々へのアピールとしての観点からも、人の目が付きやすい場所に八面山をアピールするサイン整備や、八面山がどこから見ても同じ形に見えることを入口としてアピールするポスターを貼ることなど、幅広い観点からの広報とサインの役割分担も含めつつサイン整備を進めます。

#### 【具体的な取組み】

- サイン計画の策定
- ・各種サインの整備

### 3) デザインコード設定や更新を考えたサイン整備

各々のサインの設置に当たっては、景観に配慮したデザイン性や対象とする人々への分かりやすさを総合的に見てバランス良く整える必要があります。下記のデザインコード（色、形、素材、フォント、言語等）の設定を踏まえながら、説明サインや誘導サインをはじめ各種サインを適切に配置します。

サインは基本的に劣化することが前提であるため、設置して終わりではなく、八面山で生産された木材の利用等と連動した継続的な更新体制も含めて検討します。

特に、様々な設置者が様々なデザインでサインを設置しているところもあり、これらの情報を統合して再設置することなども含め、既存サインの設置者と撤去の可否等について調整しながら、利用者にとって最適なサイン設置を目指します。

また、名勝の「景」や文化財の解説板等の設置・更新にあたっては、事前に中津市教育委員会と協議の上、「名勝耶馬溪の保存整備指針」（名勝耶馬溪保存整備委員会）に基づき、景観に配慮した適切な整備を進めます。



■様々な形態集中、情報重複、板面劣化等がみられるサイン（八面山山頂）

#### 【具体的な取組み】

- サイン計画の策定
  - ・各種サインの整備（劣化したサインの置き換え含む）

		山上部エリア（国定公園としての整備）					
		車両向け		歩行者向け			
		記名標識	資源名標識	誘導標識	案内図標識	総合案内標識	解説標識
色	基本	こげ茶色(DIC333)を基調として統一し、派手な色彩や複雑な配色は使用しない。					
	文字	白色	白色文字または淡黄色文字を基調とする				
	表示面上部	アイキャッチ(白の帯)を表示する	アイキャッチ(白の帯)を表示する	必要に応じてアイキャッチ(視認性の高い色)を表示できる	アイキャッチ(白の帯)を表示する		-
形	道路管理者や公安委員会との協議による	自然景観と調和する単純かつ相互に統一感のある形態とし、必要に応じて地域固有の形態の採用を検討する。デザイン面のみならず、機能面についても十分考慮し、施工性、維持管理、耐久性、耐候性に優れた形態とする。					
素材	自然素材を基本とするが、耐久性を要する部材等は部分的に人工的な材料の使用可	自然素材(木材、石材)を基本とし、設置位置の環境条件や地域の実情に応じて適切な材料を選択する。					
フォント	角ゴシック体						
ピクトグラム	-	-	ピクトグラムを活用してわかりやすさに配慮する			-	
言語	日本語と英語で表記	日本語と英語等で表記	日本語と英語等で表記	日本語と英語等で表記	英語やほかの言語での説明文は要約して概要を記載	日本語と英語等で表記	
備考	○国定公園に属するため、「自然公園等施設技術指針(環境省)」に準ずる。 ○名勝の「景」や文化財の解説板等については、「名勝耶馬溪の保存整備指針」(名勝耶馬溪保存整備委員会)に準ずる。						

■山上部のデザインコードの設定

		山麓部エリア（設定案）					
		車両向け		歩行者向け			
		記名標識	資源名 標識	誘導 標識	案内図 標識	総合案内 標識	解説 標識
色	基本	濃い緑を基調とし、派手な色彩や複雑な配色は使用しない。					
	文字	白色					
	表示面 上部	アイキャッチが必要と考えられる場所においては、 場所の特性に応じて色彩等を検討する。					
形	道路管理者や公安委員会との協議による	山麓部エリア内の森林部においては、山上部と同等の形態とする。 山麓部エリア内の集落部においては、集落の景観になじむ形態を基本的に一つ選定し、集落部内で統一性を持たせ、機能性にも配慮する。					
素材	自然素材を基本とするが、耐久性を要する場合や山麓部においては人工的な材料の使用も可	山麓部エリア内の森林部においては、山上部と同等の素材とする。 山麓部エリア内の集落部においては、設置位置の環境条件や地域の実情に応じて適切な材料を選択する。					
フォント	日本語：角ゴシック系または丸ゴシック系 英語：ヘルベチカ系						
ピクト グラム	-	-	ピクトグラムを活用してわかりやすさに配慮する			-	
言語	日本語と英語 で表記	日本語と英 語等で表記	日本語と英語等 で表記	日本語と 英語等で 表記	英語やほかの言語 での説明文は要約 して概要を記載	日本語と 英語等で 表記	
備考	○山麓部は緑が鮮やかに見えることから、白い文字が見えやすい濃い緑を基調とする。 ○「中津市観光サイン計画」の内容を踏まえること。						

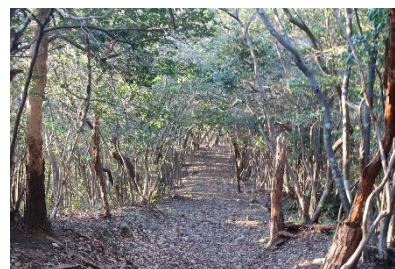
■山麓部のデザインコードの設定

		山望部エリア（設定案）					
		車両向け		歩行者向け			
		記名標識	資源名 標識	誘導 標識	案内図 標識	総合案内 標識	解説 標識
色	基本	濃い青を基調とし、派手な色彩や複雑な配色は使用しない。					
	文字	白色					
	表示面 上部	アイキャッチが必要と考えられる場所においては、 場所の特性に応じて色彩等を検討する。					
形	道路管理者や公安委員会との協議による	山望部エリア内の集落部は、山麓部エリアの集落部と同等の形態とする。 山望部エリア内の市街化が進んだ場所は、その景観になじむ形態を基本的に一つ選定し、市街化した場所の中で統一性を持たせ、機能性にも配慮する。					
素材	自然素材を基本とするが、耐久性を要する場合や山麓部においては人工的な材料の使用も可	山望部エリア内の集落部は、山麓部エリアの集落部と同等の素材とする。 山望部エリア内の市街化が進んだ場所は、その景観になじむ素材を基本的に一つ選定し、市街化した場所の中で統一性を持たせ、機能性にも配慮する。					
フォント	日本語：角ゴシック系または丸ゴシック系 英語：ヘルベチカ系						
ピクト グラム	-	-	ピクトグラムを活用してわかりやすさに配慮する			-	
言語	日本語と英語 で表記	日本語と英 語等で表記	日本語と英語等 で表記	日本語と 英語等で 表記	英語やほかの言語 での説明文は要約 して概要を記載	日本語と 英語等で 表記	
備考	○山から離れると青く見えることから、白い文字が見えやすい濃い青を基調とする。 ○「中津市観光サイン計画」の内容を踏まえること。						

■山望部のデザインコードの設定

#### 4) フットパスの整備や管理

フットパスは、ありのままの風景を楽しむことが基本ですが、それは人の手が入らない自然環境だけでなく、昔から人々の手によって形作られてきた風景も併せて大事にするものです。昔のように手が入りにくくなっている現状を踏まえ、様々な観点から整備を行っていく必要があります。



■樹々の間から夕日が差し込む道

例えば、歩いて通るために必要な石段や丸太階段、危険個所の安全性を確保するための柵、注意喚起、案内、誘導を行うサイン、ベンチの他、視点場の確保や景観向上のための樹木伐採等、幅広い観点からフットパスの整備や管理を行います。

特に管理については、フットパスの一部区間を地元企業や団体に里親としてみてもらう「アダプト制度（里親制度）」等、八面山に関わる主体や人々を増やしていきます。

また、フィールドミュージアムのコア（道の駅なかつ、金色温泉、四季の丘公園、八面山荘等）の交流機能や情報提供機能を充実させつつ、フットパスを通じて有機的に連携します。

さらに、本計画で作成したフットパスのマップについて、より詳細な検討を加えたうえで紙媒体やホームページ等で情報提供します。

##### 【具体的な取組み】

- 丸太階段、ベンチ、テーブル、サイン等の新設や更新の仕組みづくり
- 遊歩道の危険個所における安全対策の実施や支障木の伐採
- フットパスのマップの情報提供

#### 5) 遊び心のある山・人づくり

木材を利用してつくるモノは、数年経つと劣化しますが、逆に考えると数年置きにアイデアを出す機会が生まれることでもあります。モノは設置して終わりではなく、数年置きに山への設置物を入れ替えて循環する前提に立ったモノづくりの文化の構築を図ることで、色んなアイデアを形にできるような遊び心のある山・人づくりの環境を整えるなど、継続してモノづくりを行える仕組みの構築を目指します。



■端材を使った手作りの案内表示

##### 【具体的な取組み】

- 木材を使用してモノづくりを行える仕組みの構築

## 6) 自転車の活用

大部分を山中が占める上部エリアのフットパスは徒歩による移動が基本ですが、山周辺の山麓エリアや中津市街地の山望エリアにおいては、徒歩もちろんですが、自転車での移動も考えられます。このため、自転車の活用が考えられるエリアにおいて自転車利用を想定した拠点やルートを構築します。

大分県では、「おんせん県おおいた」でサイクリングを楽しむことを目的とした「Cycling OITA」ホームページの中で、サイクリング中に気軽に立ち寄って休憩できる場所としての「サイクルフレンドリー」を紹介しています。「サイクルフレンドリー」では、バイク用スタンド、空気入れ、自転車用工具の貸出しを行っている施設もあり、中津市では山国川沿いの「メイプル耶馬サイクリングロード」を中心に施設が紹介されていますが、八面山を中心としたエリアにおいてもこのような自転車利用の拠点施設を整備します。

### 【具体的な取組み】

- 自転車利用環境の構築

## (2) 施設の活用と設定

### 1) 既存施設の一体的な活用による回遊性・滞在性の向上

八面山の中腹から山上にかけて点在する「野外音楽堂」「八面山荘」「平和公園」「平和記念館」「キャンプ場」等の既存施設について、それぞれの単独利用にとどまらず、施設群全体を一つの大きな「交流・学習・滞在のフィールド」として捉え、連携と一体的な活用を図ります。

四季の丘公園付近から利用可能なトイレへのアクセスが悪く、特に八面山荘の営業時間外においての利便性に課題があります。今後の活性化に向けて屋外のトイレ不足が懸念されるため、四季の丘公園付近にトイレの整備を検討します。

#### 【具体的な活用の方向性】

- ・ イベントと滞在の連携（賑わいの創出） 野外音楽堂でのイベント開催と合わせ、八面山荘での宿泊やキャンプ場でのアウトドア体験を組み合わせた企画を展開するなど、日帰り利用から「滞在型」への転換を目指します。
- ・ 施設間のネットワーク強化 各施設を歩いて巡ることができるよう、園路や案内サインの整備（名勝の指針に配慮）等を進め、来訪者がエリア内を自然に回遊できる仕組みづくりを段階的に検討・推進します。
- ・ 四季の丘公園付近にトイレの整備を検討します。



■四季の丘公園付近の施設群と中津平野

### 2) 八面山平和公園・平和公園記念館の活用

八面山平和公園は、日米の戦没者を慰霊し恒久平和を願う市民の尊い浄財から生まれた祈りの場です。この特別な成り立ちを次世代へ語り継ぐため、平和公園記念館の設備改修や式典の開催、そして創設者や寄付者の想いを受け継ぎ、子どもたちが平和と自然の恵みを同時に学べる「平和×環境」の学習プログラムの創出を目指します。

#### 【具体的な取組み】

- 「平和×環境」の学習プログラム創出

### 3) 八面山荘の活用

バードウォッチングやパラグライダーをはじめとした様々なアクティビティは、現在個別に行われており、統括的な情報把握はできません。このため、これらの情報提供や受付等を一括して管理する「(仮称) 八面山アクティビティセンター」を八面山荘に設置します。安全にかかわる情報提供や必要な資材のレンタル等を行うための体制を構築し、安全や利便性を高めるとともにアクティビティのさらなる活性化を図ります。



■八面山荘とバス停

また、今後もアクティビティの動向を見ながら機能を適宜充実させます。

#### 【具体的な取組み】

- 八面山荘への「(仮称) 八面山アクティビティセンター」設置

### 4) 空き家等の活用

全国の傾向と同様に、八面山の麓のエリアにおいても少子高齢化の中で空き家が発生しています。これらの空き家の活用と、八面山の活性化を結びつけることが考えられることから、以下の空き家を活用した取組み等について検討します。

例えば、八面山で活動する個人や団体のための拠点づくりとして、大学、企業、地域おこし協力隊等、様々な主体がコワーキングスペースのようなスペースで作業や会議ができ、個人や団体間の交流が生まれることで相乗効果が期待できます。このような場所づくりとしての空き家活用について基本的には地域主導で行いつつ、可能な支援を行政が行います。

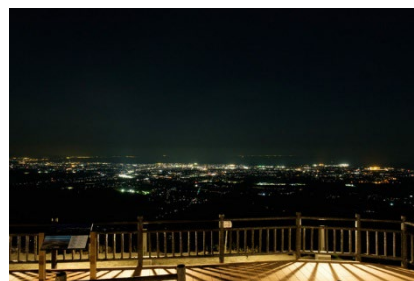
また、滞在型のインバウンドや里山留学の受け入れ態勢の構築や移住促進等、空き家を活用した取組みを拡大します。

#### 【具体的な取組み】

- 空き家を活用した地域の拠点づくり
- 空き家を活用したインバウンド等の滞在型の受け入れ態勢構築
- 空き家を活用した移住促進

### 5) 「日本夜景遺産」を活かしたナイトツーリズムの展開

2016年に認定された「日本夜景遺産」のブランド価値を活かし、現在実施している野外音楽堂や四季の丘公園での夜間イルミネーション、天空の道展望所の既存設備を活用した体験プログラムの拡充や、山麓の温泉・宿泊施設と連携した夜間周遊の仕組みづくりなどを検討し、八面山を「昼の自然」だけでなく「夜の絶景・ロマン」も堪能できる山として、夜間観光の振興を推進します。



■展望所からの夜景

#### 【具体的な取組み】

- 「日本夜景遺産」を活用した夜間観光拠点化・温泉等との連携

### (3) 山に親しむ機会の創出

#### 1) 地域振興とメインイベントの検討

八面山ではこれまで、各種団体によって様々なイベントが開催されてきました。今後も、八面山という豊かなフィールドを地域振興の舞台として位置付け、三光地域全体の新たな振興へとつなげていきます。この山を愛する人々を主役とした、持続可能な取組みを推進する一環として、今後の三光地域の賑わいの核となり、八面山の観光振興を牽引していく「メインイベントの創出・開催」について、地域と連携しながら検討を進めます。

##### 【具体的な取組み】

- メインイベントの創出・開催

#### 2) 独自の体験活動の推進

八面山の様々な形での山を育てる活動を通じて、参加者同士の交流が生まれ、多世代交流や同世代同士での交流を深め、併せて八面山活性化に関する様々なアイデアを頂く交流会を実施するなど、八面山に関わる当事者意識を持って八面山への愛着を深めたり、男女の出会いの場としてのイベントを実施して思い出の場としてもらうなど、様々な観点からのイベントや体験活動を実施します。

観光目的で来る人々を対象とした謎解きゲームやスタンプラリー等、様々な角度から八面山を舞台にした体験活動の創出を目指します。

##### 【具体的な取組み】

- 八面山に深く関わることを目的としたイベントや独自の体験活動の実施
- 観光目的の来訪者を対象として楽しませるイベントの実施

#### 3) 各種アクティビティの場としての環境整備

八面山は様々なアクティビティが行える遊び場でもあり、現在もトレッキング、ロッククライミング、バードウォッチング、パラグライダー、サイクリング、キャンプを行う人々がいます。今後、小池や大池を活用したサップ、マウンテンバイク、沢登り等も行える可能性があり、アクティビティの幅はさらに広がる可能性を秘めています。

これらの魅力的なアクティビティの活性化を図るため、前述の「(仮称)八面山アクティビティセンター」においてインストラクターと利用者をつないだり、不測の事態の緊急連絡、アクティビティのルールや安全対策、責任の所在等の様々な情報について周知を行うとともに、アクティビティを行う場所の安全対策やアクセス環境の整備を行います。

##### 【具体的な取組み】

- 「(仮称)八面山アクティビティセンター」の設置
- アクティビティに関する情報提供や安全対策等の実施



■トレッキング



■パラグライダー



■サイクリング

#### 4) 維持管理と企業研修を兼ねたプログラムの創出

社員研修として八面山の森林を活用したセラピー効果としてフットパスを歩くプログラム、企業のチームビルディングを目的とした林道整備を行うプログラム、中津市職員とのディスカッション、ヨガ体験、植林体験、焚火を囲むキャンプ等、森林ならではの体験や森林の維持管理につながる活動を通じて参加者の心身の健康に良い影響を与えるプログラムについて、林野庁が作成した「企業×森のプログラム」等の事例を参考にしながら八面山に合った形で再構築して実施します。



■企業×森のプログラム  
(林野庁)

##### 【具体的な取組み】

- 森林の維持管理につながる各種プログラムの創出と提供

#### 5) 日常的な子どもの遊び場の創出

八面山に日常的に遊ぶ場所があれば、休日等に八面山に親しむことができます。現在、八面山の四季の丘公園には可愛らしい小屋や四季折々の花が迎えてくれる良い公園があり、今後はこれらの素晴らしい環境を活用しつつ、八面山らしい、中津市の子どもたちがもっと行きたいと思う公園として充実させていきます。

特にクワガタやカブトムシが寄ってくるクヌギを植えたり、ドングリをひろって集めることができるような樹種を植える等、子ども達が喜ぶような公園としても活用します。



■四季の丘公園の可愛らしい小屋

##### 【具体的な取組み】

- 子どもたちが日常的に楽しめる公園づくり

#### 6) ふるさと納税を活用した八面山振興の推進

現在、中津市の様々な産品をふるさと納税の返礼品として提供しています。ふるさと納税における三光地域関連産品の充実を図り、地域資源の魅力発信を図るとともに関連寄附については、三光地区や八面山振興に活用する仕組みづくりを検討します。

##### 【具体的な取組み】

- ふるさと納税を活用した八面山振興の仕組みづくり

## (4) 情報発信（活動）と情報収集

### 1) 八面山の魅力や正しい情報の発信

八面山の魅力を写真とともに情報提供するコンテンツ作成について検討します。令和6（2024）年10月にはNHKの番組「にっぽん百低山」にて八面山が取り上げられるなど、八面山の魅力が八幡神の意外なルーツとして紹介されるとともに全国的に発信されました。動画投稿サイトにも様々な形で八面山の魅力が発信されています。一般の方々の仮説も興味深い側面がある一方で、今後、場合によっては正確かどうか分からない情報が真実として広まる恐れもあることから、行政として裏付けのある正しい情報の提供も必要です。

これらのことを踏まえ、八面山に関する発信を行う際は、歴史やそれ以外の様々な分野についても精査のうえ正しい情報を発信します。

さらに今後は、英語を含む情報発信や広報、ガイド育成等により、日本人だけではなく外国人に対してもアピールしていきます。

#### 【具体的な取組み】

- 八面山の魅力を伝えるコンテンツ作成と正しい情報の発信
- 海外に向けた情報発信や広報
- 八面山のことを英語で説明できるガイドの養成

### 2) 八面山に関する情報発信

現在、八面山に関する活動は各方面で個別に情報発信しており、定期的に開催されているイベント情報やアクティビティ関連の情報はそれぞれの発信元へアクセスする必要があります。また前述の通り、八面山に関する歴史的な情報も深く広く多様な面があるものの、現状では網羅的に知ることができない状況です。さらに、八面山の再生や活性化にもつながる活動をしている人々の情報や地域の困りごと情報等、人と人のつながりも求められます。

このため、八面山に興味を持ってもらうための取組みとして、八面山の歴史、イベント、アクティビティ、コミュニティ、個人等、様々な分野、人々、情報を一元的にまとめたホームページ作成やSNSを活用した情報発信を行います。

#### 【具体的な取組み】

- 八面山に関するホームページ構築等の情報発信

### 3) 多様なステークホルダーの意見収集及び関係性構築

八面山の活性化に関連する関連団体や個人等について、本計画の策定段階において「八面山活性化プロジェクト委員会」のメンバーにワークショップ等を通じて意見収集を行った他、その他の関係するステークホルダーに対しても個別に話を伺う等、関係性の構築を図りました。

今後も適宜、必要に応じて各方面から意見をいただきつつ協力をお願いする等、様々な人々を巻き込みながら八面山を活性化します。

#### 【具体的な取組み】

- 様々な主体との関係性や協働体制の構築

## (5) 担い手づくり（環境教育、維持管理）

### 1) 「(仮称) 八面山塾」(再掲) の開校

八面山に関するソフト施策は多岐かつ官民にわたって取組みを検討しています。これらのソフト施策について総合的に進捗管理しつつ、体験プログラムの創出や運営や学校と連携した歴史教育や環境教育等を幅広く行える人材育成を行える「(仮称) 八面山塾」の開校について検討します。

特に、中津市の子どもたちが地域へ誇りを持って将来活躍するためには、単に知識を得るだけでなく、八面山での様々な体験を通じて親しみを持つことも重要です。このため、八面山に関する歴史教育や環境教育については、小中学校と連携しながらも講師役は八面山塾から派遣することを想定しています。既に八面山に関する知識や体験を提供できる人材がいるため、それらの人材との協働により、八面山と人をつなぐための核として活躍できる人を増やします。

#### 【具体的な取組み】

- 「(仮称) 八面山塾」の開校
- 八面山に関する歴史教育や環境教育を行える人材の発掘や育成

### 2) 維持管理や山の仕事を長期間持続的に行える仕組みの構築

林業が成り立たないほど輸入木材の影響による木材価格の低下がみられるなか、市有林においては林業から地域振興としての山づくりの仕事や森林に関する様々な活動へ転換するなど、様々な活動主体が持続的に活動する仕組みを構築します。

#### 【具体的な取組み】

- 地域振興としての山づくりや森林を活用した持続的活動の仕組みづくり

## 4. 施策一覧

### ■具体的な施策一覧（再掲による重複をまとめて整理）

種別	具体的な施策
木材の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域材の公共施設等での活用</li> <li>・八面山で生産された木材を利用したベンチやサインの整備</li> <li>・多様な木材利用方法の情報収集</li> <li>・エネルギー分野の木材活用の検討</li> </ul>
地域活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動を支援する仕組みの構築</li> <li>・空き家を活用した地域の拠点づくり</li> <li>・「(仮称)八面山アクションベース」の設置</li> </ul>
森林経営の仕組みや組織作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林管理に携わる継続的な仕事の創出</li> <li>・J-クレジット制度等の活用に向けた調査・検討</li> <li>・丸太階段、ベンチ、テーブル等の新設や更新の仕組みづくり</li> <li>・地元と新たな担い手が共同で管理を担う体制づくり</li> <li>・森林の維持管理につながる各種プログラムの創出と提供</li> <li>・ふるさと納税を活用した八面山振興の仕組みづくり</li> <li>・様々な主体との関係性や協働体制の構築</li> <li>・活動拠点づくり</li> <li>・「(仮称)八面山塾」の開校</li> <li>・地産材を使用してモノづくりを行える仕組みの構築</li> </ul>
環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性に配慮した植林や森の保全</li> <li>・適切な森林管理</li> <li>・針葉樹人工林から広葉樹や針広混交林への転換推進</li> <li>・価値の高い樹木や樹林地等の緑の適切な保全</li> </ul>
安全対策や管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊歩道の危険箇所における安全対策の実施や支障木の伐採</li> <li>・車道の安全対策や、清掃、路面の補修、草刈り等の適切な維持管理</li> <li>・登山者カウンターの設置</li> <li>・防災・減災のための適切な森林管理</li> <li>・山火事防止のための広報</li> <li>・山林火災訓練の定期的な実施</li> </ul>
子育て、教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八面山に関する歴史教育や環境教育を行える人材の発掘や育成</li> <li>・「平和×環境」の学習プログラム創出</li> <li>・小中学生への歴史・環境・平和教育の実施</li> <li>・地域材・木製玩具等を活用した木育の推進</li> <li>・子どもたちが日常的に楽しめる公園づくり</li> </ul>
歴史資源の活用（教育以外）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・信仰の跡地や文化財等の保全と活用のための整備</li> <li>・巨石を魅せるための整備や回遊できる環境整備</li> <li>・歴史にまつわる独自の体験価値の創造</li> </ul>
イベントや研修等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メインイベントの創出・開催</li> <li>・八面山での研修プログラム構築と提供</li> <li>・親子で八面山を楽しめるイベントの実施</li> <li>・中津市歴史博物館と連携した「はちはく」の創造</li> <li>・八面山に関わるイベントや独自の体験活動の実施</li> <li>・観光目的の来訪者を楽しませるイベントの実施</li> </ul>
情報発信、広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フットパスのマップの情報提供</li> <li>・「(仮称)八面山アクティビティセンター」の設置</li> <li>・アクティビティに対する周知や注意喚起</li> <li>・八面山に関するホームページ構築やSNS等の情報発信</li> <li>・八面山の歴史・文化の多様な手段による情報発信</li> <li>・八面山のロゴの創出</li> <li>・八面山の魅力を伝えるコンテンツ作成と正しい情報の発信</li> <li>・海外に向けた情報発信や広報、ガイド育成</li> </ul>
サイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイン計画の策定</li> <li>・各種サインの整備(劣化したサインの置き換え含む)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・四季の丘公園付近におけるトイレ整備の検討</li> <li>・「日本夜景遺産」を活用した夜間観光拠点化・温泉等との連携</li> <li>・自転車利用環境の構築</li> <li>・空き家を活用したインバウンド等の滞在型の受け入れ態勢構築</li> <li>・空き家を活用した移住促進</li> </ul>



## 5. 年間目標

初期の進行管理の指標（KPI）は、着実な実践に向けた確実な「行動量（実施回数等）」を目標とし、今後の状況変化にも柔軟に対応しながら適切な進行管理を進めます。

中間目標としての KPI は、初～短期として令和 8（2026）年度から 1～3 年程度の試行期間と位置付けます。

### ■年間目標

分野	設定項目	現状		単位	備考
		令和7 (2025) 年度	KPI※ 初～短期 年間試行 回数等 令和8～10 (2026～ 2028) 年度		
交流・賑わい	「(仮称)八面山塾」や八面山関連イベントの年間開催回数	0	16	回	
環境保全・安全	各種団体と協働した環境保全活動(クリーンアップ作戦等)の年間実施回数	3	10	回	
教育・連携	市内小中学校等との連携学習(環境・歴史教育等)の年間実施校数	0	4	校	各年
	市産木材等を活用した木育事業(ワークショップ等)の年間実施回数	0	3	回	
情報発信	八面山に関するSNS等での情報発信件数	0	60	件	

※KPI: “Key Performance Indicator”の略で「中間目標」の意

## 6. 計画の進行管理（PDCA サイクルの推進）

本計画を実効性のあるものとするため、計画の策定にとどまらず、「計画（Plan）」「実行（Do）」「評価（Check）」「改善（Action）」の PDCA サイクルを回し、継続的な進行管理を行います。また、今後の社会情勢や地域ニーズの変化にも柔軟に対応できるよう、必要に応じて施策内容等の見直しを図りながら取組みを進めます。

- 【P】 Plan（計画）：本計画の基本方針や、年度ごとの具体的な目標・事業計画を立案します。
- 【D】 Do（実行）：(仮称) 八面山アクションベースを中心に、地域住民や行政と連携して施策を実行します。
- 【C】 Check（評価）：実施した施策の進捗状況や効果を検証します。
- 【A】 Action（改善）：評価結果や今後の状況変化を踏まえ、次年度以降の事業内容等の柔軟な見直しを行います。

# 第7章 実現化へ向けて

## 1. 短・中・長期の取組み施策

6章に記載した各種施策について、本計画策定時を基準に、短期（1～3年）、中期（3～5年）、長期（5年～）に分け、段階的な取組みを実施します。また、施策の主な取組み主体及び優先的に取り組むべき施策についても併せて記載いたします。

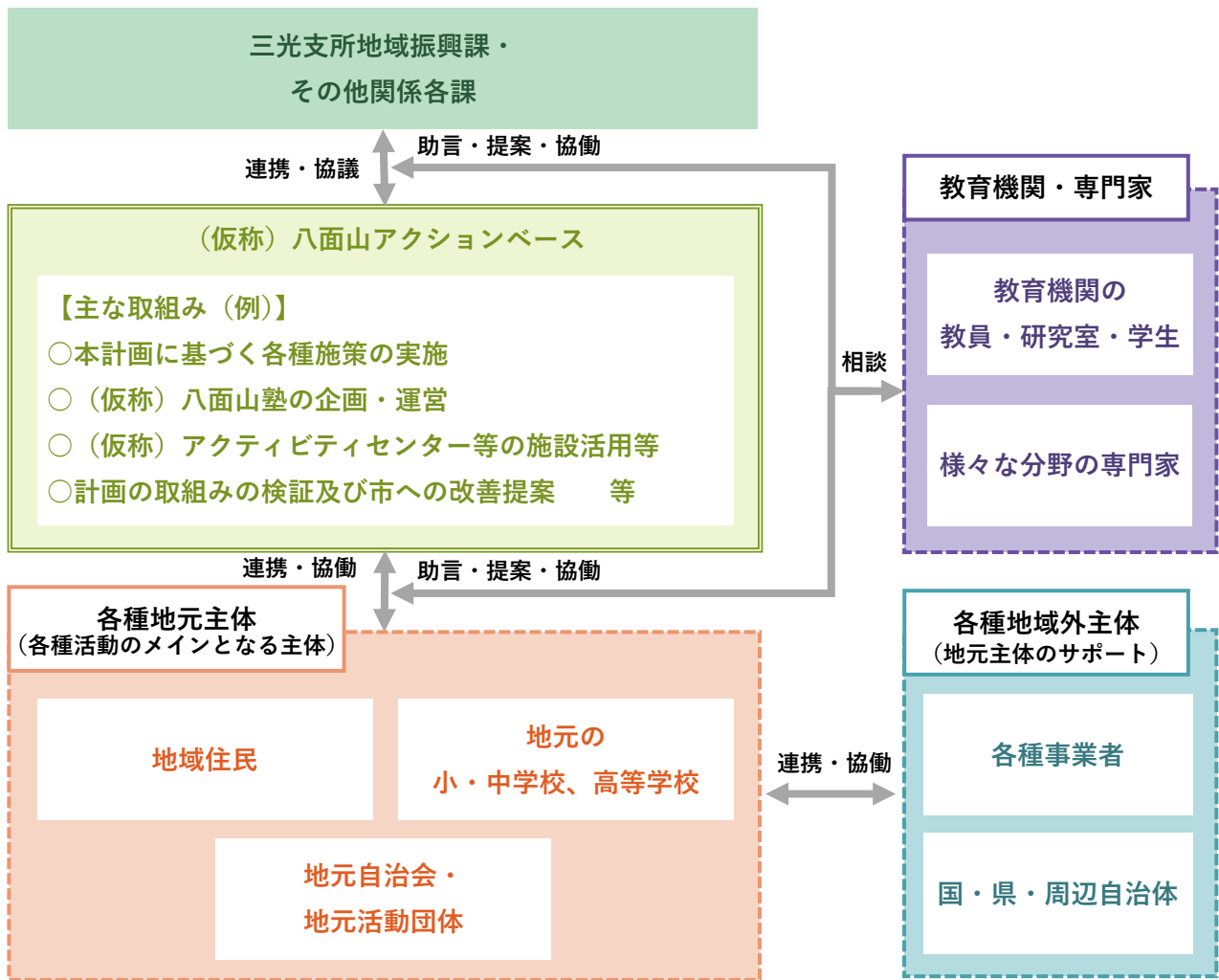
分類	施策項目	ハード	ソフト	具体的な事業名・取組内容	優先施策	短期	中期	長期
森林資源・景観	道路維持管理	ハ		八面山線道路・ガードレール整備等	○	→	→	→
	道路維持管理	ハ		八面山線カーブミラー等交通安全整備	○	→	→	
	道路維持管理	ハ	ソ	道路草刈り・支障木伐採	◎	→	→	→
	サイン計画・整備	ハ		サイン整備事業(看板の統一デザイン更新)	◎	→		
	登山者カウンター	ハ		登山者カウンター設置事業(動態調査)	◎	→		
	森林整備(伐採等)	ハ		人工林の伐採と再造林(広葉樹への転換)	◎		→	→
	市産材の活用	ハ		公共施設等での市産材活用	○	→	→	→
	景観維持・管理		ソ	観光名所の草刈り(展望地・史跡周辺)	◎	→	→	→
	施設・インフラ整備	ハ		フットパス・登山道再整備(階段・ベンチ)	◎	→	→	
	施設・インフラ整備	ハ		展望台・避難小屋・トイレの再整備			→	→
	J-クレジット等		ソ	J-クレジット制度等の活用検討			→	→
	公園整備		ソ	四季の丘公園での植栽・環境整備	◎	→	→	→
	大池・小池周辺の景観形成	ハ	ソ	視点場等の整備			→	→
環境教育		ソ	森林環境教育プログラム(間伐材活用等)			→	→	
歴史文化・平和	平和遺産の保存活用	ハ		平和記念館の設備改修(空調・照明等)	◎	→		
		ソ		「平和×環境」の学習プログラム創出	○		→	→
	歴史・平和学習		ソ	平和公園式典の開催	◎	→		
	歴史・平和学習		ソ	平和学習支援事業	◎	→		
	文化財保存活用	ハ		史跡・文化財の修復			→	→
	はちやく推進		ソ	なかはくでの八面山企画展	◎	→		
	歴史体験事業		ソ	修験道・窟体験プログラムの構築		→	→	
交流・賑わい	イベント		ソ	八面山 学び体験イベント・メインイベントの創出	◎	→		
	スポーツ振興		ソ	八面山平和マラソン大会	◎	→	→	→
	担い手育成		ソ	(仮称)八面山アクションベースの構築及び(仮称)八面山塾の開校・ガイド育成	○	→	→	→
	ブランディング		ソ	ロゴ・マップの作成、SNS情報発信	○	→	→	→
	サイクル観光	ハ		駐輪施設・路面標示(ブルーライン)整備			→	→
	資金確保		ソ	ふるさと納税による寄付金活用			→	→
	移住・交流	ハ		空き家の利活用推進(拠点整備等)			→	→
	体験イベント		ソ	登山イベントへの支援	◎	→	→	→
	地域行事		ソ	八面山野外音楽堂や周辺でのイベント支援(ほたる祭り・やまなびフェスなど)	◎	→	→	→
	夜間景観		ソ	八面山でのイルミネーション・ライトアップ	◎	→	→	→
			ソ	「日本夜景遺産」を活用した夜間観光拠点化・温泉等との連携	○	→	→	→
	産学連携		ソ	大学連携による地域課題解決・調査研究支援	◎	→	→	→
	普及啓発イベント		ソ	八面山スケッチ大会	◎	→	→	→
	広報・訓練		ソ	山火事を防止するための啓発や訓練			→	→
	アート	ハ	ソ	アートと連携した登山道やフットパス整備			→	→
	デジタル案内		ソ	八面山にまつわる物語の解説板設置(二次元コード)			→	→
	自転車利用環境の構築	ハ		自転車の拠点やルート設定		→		
拠点施設	ハ		八面山荘の機能拡充(アクティビティ拠点)	○	→	→	→	

◎:特に優先する施策 ○:優先する施策 矢印破線:継続的取組  
ハ:ハード施策 ソ:ソフト施策

## 2. 実現化へ向けた実施体制と役割

### (1) 実施体制の構築

本計画に基づく各種施策を実現していくためには、地域住民、企業、教育機関、行政等、多様な主体が連携・協力することが重要となります。八面山においては、これまでも精力的な活動が行われていますが、その価値や効果をより一層高めるため、主体間における適切な連携・役割分担を図るとともに、得意分野を活かすことができる体制を構築する必要があります。そこで、八面山に係る各種取組みを検討するための新たな組織として、「(仮称) 八面山アクションベース」を設立し、この組織を中心として、各主体の実施体制を以下の通り構築します。



■実施体制図

### 【(仮称) 八面山アクションベースについて】

- 八面山の様々な取組みのベースとなる存在であり、組織としても積極的に活動を行うことで八面山振興を目指すという意味を込めた名称です。
- 本組織は、八面山活性化プロジェクト委員会の後続組織として、令和8（2026）年度早々に設立することを目指します。
- 設立に向け、委員会メンバーをベースとした、地域のキーパーソンの選定・声かけによる構成員の見直し及び組織体制の検討、組織の役割や位置付けの再確認を行うとともに、必要に応じて組織規約等の作成を行います。
- 設立に必要な各種検討・調整は、委員会メンバーや三光支所地域振興課が中心となり行うこととします。
- 構成員は固定ではなく、各種取組みに応じて適宜変動するものとし、活動しやすい環境形成のため、柔軟性のある組織構成を目指します。
- 八面山の里山としての基礎情報に関するデータベース管理や各種団体の活動の把握等、情報の一元化を目指します。
- 設立後の主な活動として、本計画の実現化に向けた各種取組みの検討及び実行に移すとともに、取組みの進捗状況や地域情勢を踏まえた市への計画見直しの提案・協議等を行います。

## (2) 各主体の役割分担

### 1) (仮称) 八面山アクションベースの役割

- 八面山での様々な活動の相談・情報窓口や各種取組み状況の一元化を図り、八面山づくりに係る中枢組織としての役割を担います。
- 各主体が実施している施策内容やそれぞれが抱える課題等の把握を行うとともに、より円滑な実施に必要な情報発信や他主体が実施している施策との連携を図ります。
- 活動の受け皿となるだけでなく、本計画に基づく施策の実施主体として、企画検討や実現化に向けた取組みを進めます。

### 2) 行政の役割

- (仮称) 八面山アクションベースをサポートする役割を担います。
- 三光支所地域振興課が中心となり、各種施策の関係各課と調整・連携を行うとともに、必要に応じて国や県等のその他行政機関との連携を行います。
- 本計画に基づく施策の推進や各種支援制度の活用を検討します。

### 3) 各種地元主体の役割

- 地域住民については、各種活動のメイン主体であるため、地域が抱える魅力や課題を自分事として捉え、出来ることから少しずつ進めていけるよう、日ごろから意識することで、地域への興味や関心の醸成に努めます。
- 地元自治会や地域で活動する各種団体については、抱えている課題や実現したい施策等について、(仮称) 八面山アクションベースと連携を図ることで、施策の円滑な実現化を目指します。
- 地元の小・中学校及び高等学校については、八面山に係る各種教育の場として、子どもたちが積極的に地域活性化の活動に参加するよう促し、地域への興味や関心を醸成し、次世代の担い手育成に努めます。

### 4) 教育機関・専門家の役割

- 八面山の振興に向けては、これまでも大学の専門家による講義や意見交換、学生ならではの視点を活かした魅力発掘プロジェクト等、教育機関との連携による活動が大きな原動力となってきました。今後も、県内外の教育機関や様々な分野の専門家と連携し、高度な知見に基づく助言や提案を計画に反映させるとともに、学生をはじめとする若い世代が地域住民と協働して活動に取り組むことで、八面山への積極的な関与と新たな価値の創出が期待されます。

### (3) 安全管理体制

フィールドミュージアムとして八面山へ人々を招くにあたり、以下の安全管理体制を構築します。

#### 1) 安全管理における(仮称)八面山アクションベースの役割

(仮称)八面山アクションベースは、行政からの情報を利用者に直接届ける重要な接点となります。

市では、林野火災の予防を図るため、気象条件に応じて「林野火災注意報」及び「林野火災警報」を発令し、屋外での火気使用(山林における焚き火等)を制限しています。(仮称)八面山アクションベースは、このような本市の発令状況や火災予防のルールについて、現場に近い立場から利用者へ適切に情報提供や注意喚起を行い、安全な山岳利用をサポートします。

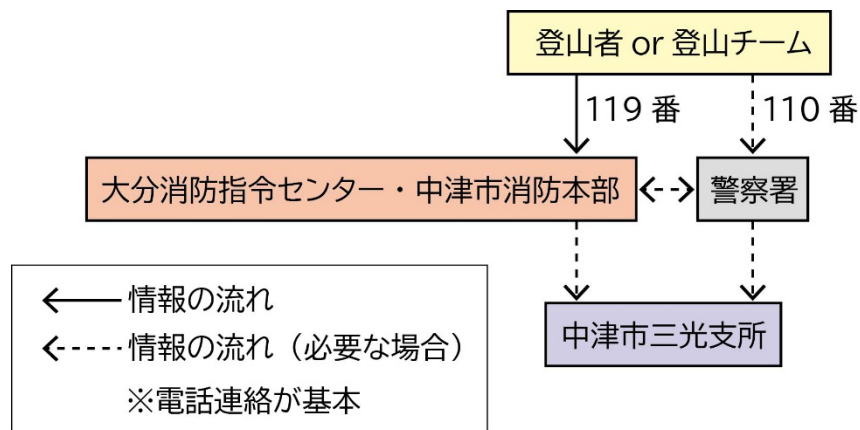
役割の例：登山ルールのマナー啓発、危険箇所の情報発信(SNS等)、イベント開催時の参加者名簿(緊急連絡先)の把握等

#### 2) 緊急対応を可能とする備え

イベント時には、(仮称)八面山アクションベースへの参加申込書等により来訪者と連絡が取れるよう配慮します。

#### 3) 緊急事態発生時の情報の流れ

緊急事態発生時、特に大ケガや遭難等の重大な事態においては、まずは登山者または同行者から、直接消防(119番)または警察(110番)へ通報することを基本とします。



■緊急時の情報の流れ





資料編

## 1. 委員会名簿

役職	氏名	所属	備考
委員長	原田 宗法	中津市三光支所	
委員	岩下 澄雄	上田口自治会	
	稲月 恵治	三光周辺地域振興対策推進会議	
	平原 祥司	三光周辺地域振興対策推進会議	
	秦 忠広	元気会	
	久保 岳士	八面山活性化協議会	
	尾上 直樹	一般社団法人 八面山ラボラトリー	
	三上 満寿男	八面山もりあげよう会	
	河野 賢二	山国川流域森林組合	
	尾垣 俊夫	中津市しもげ商工会青年部三光支部	
	今井 学	中津市三光地域おこし協力隊	第13回まで参加
	松木 永	中津市三光地域おこし協力隊	
	大谷 柚生香	中津市三光地域おこし協力隊	第9回より参加
有識者	朝廣 和夫	九州大学	
アドバイザー	松下 藍	里のこまご	
ゲスト	丸山 利枝	中津市歴史博物館	

## 2. 委員会での検討事項

年度	回	開催日	主な議事
令和 5 (2023)	1	12月12日(水)	○八面山活性化プロジェクト委員会とは ○委員等紹介、委員長選出 ○八面山のイメージ ○八面山活用の可能性・課題
	2	1月18日(水)	○八面山活性化基本構想の検討 ○専門部会の設置
	3	2月13日(火)	●講義 テーマ：八面山の文化財 (三谷 紘平 氏：中津市歴史博物館) ○八面山活性化基本構想の検討 ○市民とのワークショップ
	4	3月13日(水)	●講義 テーマ：八面山の森林整備 (中津市林業水産課・山国川流域森林組合) ○八面山活性化基本構想の検討 ○市民とのワークショップ
令和 6 (2024)	5	4月16日(火)	●講義 テーマ：市民参加の森づくりと、そのプロセスの価値創出 (松下 藍 氏：アドバイザー) ○八面山活性化基本構想の検討
	6	5月14日(火)	●講義 テーマ：八面山と周辺の歴史、猪川内岩屋堂整備 (秦 忠弘 氏：元気会) ○八面山活性化基本構想の検討
	7	6月11日(水)	○八面山活性化基本構想の検討 ○八面山でやりたいこと
	8	9月26日(木) ～	※9月26日以降、個別配布にて順次実施 ○八面山活性化基本構想(案) ○八面山振興計画の構成内容イメージ
	9	3月18日(火)	○予算 ○令和7(2025)年度への取組み



年度	回	開催日	主な議事
令和7 (2025)	10	5月29日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義</li> <li>テーマ：名勝耶馬溪に関する文化財保護法の概要 (丸山 利枝 氏：中津市歴史博物館)</li> <li>○今後の進め方</li> <li>○八面山でやりたいことの内容整理</li> </ul>
	11	7月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画策定支援委託事業者の紹介及び委員自己紹介</li> <li>○中津市八面山振興計画策定に係る提案事項の共有</li> <li>○委託事業者との意見交換・質疑応答</li> </ul>
	12	8月19日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義</li> <li>テーマ：八面山の景観は「なぜ」大切に「どう」保全活用するのか(朝廣 和夫 教授：九州大学)</li> <li>○やりたいことの項目</li> <li>○やりたいことの深掘り</li> </ul>
	13	11月20日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●講義</li> <li>テーマ：八面山の景観的とらえ方と象徴・生業(朝廣 和夫 教授：九州大学)</li> <li>○各エリアの将来像や骨格等</li> <li>○基本ストーリーと展開エピソード</li> </ul>
	14	12月22日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画基本編</li> <li>○基本編ハード・ソフト施策</li> </ul>
	15	3月5日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○計画書</li> <li>○予算、令和8年度 of 取組み</li> </ul>

あ行	
アイキャッチ	Eye (目) を Catch (キャッチ) することから転じた和製英語で、人の目を引くことを意識してつくられた視覚的なデザインのこと。
意匠	物品の形状、模様若しくは色彩またはこれらの結合であり、視覚を通じて美感を起こさせるもののこと。
磐座 (いわくら)	自然に存在する大きな岩や岩群のことで、日本の古来からの信仰において神聖な場所のこと。
インバウンド	訪日外国人やその旅行のこと。
か行	
カーボン・オフセット	日常生活や経済活動における CO <sub>2</sub> 等の温室効果ガスの排出について、可能な限り排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせするという考え方のこと。
懸造 (かけづくり)	崖や斜面等に長い柱や梁を組んで建物を建てる建築様式のこと。主に寺社建築で多く見られる。
化石エネルギー	石炭、石油、天然ガス等、長い年月をかけて動植物の化石が変化した燃料資源のこと。
環境基本計画	環境基本法第 15 条に基づき、政府全体の環境の保全に関する総合的かつ長期的な施策の大綱を定める計画のこと。
観光振興計画	観光分野において、自治体の特性を活かしながら施策を推進するための計画のこと。
官行造林	法律に基づいて国が公有地又は私有地の所有者と契約を結び、国が費用を負担して森林整備を行い、伐採等の収益を土地所有者と分け合う森林のこと。県が費用を負担する場合は県行造林とも呼ぶ。
凝灰角礫岩	火山から噴出した数 mm 以下の礫や火山灰が堆積・固化したものと角張った岩片からなる岩石のこと。
クラウドファンディング	Crowd (群衆) と Funding (資金調達すること) を組み合わせた造語で、不特定多数の人々に対して特定の事業への出資を募り、出資者へのリターン (お返し) をする仕組みのこと。社会貢献的な事業への寄付的な支援に使われることもある。
GX (グリーントランスフォーメーション)	化石燃料中心の経済、社会、産業構造をクリーンエネルギー中心の構造に転換させて、経済社会システム全体を変革させること。
景観計画	景観法 (平成 16 (2004) 年 6 月制定、12 月施行) の規定に基づき、景観行政団体 (地方自治法上の指定都市、中核市、または都道府県等) が良好な景観の保全・形成を図るため定めた計画のこと。

か行	
景観条例	良好な都市景観を形成し保全するために、地域の特性に応じて地方自治体が制定している条例のこと。
五穀豊穰	五穀（米・麦・粟・きび・ひえ）の豊かな収穫と食料の豊富さを祈る意味があり、農作物が豊かに実ることを願う言葉のこと。
枯死	草や木が枯れること。
御神体	礼拝の対象となるもので、神が降臨して宿る物のこと。
護摩行	真言を唱えながら護摩木を火の中に投じて炎と一体になることで、不安や矛盾を取り払い、本心や本質と向き合う修行のこと。
コワーキングスペース	様々な立場や異なる目的を持った人々が、設備や空間を共有して仕事をしつつ、交流や情報交換もできるスペースのこと。
さ行	
祭祀	祖先や神々を祀る儀式のこと。
山岳信仰	神聖な空間とみなされた山岳に関する信仰の総体のこと。山岳そのものが信仰される場合と神仏の住居として信仰される場合がある。
自然共生サイト	民間の活動等によって生物多様性の保全が図られている区域（森林、里地里山、都市緑地、沿岸域等）のうち環境省が「自然共生サイト」として認定したもの。
自然公園法施行規則	自然公園法とは、我が国を代表する優れた自然の風景地を保護し、その利用の増進を図ることにより、国民の保健、休養及び教化に資するとともに、生物の多様性の確保に寄与するための法律であり、施行規則とは、この法律に基づいて定められるルールのこと。
修験道	山を聖域とし、その奥深くまで分け入って修行することにより、神秘的な力を得てその力により自他の救済を目指そうとする山岳信仰の宗教のこと。
植物相	特定の地域に生息するすべての植物の種類全体のリストのこと。
針広混交林	2種類以上の樹木が混ざり合っている森林を混交林と呼び、中でも針葉樹と広葉樹が混ざり合っている森林を針広混交林と呼ぶ。
神社本庁	伊勢の神宮を本宗と仰ぐ全国約 80,000 社の神社を包括する団体として、昭和 21（1946）年 2 月 3 日に、全国神社の総意によって設立された団体のこと。
神仏習合	古来より日本にある神道という考え方と、インドで生まれた仏教が融合したもの。
森林経営計画	効率的な森林の施業と適切な森林の保護を通じて、森林の持つ多様な機能を十分に発揮させることを目的として、森林所有者または森林の経営の委託を受けた者が、自らが森林の経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について定める計画のこと。

さ行	
森林整備計画	地域森林計画の対象となる民有林が所在する市町村が5年ごとに作成する10年を一期とする計画のこと。
水源涵養	森林に降った雨や雪がスポンジに吸い込まれるように地下に浸透し、時間をかけて地下水や川になることで湧水や洪水を緩和するとともに良質な水を育む働きのこと。
ステークホルダー	利害関係者のこと。企業の経営に関連して使われることが多い言葉で、状況によっては行政や地域住民等、幅広い人々を指すこともある。
生物多様性	多種多様な生物が、環境の中でつながりあって存在していること。
総合計画	市区町村における最上位の行政計画であり、目指すべき将来都市像やその実現に向け、骨格となるまちづくりの基本的な方針等を掲げ、総合的かつ計画的に行政運営を推進していくための指針となる計画のこと。
造林	苗木の植付やその準備、下刈、除伐、間伐等の健全な森林の造成や保育を行うもの。
た行	
脱炭素社会	地球温暖化の原因となるCO <sub>2</sub> について、その排出を減らすだけでなく、森林等のCO <sub>2</sub> の吸収も考慮して実質ゼロにする社会のこと。
地域高規格道路	地域の自立的発展や地域間の連携を支える道路として整備することが望ましい路線のこと。
チームビルディング	個人やチームの能力を最大限発揮しながら目標を達成できるチームづくりのこと。
勅使街道	都からの使いが通ったとされる道のこと。
地域おこし協力隊	都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援等の「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組みのこと。
デザインコード	主に建築や都市計画分野におけるデザインや景観形成に重要な、配置、色、形、素材等の視覚的なルールのこと。
てまがえ	農作業で手伝ってもらったお礼に、同じ日数分を無償で手伝いをする
都市計画マスタープラン	都市計画法第18条の2に基づき、市町村が20年後の将来を見据えて策定する計画のこと。
登山者カウンター	入山者数を把握するため、赤外線センサー等によって人の通行を感知して何人通ったかを自動的に計測する機械のこと。
な行	
日本遺産	地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもの



な行	
ネイチャーポジティブ	人が自然に与える影響等により様々な生物の種が失われていく現在の良くない（ネガティブ）流れをくい止めて、良い（ポジティブ）流れへ反転させること。
は行	
排出量取引制度	政府が一定の基準の下、対象事業者に排出枠を割り当て、毎年度、排出実績量と同量の排出枠を法令に定める期限までに保有することを義務付けるもので、対象事業者は排出枠の過不足に応じて、事業者間で排出枠を取引することができる制度のこと。
八幡信仰	応神天皇のご聖徳を八幡神としてたたえ奉るとともに、仏教文化と、日本固有の神道を習合したもののこと。
ピクトグラム	言語の違いや年齢に関わらず視覚的かつ直感的な理解を促す、単純化された図のこと。トイレ、交通、注意喚起、禁止事項等、様々な目的で使用される。
武運長久	戦いや戦場での幸運がいつまでも続くこと。
伏流水	河川の流水が河床の下へ浸透し、上下を不透水層に挟まれた透水層が河川と交わるとき透水層内に生じる流水で、極めて浅い地下水のこと。
ブランディング	商標に限らず特定の地域等も含めた広義のブランドについて、その魅力や価値への共感や信頼を高める戦略のこと。
文化財保存活用地域計画	各市町村において取り組んでいく目標や取組みの具体的な内容を記載した、当該市町村における文化財の保存・活用に関するマスタープラン兼アクションプランのこと。
返地	借りていた土地を返すこと。
保安林	水源の涵養、土砂の崩壊その他の災害の防備、生活環境の保全・形成等、特定の公益目的を達成するため、農林水産大臣または都道府県知事によって指定される森林のこと。保安林においては、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制される。
ま行	
マコモ	「マコモダケ」とも呼ばれており、古来より「神が宿る草」と言われている、水辺に群生するイネ科の植物のこと。
峰入り	修行場である山中に入り、修行を重ねること。
名勝	優れた国土美の有様を様々なかたちで表現するもので、風景の趣や景観の観賞を通じてその価値を発揮する記念物のこと。また、日本に暮らす人々がそれぞれの土地に紡いできた思いを、名所や風景、庭園に継いでいくもの。
メサ地形	水平な硬岩層におおわれ、周囲の一部を急崖で囲まれたテーブル状の高地のこと。

ま行	
木質バイオマス	化石燃料を除く、生物由来の再生可能な有機的資源のことをバイオマスと呼び、中でも木材を原料としたバイオマスを木質バイオマスと呼ぶ。
木質ペレット	乾燥した木材を細かく砕いて圧力をかけ、小さな円筒形に成形した木質の燃料のこと。
や行	
ゆい	農作業等で互いに労力を交換し助け合うこと。
わ行	
ワーケーション	Work（仕事）と Vacation（休暇）を組み合わせた造語で、観光地や豊かな自然等、テレワークにより通常の職場とは異なる場所を楽しみながら仕事をすること。
英数字	
30by30 目標	サーティ・バイ・サーティ目標として、令和 12（2030）年までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標のこと。国立公園等の保護地域の拡張と質の向上だけでなく、保護地域以外の生物多様性保全に資する地域（OECM）の設定・管理を通して達成を目指すこととしている。
IC（インターチェンジ）	立体交差する道路相互間、または近接する道路相互間を連絡路によって立体的に接続する施設のこと。
J-クレジット	省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用による CO <sub>2</sub> 等の排出削減量や、適切な森林管理による CO <sub>2</sub> の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。





## 【八面山振興計画】

発行年月：令和8（2026）年3月  
発行：中津市 三光支所 地域振興課  
〒871-0192 大分県中津市三光原□ 644 番地7  
TEL：0979-43-2050  
URL：<https://www.city-nakatsu.jp/>  
計画策定支援：株式会社ランドスケープむら





# 中津市

Nakatsu City

